

○神地祇を云  
 ○珪幣、幣帛を云珪は古文圭あり珪は瑞玉也以珠玉爲上幣云云より幣帛に用ひたり  
 ○責在朕躬、原本責を貴に作る諸本に據て改む  
 ○撫事思慤、原本撫を憊に作る金本閣本曾本に據て改む撫事思慤は撫は持也又按也とあり事を執りて過愆あらむことを思ふなり慤は愆の俗字  
 ○載懷、原本懷を天に作る金本閣本澁本に據て改む載は字書に則也助語辭、懷は智臆也とあり  
 ○有靈之類云々、尙書泰誓に惟人萬物之靈とあり  
 ○式資聖躬、原本式を或に作る諸本に據て改む  
 ○故殺、此二字諸本及類史なし  
 ○所不免者、金本閣本曾本者字なし  
 ○方欲、原本方を而に作る金本澁本に據て改む  
 ○罔極、原本罔を罔に作る諸本に據て改む下同じ毛詩小雅蓼莪篇に欲報之德昊天罔極とあるに出づ  
 ○宗廟不輕云々、虞書皋陶謨篇に一日二日萬幾無レ曠庶官とあるに出づ

文室、真人於保、紀朝臣作良、紀朝臣本、外從五位下上毛野、公大川、爲御裝束司、六位已下八人、從三位大伴、宿禰家持、高倉、朝臣福信、從四位下吉備、朝臣泉、石川、朝臣豐人、正五位下大神、朝臣末足、紀朝臣犬養、從五位下文室、真人高鳴、文室、真人子老、紀朝臣繼成、多治比、真人濱成、爲山作司、六位已下九人、從五位下縣犬養、宿禰堅魚、麻呂、外從五位下榮井、宿禰道形、爲養役夫、司、六位已下六人、從四位下石川、朝臣垣守、從五位下文室、真人八鳴、爲作方相司、六位已下二人、從五位下文室、真人忍坂、麻呂、從五位下多治比、真人乙安、爲作路司、六位已下二人、又遣使固守三關、○戊申、地震、○庚戌、兵庫、南院、東庫、鳴、○辛亥、勅、曰、昨緣羣卿來奏、天下著服、以六月爲限、但朕孝誠無効、慈蔭長遠、結慕霜葉、無復承顏之日、緬懷風枝、終虧侍謁之期、終身之痛、每深、罔極之懷、彌切、宜改前服、期以一年爲限、自餘行事、一依前勅、○癸丑、當大行天皇、初七、於七、大寺誦經、自是之後、每值七日、於京師、諸寺誦經、焉、又勅、天下、諸國、七七、之日、令國分二寺、見僧尼、奉爲設齋、以追福焉、明年、正月己未、正三

○禮日三度、原本日を曰に作る曾本澁本金イ本に據て改む  
 ○大伴宿禰伯麻呂、考證に依、五月乙亥、紀、大、上疑、脫、正、四位、上、四字、云、リ  
 ○葛井連道依、道字は諸本に據て補ふ  
 ○於保、原本保を伊に作る諸本に據て改む  
 ○從五位下文室真人高鳴、考證に依、寶龜四年正月紀、下、當、作、上、云、云  
 ○文室真人子老、同に依、五月癸未、紀、文、上、疑、脫、從、五位、下、四字、云、云  
 ○榮井宿禰、原本榮を柴に作る閣本曾本澁本及寶龜八年四月甲申紀に據て改む  
 ○結慕霜葉、金本慕を墓に作る蘇轍の詩に故人聚散霜前葉、往事微茫、風際烟さあり  
 ○風枝、風樹といふに同じ家語に出づ  
 ○終身之痛、之字は金本曾本澁本に據て補ふ  
 ○大行天皇、原本大行を太上に作る諸本及紀略に據て改む、大行は史記漢景帝紀注に服虔曰天子死未レ有レ諡稱、大、行、さあり亦文獻通考に魏孫毓曰大行

位藤原、朝臣小黒麻呂、率誅人、奉誅、上尊諡、曰、太宗、高紹、天、皇、○庚申、葬、於、廣、岡、山、陵、天、皇、龍、潛、之、日、與、物、和、光、及、正、位、南、面、臨、馭、億、兆、舉、其、大、綱、不、在、苛、察、官、省、無、用、化、崇、清、肅、是、以、寶、龜、之、中、四、海、晏、如、刑、罰、罕、用、遐、邇、欣、戴、既、而、不、豫、漸、久、慮、怠、萬、機、遂、讓、寶、位、傳、之、元、儲、知、子、之、明、載、遠、貽、孫、之、業、彌、周、可、謂、寬、仁、大、度、有、君、人、德、者、矣、



之稱起於漢氏云々見  
 ○廣岡山陵、大和國添上郡廣岡村にあり延曆五年十月甲申田原陵に改葬し奉れり  
 ○和光、老子第五十六章に出づ  
 ○不在、金イ本及類史在を存に作る  
 ○清肅、原本肅を蘭に作る曾本澁本金イ本に據て改む類史は簡に作る  
 ○罕用、原本罕を無に作る曾本澁本金イ本に據て改む  
 ○欣戴、原本欣を攸に作る金本曾本及類史に據て改む  
 ○知子之明、史記李斯傳に明君知臣明父知子とあるに據る  
 ○彌周、原本周を同に作る金本曾本澁本に據て改む類史は固に作る

續日本紀卷第卅六

續日本紀卷第卅七

起延曆元年正月盡二年十二月

右大臣正二位兼行皇太子傳中衛大將臣藤原朝臣繼繩等奉 勅撰

今皇帝

延曆元年春正月己巳(十六)以從五位下阿倍朝臣祖足爲駿河守從五位下阿倍朝臣石行爲大宰少貳從五位下氷上真人川繼爲因幡守○癸酉(二十)以從五位上大中臣朝臣繼麻呂爲右少辨○癸未(三十)大祓百官不釋素服○閏正月甲子(甲寅朔)因幡國守從五位下氷上真人川繼謀反事露逃走於是遣使固守三關又下知京畿七道搜捕之(シム)以從五位下多治比真人濱成爲左京亮從五位下多治比真人三上爲主馬頭外從五位下荒木臣押國爲助從五位下藤原朝臣眞友爲衛門佐○丙申(十三)地震○丁酉(十四)獲氷上川繼於大和國葛上郡詔曰氷上川繼潛謀逆亂事既發覺據法處斷(スルニ)罪合極刑其母不破內親王反逆近親亦合重罪但以諒闇之始

【延曆元年】大中臣朝臣繼麻呂、朝臣の二字は金本曾本澁本に據て補ふ

（閏正月）甲子、此月甲申朔なれば甲子なし子は午の誤なるべし甲午は十一日なり  
 ○因幡國守、國字は諸本に據て補ふ  
 ○謀反、原本反を叛に作る諸本に據て改む  
 ○主馬頭、頭は首に作るべし  
 ○荒木臣、寶龜四年八月辛亥紀同八年十月辛卯紀等に依れば荒上大の字を脱せしなるべし



○眞友、眞字は諸本に據て補ふ寶龜十一年三月壬午紀證すべし  
 ○水上川繼、天武天皇皇子新田部親王の子鹽燒王の子なり  
 ○潜謀逆亂、逆字は諸本に據て補ふ  
 ○據法處斷、法處の二字は諸本に據て補ふ  
 ○反逆、原本反を返に作る淀本及紀略に據て改む  
 ○哀感、金本曾本淀本感を感じ作る  
 ○移配淡路國、不破内親王は十四年十二月又和泉國に移配せられしこ紀略に見ゆ  
 ○關入、原本關入に作る關本淀本に據て改む、關は關の訛なるべし衛禁律に營門關入者得徒一年さあり關は字書に述也又妄也又無符傳出入爲關さあり  
 ○配伊豆國三嶋、抄郡郷部伊豆國賀茂郡三嶋さあり萩原正平の説に三嶋は東南海嶋の總稱にて國史に伊豆嶋及伊豆三嶋と稱するもの即此なり云云川繼は十五年十二月丙戌勅して課役を免じ廿四年三月壬辰其罪を免ぜられ大

山陵未乾、哀感之情未忍論、刑其川繼者、宜免其死處之遠流、不破内親王并川繼姉妹者、移配淡路國、川繼、鹽燒王之子也、初川繼資人大和乙人私、帶兵仗、闖入宮中、所司獲、而推問、乙人歎云、川繼陰謀、今月十日、夜、聚衆、入自北門、將傾朝廷、仍遣乙人召將其黨宇治王、以赴期日、於是勅遣使追召川繼、川繼聞勅使到、潛出後門而逃走、至是捉獲、詔減死一等、配伊豆國三嶋、其妻藤原法壹亦相隨焉、○戊戌地震、○庚子、以從五位下大中臣朝臣諸魚爲少納言、外從五位下朝原忌寸道永爲大外記、從五位下笠朝臣名麻呂爲近衛少將、從五位下藤原朝臣弓主爲右衛士佐、從四位下紀朝臣古佐美爲左兵衛督、從五位下佐伯宿禰鷹守爲右兵衛佐、從五位下文室真人眞老爲攝津亮、外從五位上河内連三立麻呂爲和泉守、外從五位下佐伯部三國爲駿河介、從五位下藤原朝臣内麻呂爲甲斐守、從五位下安倍朝臣木屋麻呂爲相摸介、從五位上文屋真人高嶋爲下野守、從五位下鹽屋王爲若狹守、中宮少進外從五位下物部多藝宿禰國足爲兼越中、介、從五位上石城王爲因幡守、從

同元年三月庚辰には本位從五位下に復せらる  
 ○藤原法壹、濱成の女なり下に見ゆ  
 ○和泉守、原本大和守に作る諸本に據て改む  
 ○男爲與黨、原本男を思に作る諸本に據て改む男の名は詳ならざるも下文黨與卅五人さある中にあるべし  
 ○隱伎介、金本曾本淀本伎を岐に作る  
 ○職事、家持以下三人を指せり  
 ○二月、大伴宿禰伯麻呂薨、勝寶二年八月庚申紀始見、上野守伊豆守左衛士佐宮内卿越前守衛門督中宮大夫等を歴任す  
 ○馬來田、天武紀望多に作る  
 ○道足、大日本史注に補任以道足爲安麻呂子宋知何據と云り

五位、下安倍朝臣船道爲石見守、從五位下百濟王仁貞爲播磨介、侍從從四位下五百枝王爲兼美作守、從五位下大伴宿禰仲主爲紀伊守、從五位下川村王爲阿波守、左大舍人頭從四位上壹志濃王爲兼讚岐守、從四位下石上朝臣家成爲伊豫守、右衛士佐從五位下藤原朝臣弓主爲兼介、○辛丑、勅大宰府氷上川繼謀反、入罪、員外帥藤原朝臣濱成之女爲川繼妻、男爲與黨、因茲解却濱成所帶參議并侍從、但員外帥如故、左降、正五位上山上朝臣船主爲隱伎介、從四位下三方王爲日向介、以並黨川繼也、○壬寅、左大弁從三位大伴宿禰家持、右衛士督正四位上坂上、大忌寸苅田麻呂、散位正四位下伊勢朝臣老人、從五位下大原真人美氣、從五位下藤原朝臣繼彥等五人、職事者解其見任、散位者移京外、並坐川繼事也、自外黨與、合卅五人、或川繼姻戚、或平生知友、並亦出京外、○二月丙辰、參議從三位中宮大夫兼衛門督大伴宿禰伯麻呂薨、祖馬來田贈内大紫、父道足平城朝參議正四位下伯麻呂勝寶初授從五位下、除上野守、累遷神護中、至從四位下左中弁寶龜中遷宮内卿、尋



○左大弁、金本曾本淀本  
左を右に作るは非なり  
○從三位、金本淀本三を  
二に作る  
○正五位下當麻王、原本  
王を呂に作る金本曾本淀  
本に據て改む又正五位下  
は原本從五位下とあれど  
天應元年十一月己巳紀に  
據るに誤なること明なれ  
ば改む  
○爲左大舍人助、爲字は  
金本曾本淀本に據て補ふ  
○右大舍人頭、曾本淀本  
金イ本右を左に作る

拜參議、宴飲談話頗有風操、天宗高紹天皇寵幸之、尋授正四位上、歷左  
大弁衛門督中宮大夫、加從三位、薨時年六十五、○庚申、以正五位下當  
麻王爲中務大輔、遠江守如故、從五位下文室真人於保爲少輔、從五位  
下大伴王爲大監物、從五位下多治比真人年持爲左大舍人助、從五位  
上笠王爲右大舍人頭、從五位上調使王爲內藏頭、從五位下春階王爲  
縫殿頭、從五位下紀朝臣本爲陰陽頭、正五位下布勢朝臣清直爲民部  
大輔、正五位下巨勢朝臣苗麻呂爲兵部大輔、從四位下安倍朝臣東人  
爲刑部大輔、從五位下大中臣朝臣今麻呂爲大判事、正五位下粟田朝  
臣鷹守爲大藏大輔、從五位下甘南備真人淨野爲宮內少輔、從五位上  
百濟王武鏡爲大膳亮、從五位下縣犬養宿禰堅魚麻呂爲主殿頭、從五  
位下中臣朝臣鷹主爲鑄錢長官、從四位下吉備朝臣泉爲造東大寺長  
官、外從五位下林忌寸稻麻呂爲次官、正五位下榮井宿禰蓑麻呂爲造  
法華寺長官、從五位下紀朝臣作良爲尾張守、民部卿正三位藤原朝臣  
小黑麻呂爲兼陸奥按察使、中衛中將從四位下佐伯宿禰久良麻呂爲

○玲瓏、原本玲を珍に作  
る金本曾本淀本に據て改  
む

○三月、魘魅、金本及類  
史魘を厭に作る魘厭通用  
す

○注、弓削云々、後人の  
加ふる所なるべし  
○隱岐國、金本關本岐を  
伎に作る  
○四月、壹禮比、詳なら  
ず姓氏錄、次條所引に禮  
を呂に作れり  
○豐原連、錄右京諸蕃豐  
原連新羅國人壹呂比麻呂  
之後也、さあり考證に案麻  
上福字脱かさ云へり  
○彫弊、彫或は淵に作る  
彫淵通用す

兼丹波守、從五位下羽栗臣翼爲介、從五位下三嶋真人鳴麻呂爲丹後  
介、左兵衛督從四位下紀朝臣古佐美爲兼但馬守、從五位下紀朝臣眞  
木爲肥前守、外從五位下陽侯忌寸玲瓏爲豐後介、○丁卯、以從四位上  
壹志濃王爲治部卿、讚岐守如故、外從五位下尾張連豐人爲園池正、外  
從五位下林忌寸稻麻呂爲東宮學士、造東大寺、次官如故、從五位下多  
治比真人繼兄爲大宰少貳、從五位下安倍朝臣石行爲豐後守、○辛未、  
空中有聲如雷、○壬申、地動、○三月、辛卯、有虹繞日、○乙未、武藏淡路土  
左等國飢、並賑給之、○戊申、從四位下三方王、正五位下山上朝臣船主、  
正五位上弓削女王等三人坐、同謀魘魅、乘輿、詔滅死一等、三方弓  
削、並配日向國、之妻也、船主配隱岐國、自餘與黨亦據法處之、以從四位  
上藤原朝臣種繼爲參議、○辛亥、以從五位下高倉朝臣殿嗣爲下總介、  
○夏四月、庚申、授正五位上紀朝臣家守從四位下、○癸亥、右京人少初  
位下壹禮比福麻呂等一十五人賜姓豐原連、是日詔曰、朕君臨區宇、  
撫育生民、公私彫弊、情實憂之、方欲屏此興作、務茲稼穡、政遵儉約、財



○錢價既賤、賤字は諸本に據て補ふ  
 ○罷造宮勅旨云々、勅旨省の事は寶字八年十月紀(一〇四頁)に云り法花は造法華寺司なり鑄錢司は數度廢置あり是より先天平七年に置き此に至て廢し九年十月再置く  
 ○府庫之寶、類史寶を實に作る  
 ○但造宮勅旨、但字は諸本に據て補ふ  
 ○重閣門、上(一六三頁)に出づ  
 ○藤原朝臣百能薨、勝寶元年四月甲午紀に始見、金本淀本百有に作るは非なり  
 ○豐成大臣薨後、原本大臣の二字重複す金本淀本に據て削る  
 ○守志、原本志を忌に作る諸本に據て改む  
 ○供奉内職、後宮に奉仕するを云  
 ○見稱貞固、原本見上に已字ありて稱字なし金本曾本淀本に據て補訂す  
 ○諸國兵士、士字は諸本に據て補ふ  
 ○免庸輪調、兵士の徭役を免するこ賦役令に見ゆ又民部式に凡諸國健兒

盈倉廩、今者宮室堪居、服翫足用、佛廟云畢、錢價既賤、宜且罷造宮勅旨、二省、法花鑄錢兩司、以充府庫之寶、以崇簡易之化、但造宮勅旨、雜色匠手、隨其才幹、隸於木工內藏等寮、餘者各配本司、○乙丑、授正六位上文、直人上外從五位下、重閣門白狐見、○戊辰、遣使畿內、祈雨焉、○己巳、尙侍從二位藤原朝臣百能薨、兵部卿從三位麻呂之女也、適右大臣從一位豐成大臣薨後、守志年久、供奉內職、見稱貞固、薨時年六十三、○己卯、以正四位上佐伯宿禰今毛人爲左大弁、山背國言、諸國兵士、免庸輪調、至於左右京、亦免其調、今畿內之國、曾無所優、勞逸不同、請同京職、欲免其調、於是勅免畿內兵士之調、○五月乙酉、授從五位下海上真人三狩從五位上、又下野國安蘇郡主帳外正六位下若麻績部牛養陸奧國人外大初位下安倍信夫、臣東麻呂等獻軍糧、並授外從五位下、○庚寅、諸司直丁、勞廿四箇年已上者八人、賜爵一級、○甲午、陸奧國頃年兵亂、奧郡百姓並未來集、勅給復三年、○丙申、以從五位上調使王爲少納言、○丁酉、散事從四位下福當女王卒、○戊戌、以正四位上坂上

皆免徭役、唯志摩駿河云々等國免徭役、內免課役、○請同京職、原本請を調に作る金本曾本淀本に據て改む  
 (五月)主帳、原本帳を張に作る金本曾本淀本に據て改む  
 ○調使王、原本王を主に作る金本曾本淀本に據て改む  
 ○福當女王卒、寶龜十一年十二月甲午紀に始見  
 ○若田麻呂爲右衛士督、天應元年五月右衛士督なるが氷上川繼の事に坐して罷められ是に至りて復任せり  
 ○爲大判事、内藤廣前曰大上當有判部二字  
 ○大伴宿禰家持、宿禰の二字は金本曾本淀本に據て補ふ  
 ○鹿鳴神、按に神名式に陸奥國黑川郡鹿鳴天足別神社(今陸前國黑川郡富谷村大字大龜にあり)、同日理郡鹿鳴伊都乃比氣神社(今磐城國巨理郡達隈村大字小山にあり)、同郡鹿鳴緒名太神社(伊都乃比氣神社と同殿)、同鹿鳴

大忌寸若田麻呂爲右衛士督、○己亥、以從五位下笠朝臣名麻呂爲左少弁、正四位下藤原朝臣鷹取爲中宮大夫、侍從越前守如故、從五位上笠王爲左大舍人、頭從五位上多治比真人年主爲右大舍人、頭從四位下紀朝臣家守爲內藏頭、右兵衛督如故、從五位下藤原朝臣是人爲大判事、從五位下葛井連根主爲木工助、參議從三位大伴宿禰家持爲春宮大夫、從五位下多治比真人豐濱爲參河守、○壬寅、陸奧國言、祈禱鹿鳴神、討撥凶賊、神驗非虛、望賽位封、勅奉授勳五等封二戶、授外從五位下榮井宿禰道形從五位下、○癸卯、少內記正八位上土師宿禰安人等言、臣等遠祖野見宿禰、造作物象、以代殉人、垂裕後昆、生民賴之、而其後子孫、動預凶儀、尋念祖業、意不在茲、是以土師宿禰古人等前年因居地名改姓菅原、當時安人任在遠國、不及預列、望請土師之字改爲秋篠、詔許之、於是安人兄弟男女六人賜姓秋篠、○六月庚申、從四位下飛鳥田女王卒、○乙丑、左大臣正二位兼大宰帥藤原朝臣魚名坐事、免大臣、其男正四位下鷹取左遷、石見介從五位下末茂土左介從五位下真



天足和氣神社（今磐城國  
亙理郡逢隈村大字鹿嶋に  
あり）同信夫郡鹿嶋神社  
（今岩代國信夫郡杉妻村  
大字島谷野にあり）同磐  
城郡鹿嶋神社（今磐城國  
石城郡鹿嶋村大字上矢田  
にあり）同牡鹿郡鹿嶋御  
兒神社（今陸前國牡鹿郡  
石卷町大字門脇にあり）  
同行方郡鹿嶋御子神社  
（今磐城國相馬郡鹿嶋村  
大字鹿嶋にあり）あり何  
れも鹿嶋の御子神なり此  
に鹿嶋神に祈禱すある  
は常陸の本社なるか此御  
子神なるか詳ならず位封  
を養せられしも常陸の本  
社にはあらざるべく此御  
子神の中ならむと思へ  
尙よく考ふべし  
○野見宿禰云々、天應元  
年六月壬子土師宿禰古人  
の上言に見ゆ  
○不及預列、原本列を例  
に作る曾本淀イ本に據て  
改む  
○秋篠、添下郡の地名な  
り今生駒郡平城村大字秋  
篠是なり  
○六月、飛鳥田女王卒、  
天平十九年正月丙申紀に  
始見寶字五年十月壬戌紀  
内親王に作る

鷲從父並促之任、宋人建麻呂之男女、神野真人淨主、眞依女等十四  
人、弟宇智真人豐公改偽眞人從、本姓初建麻呂、稱仲江王、事發露  
而自經、其男女亦偽爲眞人、至是改正之、和泉國飢、賑給之、是日地震  
○戊辰、授從五位下大原真人室子正五位下、春宮大夫從三位大伴  
宿禰家持爲兼陸奥、按察使鎮守將軍、外從五位下入間宿禰廣成爲介、  
外從五位下安倍、狹嶋臣墨繩爲權、副將軍、散事從四位下多治比真人  
若日卒、○辛未、從五位下巨勢朝臣廣山爲內藏助、外從五位下安都宿  
禰眞足爲大學助、外從五位下長尾忌寸金村爲博士、從五位下葛井連  
根主爲木工頭、外從五位下田邊史淨足爲助、從四位下佐伯宿禰久良  
麻呂爲衛門督、丹波守如故、左大弁正四位上佐伯宿禰今毛人爲兼大  
和守、外從五位下尾張連豐人爲介、從五位下紀朝臣作良爲伊勢守、正  
五位下高賀茂朝臣諸魚爲尾張守、從五位下健部朝臣人上爲武藏介、  
近衛員外、中將從四位下紀朝臣船守爲兼常陸守、內廐頭如故、從五位  
上大伴宿禰弟麻呂爲介、侍從從四位下五百枝王爲兼越前守、從五位

○魚名云々、二年七月庚  
子紀魚名の傳を參考すべ  
し  
○眞鷲、尊卑分脈に據る  
に魚名の長子鷹取次子鷲  
取三子末茂四子藤成五子  
眞鷹あり眞鷲を眞鷹と  
す  
○並促、原本促を役に作  
る淀本に據て改む  
○偽爲眞人、爲字は金本  
曾本淀本に據て補ふ  
○賑給之、給字は金本曾  
本淀本に據て補ふ  
○室子、金本淀本室を屋  
に作る  
○多治比真人若日卒、勝  
寶元年四月甲午紀始見、  
若日實に作る  
○發進、原本進を遣に作  
る諸本に據て改む  
○七月、長藏、倉庫の名  
なり形の長きに依て名づ  
く  
○雜色長上、式部式に諸  
司雜色長上並准、少初位  
官に見えたり種々の職  
業に奉仕して日々出勤す  
る人々なり  
○餅戸、神護元年閏十月

下三國、眞人廣見爲越後介、從四位下吉備朝臣泉爲伊豫守、從四位下  
石上朝臣家成爲大宰大貳、○壬申、詔以大納言正三位藤原朝臣田麻  
呂爲右大臣、中納言正三位藤原朝臣是公爲大納言、從四位下紀朝臣  
家守爲參議、又以從四位下紀朝臣家守爲中宮大夫、內藏頭如故、從五  
位下佐伯宿禰鷹守爲左兵衛佐、從四位下五百枝王爲右兵衛督、侍從  
越前守如故、從五位下紀朝臣木津魚爲佐、從五位下正月王爲備後守、  
從五位下紀朝臣眞子爲土左守、授正四位上佐伯宿禰今毛人從三位、  
從四位上石川朝臣名足紀朝臣船守藤原朝臣種繼並正四位下、○戊  
寅、以從四位下紀朝臣古佐美爲左中弁、左兵衛督但馬守如故、從五位  
下多治比真人乙安爲右少弁、○己卯、大宰帥藤原朝臣魚名到攝津國、  
病發不堪進途、勅宜待病愈、然後發進、○秋七月甲申、雷雨、大藏東長藏  
災、內廐寮馬一疋震死、○壬辰、勅解却雜色長上五十四人、廢餅戸散  
樂戶、○壬寅、松尾山寺僧尊鏡、生年百一歲、請入內裏、叙位大法師、優高  
年也、○丙午、詔曰、朕以不德、臨馭寰區、憂萬姓之未康、憫一物之失所、



紀に造餅戸さある是なり  
 ○散樂戸、散樂は唐書樂志に散樂者非部伍之聲俳優歌舞雜奏漢以來又有雜伎、其變非一名爲百戲、亦總謂之散樂さあり雜樂を云  
 ○松尾山寺、山城志に在葛野郡松尾社城内今曰神宮寺あり  
 ○尊鏡、類史鏡を饒に作る  
 ○憫一物之失所、後漢沖帝紀に一物不得其所若言爲之さあるに出づ  
 ○懸磬之室、左傳僖廿六年に室如懸磬野無青草さあるに出づ懸磬さは物の盡きて一物もなきを云  
 ○民父母、尙書秦誓に元后作民父母さあり  
 ○願彼有罪云々、同湯詔に其爾万方有罪有予一人さあるに據れり  
 ○何令、原本令を命に作る金本定本に據て改む  
 ○正八位上於保磐城臣、金本定本正を從に作る  
 ○勅旨宮、詳ならず井上頼國翁曰く按近江國甲賀郡勅旨村保良宮同處歟云り  
 ○縞素、縞は白色の絹に

況復去歲無稔、懸磬之室稍多、今年有疫、天殍之徒不少、朕爲民父母、撫育乖術、靜言於此、還慙於懷、又願彼有罪、責深在予、若非滌蕩、何令自新、宜可大赦天下、自天應二年七月廿五日、味爽已前、大辟已下、罪無輕重、已發覺、未發覺、已結正、未結正、繫囚見徒、悉皆赦除、但犯八虐及故殺人、私鑄錢、強竊二盜、常赦所不免者、不在赦限、若入死罪者、並減一等、鰥寡、惇獨、貧窮、老疾、不能自存者、量加賑恤、是日地震、○丁未、授女孺從七位上山口、忌寸家足、正八位上於保磐城、臣御炊、並外從五位下、○戊申、天皇移御、勅旨宮、○庚戌、右大臣已下、參議已上、共奏、稱頃者災異荐臻、妖徵並見、仍命龜筮占求、其由神祇官陰陽寮並言、雖國家恒祀依例奠幣、而天下縞素、吉凶混雜、因茲伊勢大神及諸神社、悉皆爲祟、如不除凶、就吉、恐致聖體不豫、歟、而陛下因心至性、尙終孝期、今乃醫藥在御、延引旬日、神道難誣、抑有由焉、伏乞忍曾閔之小孝、以社稷爲重任、仍除凶服、以充神祇、詔報曰、朕以霜露未變、荼毒如昨、方遂諒闇、以申罔極、而羣卿再三執奏、以宗廟社稷爲喻、事不獲已、一依來奏、其諸

てこれは喪服を云  
 ○爲崇、原本崇を崇に作る狩谷校本に崇當作崇さあるに據て改む  
 ○因心至性、因心は毛詩大雅皇矣の章に維此王季、因心則友、傳に因親也、箋に王季之心親而又善於宗族さあり、親親の心即ち孝心を云  
 ○尙終孝期、原本終を給に作る金本閣本定本に據て改む  
 ○神道難誣、伊勢を始め諸社の崇ありて事實争ひ難きを云  
 ○忍曾閔之小孝、曾閔は曾參、閔損の兩人を云論語に見ゆ  
 ○以充神祇、考證に充猶當謂答神祇之望也さあり  
 ○八月、黑麻呂、原本黒を里に作る金本曾本定本に據て改む下同じ  
 ○建元、漢書武帝紀注に師古曰、自古帝王未有年號、始起於此さあり、建元さば年號を建つる云  
 ○因循、原本循を脩に作る曾本定本に據て改む  
 ○登祚開元云々、即位すれば必ず改元し瑞祥あれば必ず年を改むるを云  
 ○託于王公之上、原本託

國釋服者、待祓使到、祓潔國內、然後乃釋、不得飲酒、作樂、并著雜彩、○八月辛亥朔、百官釋服、○己未、遣治部卿從四位上壹志濃王、左中弁從四位下紀朝臣古佐美、治部大輔從五位上藤原朝臣黑麻呂、主稅頭從五位下榮井宿禰道形、陰陽頭從五位下紀朝臣本、大外記外從五位下朝原忌寸道永等、六位已下解陰陽者、合一十三人、於大和國行相山陵之地、爲改葬、天宗高紹天皇也、○庚申、以外從五位下田邊史淨足爲伊豆守、○己巳、詔曰、殷周以前、未有年號、至于漢武、始稱建元、自茲厥後、歷代因循、是以繼體之君、受禪之主、莫不登祚開元、錫瑞改號、朕以寡德、纂承洪基、託于王公之上、君臨寰宇、既經歲月、未施新號、今者宗社降靈、幽顯介福、年穀豐稔、徵祥仍臻、思與萬國嘉此休祚、宜改天應二年、曰延暦元年、其天下有位及伊勢大神宮、禰宜大物忌內人、諸社禰宜祝、并内外文武官、把笏者、賜爵一級、但正六位上者、迴授一子、其外正六位上者、不在此限、○乙亥、以從五位上安倍朝臣常鳴爲圖書頭、從五位下八上王爲內禮正、正五位下石川朝臣眞守爲式部、大輔武藏守



心託に作る金本曾本淀本に據て改む  
○其外正六位上者、上字は金本曾本に據て補ふ

○右兵庫頭、金本曾本淀本右心左に作る  
○辛亥、是月庚申朔なれば辛亥なり辛卯の訛なるべし辛卯は十二日なり  
○十月、多度神、神名式伊勢國桑名郡多度神社名神大、今同郡多度村大字小山に鎮座國幣大社たり  
○十一月、田村後宮、其址今詳ならず光仁天皇龍前守に作る

○九月、肥後守、淀本肥前守に作る

如故、從五位下多治比真人濱成、爲少輔、外從五位下和史國守、爲園池正、從五位下川邊朝臣淨長、爲主油、正從五位下文室真人忍坂麻呂、爲左京亮、左少弁從五位下笠朝臣名麻呂、爲兼近衛少將、從五位下多治比真人三上、爲左衛士佐、正五位下粟田朝臣鷹守、爲主馬頭、從五位下石川朝臣美奈伎麻呂、爲安房守、外從五位下伊勢朝臣水通、爲下野介、大學頭、從四位下淡海真人三船、爲兼因幡守、文章博士如故、右大弁正四位下石川朝臣名足、爲兼美作守、○丙子、授正五位上因幡國造淨成女、從四位下、○九月乙酉、以從五位下紀朝臣本、爲肥後守、○戊子、以從五位上藤原朝臣黑麻呂、爲右中弁、從五位下廣川王、爲右大舍人頭、正五位下榮井宿禰養麻呂、爲陰陽頭、從五位上大中臣朝臣繼麻呂、爲治部大輔、從五位上多治比真人年主、爲大藏大輔、神祇伯從四位上大中臣朝臣子老、爲兼右京大夫、從五位下積殖王、爲右兵庫頭、從五位下甘南備真人淨野、爲肥前守、○辛亥、以內匠頭正五位下葛井連道依、爲兼中宮亮、○冬十月庚戌朔、叙伊勢國桑名郡多度神、從五位下、○十一月

潛の日居給ふ寶龜六年三月己未紀に云り  
○今木大神、延曆十三年平野祭神四社の一として祀らる元此田村後宮に齋祭られ給ひしこ本紀に明なり桓武天皇御母贈皇太后高野氏の祖百濟純陀太子を祀れり云  
○木津、木字は諸本に據て補ふ  
○唱導、唱言に同じ  
○木津忌寸、錄左京諸蕃木津忌寸後漢靈帝三世孫阿智使主之後也とあり  
○十一月、小塞宿禰、小塞は尾張國中嶋郡小塞(乎世木)郷是なり此地名に據れり尾張氏纂記に尾張氏の流にて尾闕氏は今に尾張と筑後にあり云  
○尾張姓、姓氏錄に尾張宿禰同連見ゆ  
○公廨之設云々、交替式十七年四月七日官符に此文を載すれど小異あり九年十一月乙丑及寶字元年十月乙卯紀等を參看すべし  
○國儲、交替式に載れる廿二年二月廿二日の官符に詳なり  
○税帳、主税式に詳なり  
○甚乖、原本甚を其に作る

辛卯、有光挾日、其形圓而色似虹、日上復有光向日、長可二丈、○丁酉、叙田村後宮今木大神、從四位上、○丁未、式部史生正八位下倭漢忌寸木津吉人等八人言、吉人等是阿智使主之後也、是以蒙賜忌寸之姓、可注倭漢木津忌寸、而誤記倭漢忌寸木津、姓字繁多、唱導不穩、望請除倭漢二字、爲木津忌寸、許之、○十二月庚戌、內掃部正外從五位下小塞宿禰弓張言、弓張等二世祖近之里、庚寅歲以降、因居地名、從小塞姓、望請依庚午年籍、改換小塞蒙賜尾張姓、許之、○壬子、勅太上天皇周忌御齋、當今月廿三日、宜令天下諸國國分二寺見僧尼奉爲誦經焉、又詔曰、公廨之設、先補欠負、次割國儲、然後作差處分、如聞諸國曾不遵行、所有公廨、且以費用、至進稅帳、詐注未納、因茲前人滯於解由、後人煩於受領、於事商量、甚乖道理、又其四位已上者、冠蓋既貴、榮祿亦重、授以兼國、佇聞善政、今乃苟貪公廨、徵求以甚、至于遷替、多無解由、如此不責、豈曰皇憲、自今以後、遷替國司、滿百廿日、未得解由者、宣奪位祿食封、以懲將來、○癸亥、近江國坂田郡人少初位上比瑠臣麻呂等、改本姓、賜



淨原臣、○丙寅散事正四位下巨勢朝臣巨勢野卒、○辛未是日太上天皇周忌也、於大安寺設齋焉、百官參會、各供其事、○壬申詔曰、禮制有限、周忌云畢、元會之日、事須賀正、但朕乍除諒闇、哀感尙深、霜露既變、更增陟帖之悲、風景惟新、彌切循陔之戀、來年元正、宜停賀禮焉。

る淀本金イ本及交替式に據て改む  
○四位已上者云々、冠蓋は蓋を蓋さなり四位以上は蓋を用ふるを得其制儀制令に見ゆ故に冠蓋既貴云云榮祿は祿は俸也居官所給與と見え其制祿令に詳なり祿は位階の高下に依て四季に之を賜ひ三位以上は別に食封を賜ふ四位五位は之に換ふるに縮綿布庸布を以てす此外に位田あり其制田令に見ゆ四位以上は五位以下に比して其數何れも多きを以て榮祿亦重し云云  
○比瑠臣、姓氏録に見えず淨原臣亦同じ  
○巨勢朝臣巨勢野卒、神護二年十一月紀に始見  
○陟帖、毛詩唐風陟帖篇あり序に陟帖孝子行役念父母也とあり帖は草木の繁れる山にて其を陟るにつけても故郷の父母を遙かに偲ぶるゝとなり  
○切循陔之戀、原本循陔之戀に作る條は循の訛陔は閩本淀本に據て戀は類史に據て改む毛詩小雅に南陔篇あり序ありて詩なし文選東廣徵補亡詩に之を補ひて南陔孝子相戒以養也、循彼南陔言採其蘭云々とあり之に據れり

〔延曆二年〕

〔借差、曾本〕

二年春正月戊寅朔、廢朝也、授正六位上阿倍朝臣眞黑麻呂從五位下、是日勅内親王及内外命婦、服色有限、不得僭差、比來所司寬容、曾不

○閩關、史記李斯傳に見ゆ里中の門をいひ轉じて民間の人を云  
○眞以常科、原本眞を算に作る金本に據て改む眞は處置するを云  
○推挹、推し進むるを云  
○道嶋宿禰嶋足卒云々、卒字及卒下の嶋足の二字は諸本に據て補ふ嶋足は神護二年二月己亥紀に始見、傳は此に見ゆ  
○志氣、金本閩本淀本此二字なし  
○素、金本閩本淀本に

禁制、至于閩關肆塵、恣著禁色、既無貴賤之殊、亦虧等差之序、自今以後、宜嚴禁斷、如有違越、眞以常科、事具別式、○辛巳、陰陽頭正五位下榮井宿禰、衰麻呂、今年始登八十、仍詔賜純布米鹽、衰麻呂、經明行修、清慎夙著、後進之輩、所推挹也、故有此賞、○乙酉、正四位上道嶋宿禰嶋足卒、嶋足、本姓牡鹿、連陸奧國牡鹿郡人也、體貌雄壯、志氣驍武、素善馳射、寶

○授刀將曹、授刀衛に將監將曹なし將監は即大小尉にして將曹は大小志なり此は追書せるなるべし  
○將監、五年正月苅田麻呂本傳及寶字八年九月乙巳紀には並に少尉に作る  
○閩門、原本閩を閩に作る曾本淀本及類史に據て改む  
○伊香賀王、三月己丑紀及六月丙寅紀に伊賀香王に作る

○藤原朝臣雄友、原本友を友に作る金本曾本に據て改む  
○賀祐、山崎校本に祐或は祐歟とあり  
○麻田連、原本田を呂に作る金本曾本淀本及延曆六年二月紀に據て改む  
○格勤、原本此二字倒置す金本淀本に據て訂す  
○吉彌侯、原本彌を於に作る金本曾本淀本に據て改む

字中、任授刀將曹、八年惠美訓儒麻呂之劫、勅使也、嶋足與將監坂上苅田麻呂奉詔疾馳、射而殺之、以功擢授從四位下勳二等、賜姓宿禰、補授刀少將兼相摸守、轉中將、改本姓賜道嶋宿禰、尋加正四位上、歷內廐頭下總播磨等守、○戊子、授女孺無位和史家吉外從五位下、○癸巳、天皇御大極殿、閩門、賜宴於五位已上、授從五位下廣川王從五位上、正六位上伊香賀王從五位下、正五位上大伴宿禰潔足、佐伯宿禰眞守、並從四位下、正五位下石川朝臣眞守、巨勢朝臣苗麻呂、並正五位上、從五位下藤原朝臣菅繼、文室真人與企、中臣朝臣鷹主、紀朝臣家繼、並從五位上、正六位上大伴宿禰眞麻呂、藤原朝臣雄友、紀朝臣男仲、石川朝臣淨繼、高橋朝臣船麻呂、佐伯宿禰弟人、上毛野朝臣鷹養、田口朝臣大立、紀朝臣田長、穗積朝臣賀祐、並從五位下、正六位上土師宿禰公足、吉田連季元、麻田連眞淨、並外從五位下、宴訖、賜祿有差、○丁酉、紀朝臣木津魚、吉彌侯、橫刀等八人、夙夜在公、恪勤匪懈、於是詔並進其爵、授從五位下紀朝臣木津魚、從五位上、外從五位下吉彌侯、橫刀、正六位



○嶋田臣、錄右京皇別嶋田臣多朝臣同祖神八井耳命之後也五世孫武惠賀前命孫仲臣子上稚足彥天皇謚成務御代尾張國嶋田上下二縣有惡神遺子上平服之復命之日賜號嶋田臣也○筑紫史、錄左京諸蕃筑紫史陳思王一名東阿之後也○あり四年二月改て野上連の姓を賜はる  
○大村直、原本村を材に直を眞に作る諸本に據て改む  
○仁貞、關本貞を眞に作る  
○吉子、原本子を平に作る金本澁本に據て改む  
○飽浪王、以下尾張王八上王犬甘王四王下恐脫女字と狩谷氏云  
○邑刀自、原本邑を色に作る寶龜七年正月八年正月紀等に據て改む  
○彥子、寶龜七年正月丙申紀同八年正月癸亥紀並に産子に作る  
○從四位上藤原朝臣、從

上橘朝臣入居三嶋真人名繼並從五位下正六位上出雲臣嶋成嶋田臣宮成筑紫史廣嶋津連眞道並外從五位下○庚子授正六位上紀朝臣安提從五位下是日地震○甲辰授正六位上大村直池麻呂外從五位下乙巳饗大隅薩摩隼人等於朝堂其儀如常天皇御閣門而臨觀詔進階賜物各有差○二月壬子天皇御大極殿詔贈故式部卿藤原朝臣百川右大臣又授正五位下當麻王正五位上無位若江王從五位下從五位下百濟王仁貞安倍朝臣謂奈麻呂並從五位上正六位上忌部宿禰人上外從五位下從三位藤原朝臣曹子無位藤原朝臣乙牟漏並正三位無位藤原朝臣吉子從三位從四位下飽浪王尾張王並從四位上無位八上王犬甘王並從五位下正四位下藤原朝臣教基紀朝臣宮子平羣朝臣邑刀自藤原朝臣彥子並正四位上從四位上藤原朝臣諸姉正四位下正五位下大原真人室子從四位下從五位下武藏宿禰家刀自大宅朝臣宅女並正五位下從五位下草鹿酒人宿禰水女美努宿禰宅良足羽臣眞橋並從五位上外從五位下平群豐原朝臣靜女若

四位上の四字は金本曾本澁本に據て補ふ  
○諸姉、原本諸姉に作る金本曾本澁本及四年正月乙巳紀に據て改む  
○美努宿禰、原本努を奴に作る金本曾本澁本に據て改む  
○平群豐原朝臣、他に見えず  
○甘刀自、金本澁本甘を耳に作る  
○山宿禰、考證に案山宿禰即山部宿禰五年四月改山部爲山此云山宿禰蓋追書也云り  
○他田舍人眞枚女、原本他を池に作る關本忠本に據て改む  
○文部、原本丈を大に作る金本澁本及三年六月己酉紀に據て改む  
○調使王、以下三十七字關本闕く

湯坐宿禰子虫無位藤原朝臣甘刀自紀朝臣須惠女安倍朝臣黑女藤原朝臣兄倉坂上大忌寸又子三嶋宿禰廣宅山宿禰子虫並從五位下正七位上他田舍人眞枚女外從五位下○甲寅正三位藤原朝臣乙牟漏從三位藤原朝臣吉子並爲夫人○丙辰授正五位下紀朝臣犬養正五位上○癸亥授無位安倍朝臣安倍刀自從五位下○庚午復文部大麻呂本位從五位下○辛未授從七位下小治田朝臣古刀自從五位下○壬申以從五位下春階王藤原朝臣園人並爲少納言外從五位下物部多藝宿禰國足爲中宮大進外從五位下上毛野公薩摩爲內藏助從五位下巨勢朝臣廣山爲縫殿頭從五位上多治比真人宇美爲民部少輔從五位下紀朝臣田長爲主計頭從五位下穗積朝臣賀祐爲主稅頭正四位下紀朝臣船守爲近衛中將內廐頭常陸守如故從五位下紀朝臣千世爲中衛少將外從五位下尾張宿禰弓張爲伊賀守從五位上文室眞人與企爲相摸介從五位下吉彌侯橫刀爲上野介從五位上調使王爲越中守從五位上上毛野朝臣稻人爲越後守從五位下積殖王爲



○播磨守、原本磨を摩に作る金本淀本に據て改む

○豐次、原本次を攻に作る金本淀本に據て改む寶龜十年正月甲子紀證さすべし

(三月)國造、原本國守に作る金本曾本淀本に據て改む、丹波國造は國造本紀に志賀高穴爾朝御世以尾張國造同祖建稻種命四世孫大倉岐命定賜國造とあり

○藤原朝臣田麻呂、寶字五年正月丁未紀に始見傳は此に見えたるが如し

丹後守、從五位上桑原公足床、爲伯耆介、右大弁正四位下石川朝臣名足、爲兼播磨守、近衛將曹外從五位下筑紫史廣鳴、爲兼大掾、從五位下藤原朝臣雄友、爲美作守、東宮學士外從五位下林忌寸稻麻呂、爲兼介、從五位下甘南備真人豐次、爲備前介、從五位下榮井宿禰道形、爲備中守、從五位下陽侯王、爲安藝守、從五位下大伴宿禰眞麻呂、爲大宰、少貳、從五位下爲奈、真人豐人、爲筑後守、○丙子、授從五位下宗形、王從五位上、○三月戊寅朔、授正六位上下毛野朝臣年繼、從五位下、○己丑、以從四位下豐野真人奄智、爲中務、大輔、從五位下伊賀香王、爲雅樂頭、正五位上當麻王、爲大膳、大夫、外從五位下忌部宿禰人上、爲主油、正從五位下紀朝臣安提、爲左京亮、從四位下和氣朝臣清麻呂、爲攝津大夫、從五位下文室真人忍坂麻呂、爲造東大寺次官、從五位上當麻真人得足、爲和泉守、○庚寅、丹後國丹波郡人正六位上丹波直眞、養任國造、○丙申、右大臣從二位兼行近衛大將皇太子、傳藤原朝臣田麻呂、薨、田麻呂、參議式部卿兼大宰帥正三位宇合之第五子也、性恭謙、無競、於物天平

○隱岐、原本隱伎に作る金本曾本淀本に據て改む  
○嵯淵山、南淵山に同じ大和志に南淵山、在高市郡稻淵村とあり今同郡高市村大字稻淵是なり田麻呂此山に隱栖す故に世に南淵大臣と號す  
○南海道、原本西海道に作る寶字五年十一月丁酉紀に據て改む

○下毛野朝臣、姓氏錄左京皇別に見ゆ

(四月)大石村主、原本村主を村の一字に作る堀本に據て改む天平十七年正月乙丑紀大石村主廣嶋見ゆ亦同族なり  
○大山忌寸、錄右京諸蕃に大山忌寸高岳宿禰同祖廣陵高穆之後也とあり  
○比年、格に比來に作る金本曾本淀本及格に據て改む  
○寛宥、原本寛免に作る金本曾本淀本に據て改む  
○軍法、格憲法に作る  
○侵漁之徒、漁夫が魚を捕盡すが如く他人の物を奪盡す徒輩を云  
○濁濫、格には倒置す

十二年、坐兄廣嗣事、流於隱岐、十四年、宥罪徵還、隱居嵯淵山中、不預時事、敦志釋典、脩行爲務、寶字中、授從五位下、爲南海道節度使、副、歷美濃守、陸奥按察使、稍遷、神護初、授從四位下、拜參議、歷外衛大將、大宰、大貳兵部卿、寶龜初、授從三位、拜中納言、轉大納言、兼近衛大將、延曆元年、進爲右大臣、授從二位、尋加正二位、薨、時年六十二、○戊戌、從五位下吉彌侯、橫刀、正八位下吉彌侯、夜須麻呂、並賜姓下毛野朝臣、外正八位上吉彌侯、間人同姓總麻呂、並賜姓下毛野公、○夏四月戊申、右京人從八位上大石村主男足等、賜姓大山忌寸、○庚申、勅改小殿親王、名爲安殿親王、○辛酉、勅曰、如聞、比年坂東八國、運穀鎮所、而將吏等、以稻相換、其穀代者、輕物、送京、苟得無恥、又濫役鎮兵、多營私田、因茲鎮兵疲弊、不任干戈、稽之憲典、深合罪罰、而會恩蕩、且從寬宥、自今以後、不得更然、如有違犯、以軍法罪之、宜加捉搦、勿令侵漁、之徒肆其濁濫、○甲子、詔立正三位藤原夫人爲皇后、是日、引侍臣宴飲、賜祿有差、授正四位下藤原朝臣種繼、從三位、從五位下葛井連根主、從五位上、正六



○蠻夷猾夏、尙書舜典に出づ  
 ○加徂征於有苗、同大禹謨に惟時有苗弗率汝徂征とあるに出づ有苗は一に三苗と云南方蠻族の名○奮薄伐於獫狁、毛詩小雅六月章に薄伐獫狁とあり獫狁は北狄の名、薄は發語なり  
 ○頃年、年字は開本曾本に據て補ふ  
 ○悅而使之、易兌卦象傳に說以先民民忘其勞とあり  
 ○愛民、宮本愛を憂に作る  
 ○贊田物部首、舊事紀饒速日尊天降の時供奉天物部等二十五部中に筑紫贊田物部あり蓋是なり  
 ○越智池、大和志に在高市郡北越智村今稱上池今同郡新澤村大字北越智是なり  
 ○兵部大輔、金本淀本大を少に作る  
 ○天平十三年二月、三代格月下に十四日三字あり但本年の紀は三月乙巳に係く乙巳は三月廿四日なり  
 ○必令有、原本令を合に作る金本曾本淀本及格に

位上飛鳥戸造弟見外從五位下命婦從五位下藤原朝臣綿手從五位上○乙丑勅坂東諸國曰蠻夷猾夏自古有之非資干戈何除民害是知加徂征於有苗奮薄伐於獫狁前王用兵良有以也自頃年夷俘猖狂邊垂失守事不獲已頻動軍旅遂使坂東之境恒疲調發播殖之輩久倦轉輸念茲勞弊朕甚愍之今遣使存慰開倉優給悅而使之者寔惟哲王之愛民乎凡厥東土悉知朕意焉○丙寅授正六位上贊田物部首年足外從五位下以築越智池也左大弁從三位佐伯宿禰今毛人為兼皇后宮大夫大和守如故近衛少將從五位下笠朝臣名麻呂為兼亮左京人外從五位下和史國守等卅五人賜姓朝臣○壬申從五位下大伴宿禰繼人為左少辨從五位下路真人玉守為大監物從五位上海上真人三狩為兵部大輔從五位下巨勢朝臣總成為遠江介正五位下布勢朝臣清直為上總守○甲戌授正六位上藤原朝臣繩主從五位下先是去天平十三年二月勅處分每國造僧寺必令有廿僧者仍取精進練行操履可稱者度之必須數歲之間觀彼志性始終無變乃聽入道

據て改む  
 ○乃聽入道、格に此下に者字あり

○五月繁多、格此下に觸途念劇の四字あり

○少外記二人、二人の二字は金本曾本淀本に據て補ふ  
 ○今爲正七位上官、上字は金本曾本淀本に據て補ふ  
 ○是日勅曰、曰字は金本曾本淀本に據て補ふ  
 ○託其鄉親、原本託を陀に作る金本曾本淀本に據て改む下同じ

○大宰大貳、金本淀本大貳を少貳に作る恐くは非なり  
 ○六月殊甚、原本已甚に作る金本曾本淀本に據て改む

而國司等不精試練每有死闕妄令得度至是勅國分寺僧死闕之替宜以當土之僧堪爲法師者補之自今以後不得新度仍先申闕狀待報施行但尼依舊○五月丁亥太政官奏傳外記之官職務繁多詔勅格令自此而出至於官品實合昇進其大外記二人元正七位上官今爲正六位上官少外記二人元從七位上官今爲正七位上官臣等商量改張伏聽天裁奏可之是日勅曰大宰帥正二位藤原朝臣魚名老病相仍留滯中路宜令還京託其鄉親○己丑授從五位下多治比真人三上從五位上○辛卯授正五位上石川朝臣眞守從四位下以正五位上巨勢朝臣苗麻呂為左中弁從四位下紀朝臣古佐美為式部大輔左兵衛督但馬守如故正五位上大伴宿禰益立為兵部大輔從四位下石上朝臣家成爲造東大寺長官從五位下橘朝臣入居爲近江介右衛士少尉外從五位下津連眞道爲兼大掾從四位下石川朝臣眞守爲大宰大貳從五位下賀茂朝臣人麻呂為筑後守○六月丙午朔出羽國言寶龜十一年雄勝平鹿二郡百姓爲賊所略各失本業彫弊殊甚更建郡府招集



○口田、口分田なり  
○爲梗、王命を拒みて従はぬを云

○同日皇民、原本曰を日に作る淀本に據て改む  
○郡司子弟、司は金本會本淀本に據て補ふ  
○淨宥、原本宥を岩に作る諸本に據て改む下同じ  
○免條、原本條を條に作る金本會本淀本に據て改む  
○不失事機、原本不失を可告に作る金本會本淀本に據て改む事の機會を失はしむることを勿れさなり  
○勅曰云々、三代格此官符を載せたるが小異あり  
○禁斷、類史禁制に作る  
○將田宅云々、田令に凡官人百姓並不得將田宅園地捨施賣易與寺寺さあり  
○佐伯沼田連、仁德紀三十八年猪名縣佐伯部獻苞直云々令有司移郷于安藝淳田と見えたるは此祖先なるべし

○高倉朝臣福信、此人寶龜元年八月丁巳造宮卿を以て兼武藏守と爲るを見えたればこゝに又爲兼武藏守とあるは再任せられしなるべし  
○大中臣朝臣安遊麻呂、朝臣の二字は諸本及天應元年四月紀に據て補ふ  
○七月、從六位上金肆順、六位の二字は金本會本淀本に據て補ふ  
○海原連、録左京諸蕃海原連新羅國人進廣肆金加志毛禮之後也とあり  
○秦人部、同右京諸蕃秦人太秦公宿禰同祖秦公酒之後也また攝津諸蕃秦人秦忌寸同祖弓月王之後也とあり  
○本姓車持、原本本を大に作る金本會本淀本に據て改む  
○民部少輔、曾本淀本民を式に作る

散民、雖給口田、未得休息、因茲不堪、備進調庸、望請蒙給優復、將息弊民、勅給復三年、○辛亥、勅曰、夷虜亂常、爲梗未已、追則鳥散、捨則蟻結、事須練兵、教卒備其寇掠、今聞坂東諸國、屬有軍役、每多尫弱、全不堪戰、卽有雜色之輩、淨宥之類、或便弓馬、或堪戰陣、每有徵發、未嘗差點、同日皇民、豈合如此、宜仰坂東八國、簡取所有散位、子郡司、子弟及淨宥等類、身堪軍士者、隨國大小、一千已下、五百已上、專習用兵之道、並備身裝、卽入色之人、便考當國、白丁免條、仍勒堪事國司一人、專知勾當、如有非常、便卽押領奔赴、不失事機、○乙卯、勅曰、京畿定額、諸寺其數有限、私自營作、先既立制、比來所司寬縱、曾不糾察、如經年代、無地不寺、宜嚴加禁斷、自今以後、私立道場、及將田宅園地、捨施并賣易與寺、主典已上、解却見任、自餘、不論蔭贖、決杖八十、官司知而不禁者、亦與同罪、○乙丑、右京人外從五位下佐伯部三國等、賜姓佐伯沼田連、○丙寅、從五位上中臣朝臣鷹主爲神祇大副、從五位上文室真人波多麻呂爲雅樂頭、從五位上多治比真人宇美爲民部大輔、從五位下紀朝臣豐庭

爲少輔、從四位下多治比真人長野爲刑部卿、從五位下賀茂朝臣大川爲大藏少輔、從五位下藤原朝臣繩主爲中衛少將、彈正尹從三位高倉朝臣福信爲兼武藏守、從五位下伊賀香王爲若狹守、從五位下大中臣朝臣安遊麻呂爲播磨介、從五位上百濟王仁貞爲備前介、授外從五位下尾張連豐人從五位下、○秋七月癸巳、左京人散位從六位上金肆順賜姓海原連、右京人正六位上金五百依海原造、越前國人外正七位上秦人部武志麻呂依請、賜本姓車持、○甲午、詔以大納言正三位藤原朝臣是公爲右大臣、中衛大將如故、中納言正三位藤原朝臣繼繩爲大納言、中務卿如故、從三位大伴宿禰家持爲中納言、春宮大夫如故、正四位下石川朝臣名足紀朝臣船守並授正四位上、從五位下笠朝臣名麻呂從五位上、正六位上布勢朝臣大海從五位下、○戊戌、勅石見國介正四位下藤原朝臣鷹取土左國介從五位下藤原朝臣末茂等、令得入京、○庚子、從三位藤原朝臣種繼爲式部卿兼近江按察使、左衛士督如故、從五位上中臣朝臣常爲民部少輔、從五位上藤原朝臣菅繼爲主計頭、



○小黒麻呂、原本黒を里に作る諸本に據て改む  
○藤原朝臣魚名薨、薨字及其下の魚名の二字は諸本に據て補ふ傳は此に見えたるが如し

○疇庸、庸は功也孟子盡心篇に利之而不庸さあり疇は酬也功に酬ゆるを云

○乃祖乃父、不比等及び房前を云

○風猷、風教道徳なり古事記序に繩風猷於既類と見ゆ

○伏時、伏疑誤字と考證に云

○八月、石川朝臣毛比卒、原本毛比を比登に作る金本閣本淀本に據て改む毛比は靈龜四年二月紀に始見

從五位下石川朝臣宿奈麻呂爲兵部少輔從五位下布勢朝臣大海爲典藥頭參議民部卿正三位藤原朝臣小黒麻呂爲兼左京大夫從五位下紀朝臣田長爲伊豫介大宰帥正二位藤原朝臣魚名薨魚名贈正一位太政大臣房前之第五子也天平末授從五位下補待從稍遷寶字中至從四位宮内卿神護二年授從三位爲參議寶龜初加正三位拜大納言尋兼中務卿八年授從二位年已長老次當輔政拜爲内臣未幾有勅改號忠臣十年進爲内大臣天應元年授正二位俄拜左大臣兼大宰帥延曆元年坐事免大臣出之任所至攝津國病發留連有勅聽便留別業以加療焉居一年召還京師薨時年六十三詔別賜緇布米鹽及役夫等○乙巳詔曰疇庸叙功彰于舊典赦過宥罪著自前經故大宰帥正二位藤原朝臣魚名乃祖乃父世著茂功或盡忠義而事君或宣風猷以伏時言念於此無忘于懷今故贈以本官酬其先功宜去延曆元年六月十四日所下詔勅官符等類悉皆燒却焉○八月辛酉散事從四位下石川朝臣毛比卒○壬戌授從七位下上道臣千若女外從五位

○眞神宿禰、錄大和諸蕃眞神宿禰漢福徳王之後也とあり

○九月、壬戌、天武紀八年正月に壬戌の文字見ゆ王氏と云に同じ壬戌は王の稱號を稱へ得る人を入るに別れに壬といふ姓あるにはあらず

○山村王、考證に聖武以後紀山村王數見事蹟具景雲元年十二月本傳與此自別人不可混也と云

○依格、格文見えず

○百姓之例、曾本淀本例を列に作る

○十月、乙巳朔庚戌、朔を擧て日を書する例文武

○深匪允愜、愜は字書に快也志滿也とあり尤に適當ならざるを云

○交野、河内國交野郡にあり今北河内郡交野村なり

○百濟王等云々、河内志に百濟王故居在交野郡中宮村とあり今北河内郡山田村の大字とされり

○百濟寺、同に百濟廢寺在交野郡中宮村百濟王廟内礎石今尙存とあり

○眞善、金本及類史眞を貞に作る

下○壬申授外從五位下和朝臣家吉眞神宿禰眞絲並從五位下○九月丙子近江國言除王姓從百姓戶五烟口一百一人戶主槻村井上大岡大魚動神等五人並山村王之孫也其祖父山村王以去養老五年編附此部自爾以來子孫蕃息或七八世分爲數烟依格六世以下除承嫡者之外可科課役望請承嫡之戶遷附京戶自餘與姓科課於是下所司檢皇親籍無山村王之名仍從百姓之例但不與眞人之姓○冬十月乙巳朔庚戌治部省言去寶龜元年以降增加國師員或國四人或國三人於事准量深匪允愜望請自今以後依承前例大上國各任大國師一人少國師一人中下國各任國師一人許之○戊午行幸交野放鷹遊獵○庚申詔免當郡今年田租國郡司及行宮側近高年并諸司陪從者賜物各有差又百濟王等供奉行在所者一兩人進階加爵施百濟寺近江播磨二國正稅各五千束授正五位上百濟王利善從四位下從五位上百濟王武鏡正五位下從五位下百濟王元德百濟王玄鏡並從五位上從四位上百濟王明信正四位下正六位上百濟王眞善從五



湯を賜に作る金本曾本淀本に據て改む下同じ

○常陸介從五位上、常陸介の三字は金本曾本淀本に據て補ふ弟麻呂常陸介なること元年六月辛未に見ゆ  
○征東副將軍、征上兼字を脱せるか  
○十二月、栗凡直、續姓氏錄に凡直同祖吉備武彥命之後也と見ゆ  
○飛騨國造、國造本紀に斐陀國造志賀高穴穗朝御世尾張連祖麻津襲命孫大八崎命定賜國造とあり  
○勝寶三年九月云々、此官符三代格に載す小異あり  
○猶任住居、曾本淀本猶を循に作る  
○廻利爲本、雜令に凡公私以財物出舉者云々家

位下○壬戌、車駕至自交野、○十一月甲戌朔、日有蝕之、○乙酉、以從五位下石淵王爲大監物、從五位上藤原朝臣菅繼爲右大舍人、頭大外記外從五位下朝原忌寸道永爲兼大學助、從五位下安倍朝臣草麻呂爲治部少輔、外從五位下安都宿禰眞足爲主計頭、從五位下三嶋眞人大湯坐爲宮內少輔、從五位下大伴王爲正親正、外從五位下嶋田臣宮成爲上野介、常陸介從五位上大伴宿禰弟麻呂爲征東副將軍、○丁酉、授正四位下百濟王明信正四位上、○十二月甲辰、阿波國人正六位上粟凡直豐穗飛驒國人從七位上飛驒國造祖門並任國造、○戊申、先是去天平勝寶三年九月、太政官符傳、豐富百姓、出舉錢財、貧乏之民、宅地爲質、至於迫徵、自償其質、既失本業、迸散他國、自今以後、皆悉禁止、若有約契、雖至償期、猶任住居、令漸酬償、至是勅、先有禁斷、曾未懲革、而今京內諸寺、貪求利潤、以宅取質、廻利爲本、非只綱維越法、抑亦官司阿容、何其爲吏之道、輒違王憲、出塵之輩、更結俗網、宜其雖經多歲、勿過一倍、如有犯者、科違勅罪、官人解其見任、財貨沒官、○丁巳、大和

國平羣郡久度神、叙從五位下爲官社、

資盡者役身折酬不得廻利爲本と見ゆ利子を以て本とするを云  
○出塵之輩、僧侶を云原本塵を鹿に作る諸本及類史に據て改む  
○結俗網、利殖を營むを云原本網を綱に作る金本及類史に據て改む  
○平群郡、郡字は金本淀本に據て補ふ  
○久度神、神名式大和國平群郡久度神社、大和志に久度神社在葛下郡王寺久度邑式載す平群郡とあり今北葛城郡王子村大字王子にあり平野に祀る久度神の本社なり



續日本紀卷第卅七

續日本紀卷第卅八

起延曆三年正月盡四年十二月

右大臣正二位兼行皇太子傳中衛大將臣藤原朝臣繼繩等奉 勅撰

今皇帝（稱號）

〔延曆三年〕小倉王、六年二月庚申紀雄倉王に作る

○大中臣朝臣諸麻、朝臣の二字は金本閣本曾本に據て補ふ下同じ  
○文室真人、金本淀本室を屋に作る  
○眞作、曾本金イ本眞を直に作る

○小宗、四月丁未紀雄宗に作る

三年春正月己卯（甲子）宴（癸酉朔）五位已上授無位小倉王、石浦王、並從五位下從四位下多治比真人長野紀、朝臣家守、並從四位上正五位下紀朝臣鯖麻呂正五位上從五位下大中臣朝臣諸魚從五位上外從五位下和朝臣國守安都宿禰眞足正六位上文室真人眞屋麻呂藤原朝臣眞作大伴宿禰永主大原真人越智麻呂和朝臣三具足石川朝臣魚麻呂巨勢朝臣家成大春日朝臣諸公安倍朝臣廣津麻呂坂本朝臣大足田口朝臣清麻呂笠朝臣小宗三方宿禰廣名紀朝臣兄原佐伯宿禰老並從五位下正六位上下道朝臣長人丹比宿禰稻長船連稻船秦忌寸長足並外從五位下宴訖賜祿各有差○辛巳授從五位下文室眞人子老從五



○宇都都古、字の字は金本曾本淀本に據て補ふ  
 ○外從五位下伊勢朝臣、外字は金本曾本淀本及元年八月乙亥紀に據て補ふ  
 ○種繼、原本種を稻に作る諸本に據て改む  
 (二月)辛巳、干支を推すに二月辛巳及己丑なし、按に辛巳の一條正月辛巳叙位條に附すべきか山崎校本にもしか云り  
 ○己丑、此條狩谷校本に己丑亦无之恐己巳あり、なほ同氏の說に正月戊子の下に入るべきか云り己丑の文字に誤なくば正月十七日か三月十八日なり  
 ○阿倍猿鳴臣、猿鳴の二字は金本淀本に據て補ひ臣の上原本朝字あるを曾本淀本に據て削る元年六月戊辰紀及下文七年二月丙午紀同じ  
 (三月)丙申、是月壬申朔なれば丙申は廿五日なり然れば乙酉丁亥の下に移すべし若し甲申の誤ならむには十三日なれば此にありてよし  
 ○同寮、下文寮を僚に作る

位上、正六位上平群朝臣牛養從五位下、又授女孺無位藤原朝臣宇都都古、大原真人明、並從五位下、○丁亥、授外從五位下伊勢朝臣水通從五位下、○戊子、宴五位已上於內裏饗百官主典已上於朝堂賜祿各有差、授右大臣正三位藤原朝臣是公從二位、正五位下大伴宿禰不破麻呂正五位上、從五位下紀朝臣白麻呂健部朝臣人上、並從五位上、以正三位藤原朝臣小黒麻呂從三位藤原朝臣種繼、並爲中納言、○二月辛巳、授女孺無位百濟王眞德從五位下、○己丑、從三位大伴宿禰家持爲持節征東將軍從五位上、文室真人與企爲副將軍、外從五位下入間宿禰廣成、外從五位下阿倍猿鳴、臣墨繩、並爲軍監、○三月甲戌、宴五位已上、令文人賦曲水、賜祿有差、○乙亥、授外正六位上丸子連石虫、外從五位下、以獻軍糧也、○丙申、先是伊豫國守吉備朝臣泉與同寮不協、頻被告訴、朝廷遣使勘問、辭泔不敬、不肯承伏、是日下勅曰、伊豫國守從四位下吉備朝臣泉、政迹無聞、犯狀有著、稽之國典、容眞恒科、而父故右大臣、往學盈歸播風弘道、遂登端揆、式翼皇猷、然則伊父美志、猶不可

○辭泔不敬、泔は金本曾本に據て補ふ弘仁五年七月紀泉の本傳に辭涉、不敬あり即涉の古字  
 ○故右大臣、眞吉備を云  
 ○往學盈歸、頭陀寺碑文に虛往實歸とあるに據れり入唐留學生として深く研鑽を加へて歸朝せるを云  
 ○端揆、宰相を云通鑑綱目集覽に儀射參、總百揆故曰端揆とあり  
 ○前惡、原本惡を思に作る金本曾本淀本に據て改む

忘、其子憊尤、何無矜恕、宜有泉辜、令思後善、但解見任、以懲前惡、○乙酉、以外從五位下筑紫史廣鳴爲近衛將監、播磨大掾如故、外從五位下下道朝臣長人爲大和介、從四位上多治比真人長野爲伊勢守、從五位下藤原朝臣繩主爲介、正五位上紀朝臣鯖麻呂爲尾張守、從五位上藤原朝臣黑麻呂爲遠江守、從五位上文室真人與企爲相摸守、近衛將監從五位下佐伯宿禰老爲兼介、從五位下三國真人廣見爲能登守、大外記外從五位下朝原忌寸道永爲兼越後介、外從五位下上毛野公薩摩爲但馬介、中宮大夫內藏頭從四位上紀朝臣家守爲兼備前守、從五位下文室真人於保爲備後守、正五位下百濟王武鏡爲周防守、從五位下石川朝臣淨繼爲讚岐介、右衛士督正四位上坂上大忌寸苅田麻呂爲兼伊豫守、從五位下多治比真人乙安爲肥後守、○丁亥、叙從三位氣太神、正三位、○夏四月壬寅、授正六位上上毛野公我人、外從五位下、以外從五位下忌部宿禰人上爲神祇大祐、從五位上海上真人三狩爲右中辨、從五位下藤原朝臣是人爲中務少輔、從五位下石川朝臣魚麻呂

(四月)

○氣太神、能登國羽咋郡氣多神社なり金本曾本淀本太々大に作る



○刑部卿、原本卿を大輔に作る諸本及四年七月庚戌紀本傳に據て改む

○宗形王、金本淀本形を方に作る

○大炊頭、原本頭を助に作る金本淀本に據て改む  
○内掃部正、關本部字なし職員令宮内省條に内掃部司正一人あり  
○淨麻呂、原本淨を清に作る金本曾本淀本に據て改む

○弟見、金本曾本淀本第見に作る

○古麻呂、原本古を吉に作る關本曾本忠本に據て改む

爲左大舍人助、從五位上藤原朝臣菅繼、爲治部大輔、從五位上大中臣朝臣諸魚、爲兵部大輔、少納言如故、從四位下淡海真人三船、爲刑部卿、大學頭、因幡守如故、從五位上橋朝臣綿裳、爲大判事、參議正四位下神王、爲大藏卿、從五位下安倍朝臣弟當、爲少輔、從五位下紀朝臣繼成、爲大膳亮、從五位上宗形王、爲大炊頭、從五位下山口王、爲鍛冶正、從五位下川邊朝臣淨長、爲主油正、外從五位下丹比宿禰眞淨、爲內掃部正、正四位下藤原朝臣鷹取、爲左京大夫、從五位下田口朝臣淨麻呂、爲右京亮、外從五位下上毛野公我人、爲衛門大尉、從五位下大原真人越智麻呂、爲隼人正、外從五位下津連眞道、爲右衛士大尉、近江大掾如故、從五位下紀朝臣眞人、爲攝津亮、從五位下和朝臣三具足、爲上總介、外從五位下飛鳥戶造弟見、爲飛驒守、從五位下路眞人玉守、爲上野介、從五位下文室眞人眞老、爲長門守、從五位下正月王、爲土左守、從五位下大春日朝臣諸公、爲防人正、從五位下多治比眞人年持、爲日向守、○丁未、以從五位下巨勢朝臣家成、爲大監物、從五位下吉田連古麻呂、爲內藥正、

改む五年正月乙卯紀證すべし

○紀朝臣家守卒、寶龜二年正月辛巳紀始見、丹波守春宮亮美濃守右中辨右兵衛督内藏頭等を歷任す  
○兼中務卿、兼字は金本曾本淀本に據て補ふ  
○眞黑麻呂、金本曾本淀本黒を里に作る  
○大湯坐、原本湯を陽に作る金本曾本淀本に據て改む  
○五月、一同俗官、原本俗を任に作る金本に據て改む  
○爲民所苦、爲字は金本曾本淀本に據て補ふ  
○藤原朝臣鷹取卒、寶龜二年閏三月甲午紀始見、中務少輔左京亮左中辨越前守左京大夫左兵衛督中宮大夫等を歷任、延暦元年六月乙丑魚名が事に坐して大臣を免ぜられて石見介に左遷同三年四月左京大夫に任ぜらる  
○蝦蟇云々、水鏡に此事都つりのあるべき相なりと申あへりし云々を見

侍醫如故、外從五位下出雲臣嶋成、爲侍醫、從五位上藤原朝臣眞葛、爲右大舍人頭、外從五位下丹比宿禰稻長、爲内藏助、從五位下笠朝臣雄宗、爲中衛少將、從五位下藤原朝臣眞友、爲越前介、○辛亥、大僧都弘耀法師上、表辭任、詔許之、因施几杖、○己未、參議中宮大夫從四位上紀朝臣家守卒、家守、大納言兼中務卿正三位麻呂之孫、大宰、大貳、正四位下男人之子也、○庚午、以從五位下紀朝臣作良、爲右少弁、外從五位下船連稻船、爲主計助、從五位下安倍朝臣眞黑麻呂、爲宮内少輔、從五位下藤原朝臣内麻呂、爲右衛士佐、從五位下紀朝臣豐庭、爲甲斐守、正五位上巨勢朝臣苗麻呂、爲信濃守、從五位下三嶋真人、大湯坐、爲因幡介、從五位下御方宿禰廣名、爲筑後守、○五月辛未朔、勅曰、比年國師遷替、一同俗官、送故、迎新、殊多勞擾、教導未宣、弘益有虧、永言其弊、理須改革、自今以後、宜擇有智有行、爲衆推仰者、補之、其秩滿之期、六年爲限、如有身死及心性龜惡、爲民所苦者、隨即與替、○庚辰、左京大夫正四位下藤原朝臣鷹取卒、○癸未、攝津職言、今月七日卯時、蝦蟇二万許、長



○難波市、攝津國西成郡南汗池、原本汗池、改む汗は與、海同濁水不流也、一日窟下也、云  
○種繼、四年九月丙辰紀本傳に種繼首建、議遷都長岡云々、見ゆ  
○正四位上坂上大忌寸、金本正を從に作る  
○長岡村、下文六月己酉紀經嘉都城營作宮殿、十一月戊申天皇移幸長岡宮、見ゆ山城志に長岡宮趾繼體天皇弟國故都同地在、乙訓郡連巨上羽井内及上植野等有地名、西京白井村有地名、御垣本、雍州府志に在大原野北、遺趾尙存土人今稱内裡趾、今同郡向日町大字鷄冠井にあり  
○佐比乎、原本乎を幸に作る金本曾本淀本に據て改む  
○白鷲、曾本淀本白鷲に作るは非なり、四年六月辛巳紀此に同じ  
○百濟王利善卒、神護元年閏十月甲午紀始見飛驒守讚岐員外介等を歷任す  
○六月榮山忌寸、錄左京諸蕃に見ゆ  
○豐野真人奄智卒、寶字

可四分、其色黑斑、從難波市南道南汗池列、可三町、隨道南行、入四天王寺内、至於午時、皆悉散去、○丙戌、勅遣中納言正三位藤原朝臣小黒麻呂、從三位藤原朝臣種繼、左大弁從三位佐伯宿禰今毛人、參議近衛中將正四位上紀朝臣船守、參議神祇伯從四位上大中臣朝臣子老右衛士督正四位上坂上大忌寸、菟田麻呂、衛門督從四位上佐伯宿禰久良麻呂、陰陽助外從五位下船連田口等於山背國、相乙訓郡長岡村之地、爲遷都也、○己丑、授正六位上藤原朝臣乙叡從五位下、○甲午、攝津職史生正八位下武生連佐比乎貢白鷲一、賜爵二級并當國正稅五百束、散位頭從四位下百濟王利善卒、○六月辛丑、唐人賜綠晏子欽、賜綠徐公卿等、賜姓榮山忌寸、是日叙正三位住吉神勳三等、○甲辰、中務大輔從四位下豐野真人奄智卒、○戊申、詔以賢璟法師爲大僧都、行賀法師爲少僧都、善上法師、玄憐法師、並爲律師、○己酉、以中納言從三位藤原朝臣種繼、左大弁從三位佐伯宿禰今毛人、參議近衛中將正四位上紀朝臣船守、散位從四位下石川朝臣垣守、右中弁從五位上

八年十月庚午紀始見、圖書頭大判事兵部大輔出雲守右中辨攝津大夫等を歷任す  
○賢璟、原本賢を覽に作る諸本に據て改む  
○行賀、元亨釋書卷十六に傳あり  
○從三位佐伯宿禰、原本三を二に作る諸本に據て改む  
○普光寺、大和志に在添上郡廣岡村、今狹川村大字廣岡、一名廣岡寺、云  
○賀茂大神社、神名式山城國愛宕郡賀茂別雷神社、(名神大月次相嘗新嘗)  
○賀茂御祖神社二座、(並名神大月次相嘗新嘗)並名別雷神社は上賀茂鎮座御祖神社は下鴨に鎮座並に官幣大社なり  
○嵩山忌寸、錄左京諸蕃に見ゆ  
○永國忌寸、同に長國忌寸あり  
○百姓私宅云々、慶雲元年十一月壬寅參考すべし  
○亦五十七町、亦字閣本及紀略なし恐くは衍  
○以當國正稅、以字は金字曾本淀本及類史に據て補ふ  
○七月、令進造山崎橋料

海上、真人三狩、兵部大輔從五位上大中臣朝臣諸魚、造東大寺、次官從五位下文室真人忍坂麻呂、散位從五位下日下部宿禰雄道、從五位下文部大麻呂、外從五位下丹比宿禰眞淨等、爲造長岡宮、使六位官八人、於是經始都城、營作宮殿、○辛亥、普光寺僧勤韓獲赤烏、授大法師、并施稻一千束、○壬子、遣參議近衛中將正四位上紀朝臣船守、於賀茂大神社奉幣、以告遷都之由焉、又今年調庸、并造宮工夫、用度物、仰下諸國、令進於長岡宮、○癸丑、唐人正六位上孟惠芝、正六位上張道光等、賜姓嵩山忌寸、正六位下吾稅兒賜永國忌寸、○壬戌、有勅、爲造新京之宅、以諸國正稅六十八万束、賜右大臣以下、參議已上、及內親王、夫人、尙侍等、各有差、○丁卯、百姓私宅、入新京宮内、亦五十七町、以當國正稅四万三千餘束、賜其主、○秋七月癸酉、仰阿波、讚岐、伊豫三國、令進造山崎橋料材、○壬午、以正五位上當麻呂爲中務大輔、從五位下藤原朝臣乙叡爲侍從、近衛中將正四位上紀朝臣船守爲兼中宮大夫、內廐頭常陸守如故、從五位下文室真人久賀麻呂爲左大舍人、頭從四位下石上朝臣



材、原本料を斷に作り進  
字なし料は金本曾本淀本  
に據て改め進字は考證に  
據て補ふ延喜雜式に山崎  
橋攝津伊賀等國各六枚播  
磨安藝阿波等國各十枚長  
二丈四尺弘厚並同上並  
以正稅充料毎年採送  
山城國山城志に河陽橋  
一名山崎橋あり天平三  
年行基創めて之を造り其  
後斷續常なし橋趾は今山  
城國綴喜郡八幡町内なる  
橋本其西岸乙訓郡大山  
崎村離宮八幡宮の南にて  
今橋本の渡さ云り  
○兵部大輔、金本淀本閣  
イ本大を少に作る  
○高宮村主、詳ならず  
○同眞木山、同字は行な  
るべし  
○春原連、四年三月甲寅  
改めて高村忌寸の姓を賜  
ふ  
○八月三尾神、神名武  
近江國高嶋郡水尾神社二  
座(並名神大月次新嘗)と  
あり今同郡高嶋村大字拜  
戸にあり  
○衣枳首、他史に見えず  
○高篠連、錄右京皇別高  
篠連景行天皇皇子五百木  
入彦命之後也とあり  
(九月)刑部直、續後紀

家成爲内藏頭、從五位下穗積朝臣賀祐爲散位頭、外從五位下大村直  
池麻呂爲主計助、從五位下石川朝臣宿奈麻呂爲主稅頭、從五位下大  
伴宿禰眞麻呂爲兵部大輔、從五位上笠王爲大膳大夫、從四位下石川  
朝臣垣守爲左京大夫、從五位下鹽屋王爲若狹守、右衛士督正四位上  
坂上大忌寸菟田麻呂爲兼備前守、從五位下藤原朝臣末茂爲伊豫守、  
從五位上藤原朝臣菅繼爲大宰少貳、○癸未、右少史正六位上高宮村  
主田使及同眞木山等賜姓春原連、○八月壬寅叙近江國高嶋郡三尾  
神從五位下、○戊午、左少史正六位上衣枳首廣浪等賜姓高篠連、○乙  
丑、以外從五位下吉田連季元爲伊豆守、○九月庚午、授命婦外正五位  
下刑部直虫名從五位下、○癸酉、京中大雨、壞百姓廬舍、詔遣使東西  
京賑給之、○庚辰、伊豫守從五位下藤原朝臣末茂坐事左降、日向介  
○乙未、太白晝見、○閏九月戊申、河内國茨田郡堤決、一十五處、單功  
六萬四千餘人、給糧築之、○乙卯、天皇幸右大臣田村第宴飲、授其第三  
男弟友從五位下、○冬十月庚午、勅、備前國兒嶋郡小豆嶋所放官牛、

承和十三年五月條に武藏  
國刑部直道繼見  
○東西京、京字は諸本に  
據て補ふ  
(閏九月)一十五處、原  
本處を家を作る金本曾本  
淀本に據て改む  
○弟友從五位下、原本下  
を上に作る金本淀本に據  
て改む  
(十月)小豆嶋、應神紀  
に注す舊くは備前國の所  
管なりしが後讃岐國に屬  
す今同國小豆郡是なり  
○長嶋、兵部式備前國長  
嶋牛馬牧是なり今備前國  
邑久郡裳掛村に屬す  
○通利艱險、原本通を濟  
に作る金本淀本に據て改  
む  
○誠令舉用、考證に令疑  
合字と云金本曾本淀本用  
を申に作る  
○爲主計頭、主計の二字  
は諸本に據て補ふ  
○長岡宮、金本曾本淀本  
宮を京に作る  
○阿倍朝臣古美奈薨、寶  
龜六年八月丙子紀に始見  
○勅曰、三代格卷十九に  
出づ十月廿日とあり  
○鄰保、戶令に戶皆五家

有損民產、宜遷長嶋、其小豆嶋者住民耕作之、○壬申、任御裝束司  
并前後次第司、爲幸長岡宮也、○甲戌、賜陪從親王已下五位已上裝  
束物、各有差、○戊子、越後國言蒲原郡人三宅連笠雄麻呂、蓄稻十萬、  
積而能施、寒者與衣、飢者與食、兼以修造道橋、通利艱險、積行經年、誠  
令舉用、授從八位上、○癸巳、以從五位下石川朝臣公足爲主計頭、從五  
位下大伴宿禰永主爲右京亮、又任左右、鎮京使、各五位二人、六位二人、  
以將幸長岡宮也、○乙未、尙藏兼尙侍從三位阿倍朝臣古美奈薨、遣  
左大弁兼皇后宮大夫從三位佐伯宿禰今毛人、散位從五位上當麻真  
人、永繼、外從五位下松井連淨山等、監護喪事、古美奈、中務、大輔從五  
位上梗虫之女也、適内大臣贈從一位藤原朝臣良繼生女、即是皇后也、  
○丁酉、勅曰、如聞、比來京中盜賊稍多、掠物街路、放火人家、良由職司  
不能肅清、令彼凶徒生茲賊害、自今以後、宜作鄰保、檢察非違、一如令  
條、其遊食博戲之徒、不論蔭贖、決杖一百、放火劫略之類、不必抱法、懲  
以殺罰、勤加捉擱、遏絕奸宄、○十一月戊戌朔、勅曰、十一月朔旦冬至者、



相保一人爲長以相檢察  
勿造非遠（十一月）朔旦冬至、國史始見、朔旦冬至は十一月一日の冬至にあたるを云  
○王公、原本公卿に作る金本曾本淀本及類史に據て改む  
○普賜、要略賞賜に作る○詔曰、三代格卷十五に出づ十一月廿日あり  
○民惟邦本、尙書五子之歌に出づ  
○侵漁、上に出づ  
○水田、三代格此下陸田の二字あり  
○收穫之實、原本實を實に作る諸本及三代格に據て改む  
○科違勅之罪、金本淀本此五字なし  
○郡司等、司字は諸本及三代格に據て補ふ  
○糾告人、金本關本曾本告字なし  
○外從五位下秦造、從字は諸本に據て補ふ考證に案九年三月己亥紀云正六位上秦造子嶋授外從五位下恐有誤と云  
○戊申、原本甲子に作る諸本に據て改む類史紀略亦同じ靈異記下に延曆三

是歷代之希遇、而王者之休祥也、朕之不德、得<sub>レ</sub>值<sub>ニ</sub>於今、思行<sub>ニ</sub>慶賞、共悅<sub>ニ</sub>嘉辰、王公已下、宜加<sub>ニ</sub>普賜、京畿當年田租並免<sub>之</sub>、○庚子、詔曰、民惟邦本、本固國寧、民之所資、農桑是切、比者諸國司等、厥政多僻、不愧撫道之乖方、唯恐侵漁之未巧、或廣占<sub>ニ</sub>林野、奪蒼生之便要、或多營<sub>ニ</sub>田園、妨黔黎之產業、百姓彫弊、職此之由、宜加<sub>ニ</sub>禁制、懲革貪濁、自今以後、國司等不得<sub>レ</sub>公廩、田外更營、水田、又不得<sub>レ</sub>私貪墾闢、侵百姓農桑地、如有違犯者、收穫之實、墾闢之田、並皆沒官、即解見任、科<sub>ニ</sub>違勅之罪、夫同僚并郡司等、相知容隱、亦與同罪、若有人糾告者、以其苗子、與糾告人、○癸卯、以從五位下佐伯、宿禰鷹守、爲左衛士佐、外從五位下秦造、子嶋、爲右衛士、大尉、外從五位下津、連眞道、爲左兵衛佐、○戊申、天皇移幸長岡宮、○甲寅、先是、皇后遭<sub>ニ</sub>母氏憂、不從<sub>ニ</sub>車駕、中宮復留在平城、是日遣<sub>ニ</sub>出雲守從四位下石川、朝臣豐人、攝津大夫從四位下和氣、朝臣清麻呂等、爲前後次第司、奉<sub>ニ</sub>迎焉、○丁巳、遣<sub>ニ</sub>近衛中將正四位上紀、朝臣船守、叙賀茂上下二社從二位、又遣<sub>ニ</sub>兵部大輔從五位上大中臣、朝臣諸魚、叙松尾乙訓、二神

年歲次甲子十一月戊申  
天皇并早良皇太子自<sub>レ</sub>諸樂宮移<sub>ニ</sub>坐于長岡宮也、  
見たり  
○遭母氏憂、原本遭を逢に作る紀略に據て改む金本曾本連に作る母氏は阿倍朝臣古美奈なり十月乙未紀に見ゆ  
○中宮、皇太夫人高野氏なり  
○賀茂上下二社、原本上下を上下に作る諸本に據て改む下同じ  
○松尾、神名式山城國葛野郡松尾神社二座（並名神大月次相嘗新嘗）あり今京都市外松尾村官幣大社松尾神社なり  
○乙訓、同式同國乙訓郡乙訓坐大雷神社（名神大月次新嘗）是なり  
○建部朝臣、金本及下文建を健に作る建は健の省文  
○息速別皇子、垂仁天皇の皇子なり記に伊許婆夜和氣命、書紀には池速別命に作る  
○阿保村、伊賀國伊賀郡阿保郷あり今名賀郡阿保町大字阿保是なり  
○須禰都斗王、原本禰を珍に作る金本曾本淀本に

從五位下、以<sub>レ</sub>遷<sub>ニ</sub>都也、○戊午、武藏介從五位上建部朝臣人上等言、臣等始祖息速別皇子、就<sub>ニ</sub>伊賀國阿保村居焉、逮於遠明日香朝廷、詔皇子四世孫須禰都斗王、由<sub>ニ</sub>地錫阿保君之姓、其胤子意保賀斯、武藝超倫、足<sub>レ</sub>示後代、是以長谷且倉朝廷改賜<sub>ニ</sub>健部君之姓、旌庸恩意、非<sub>ニ</sub>胙土彝倫、望<sub>ニ</sub>請返本正名、蒙賜阿保朝臣之姓、詔許之、於是人上等賜阿保朝臣、健部君黑麻呂等阿保公、○辛酉、中宮皇后並自平城至、○乙丑、遣<sub>ニ</sub>使修理賀茂上下二社、及松尾乙訓社、從四位下五百枝王、五百井女王、並授從四位上、○十二月己巳、詔賜造宮有<sub>ニ</sub>勞者爵、又免<sub>ニ</sub>進役夫國、今年田租、並從三位藤原朝臣種繼、正三位、正四位上石川朝臣名足、紀朝臣船守、朝臣垣守、和氣朝臣清麻呂、並從四位上、從五位上多治比真人人足、大中臣朝臣諸魚、並正五位下、從五位下文室真人忍坂麻呂、多治比真人濱成、日下部、宿禰雄道、三嶋真人名繼、丈部、大麻呂、並從五位上、外從五位下丹比、宿禰眞清、外正五位下、外從五位下上毛野、公大川、外從五位



據て改む  
 ○由地、金本由を目に作る恐くは因の詔なるべし  
 ○旌庸恩意、庸は功なり功績を旌表し給はむとの聖慮なりとなり原本恩を思に作る金本淀本に據る○昨土、左傳隱八年に天子建德因生以賜姓昨之土而命之氏とあるに出づ原本昨を昨に土を上に作る諸本に據て改む  
 ○阿保朝臣、錄右京皇別阿保朝臣垂仁天皇皇子息速別命之後也息速別命幼弱之時天皇爲皇子築宮室於伊賀國阿保村以爲封邑子孫因家之焉允恭天皇御代以居地名賜阿保君姓一廢帝天平寶字八年改公賜朝臣姓と見ゆ  
 ○五百井女王、女字は諸本に據て補ふ  
 ○十二月種繼、原本種を種に作る金本曾本淀本に據て改む  
 ○外從五位下上毛野公、以下五字は諸本に據て補ふ  
 ○細賦、原本細を細に作る下文に據て改む  
 ○佐伯宿禰今毛人、考證に水鏡今毛人天應中爲參議既罷叙三位案史

上、正六位上佐伯、宿禰葛城從五位下、正六位上奈良、忌寸長野、大神楮田、朝臣愛比、三使、朝臣清足、麻田、連狹賦、高篠、連廣浪、並外從五位下、又以左大弁從三位兼皇后宮、大夫大和、守佐伯、宿禰今毛人爲參議、○癸酉、遣使畿內、七道大祓、奉幣於天神地祇、○庚辰、詔曰、山川藪澤之利、公私共之、具有令文、如聞、比來或王臣家、及諸司寺家、包并山林、獨專其利、是而不禁、百姓何濟、宜加禁斷、公私共之、如有違犯者、科違勅罪、所司阿縱、亦與同罪、其諸氏冢墓者、一依舊界、不得斫損、○乙酉、山背、國葛野、郡人外正八位下秦、忌寸足長、築宮城、授從五位上、外從五位下栗前、連廣耳、飼養役夫、授從五位下、但馬、國氣多、團毅外從六位上川人部、廣井、進私物、助公用、授外從五位下、○丙申、叙住吉神從二位、預造長岡、宮主典已上、及諸司、雜色人等、隨其勞効、進階、賜爵各有差、四年春正月丁酉朔、天皇御大極殿受朝、其儀如常、石上、榎井二氏、各豎梓楯焉、始停兵衛叫闇之儀、是日宴五位已上於內裏、賜祿有差、○癸卯、宴五位已上、詔授正六位上多賀、王從五位下從四位上多治比、真人

元年六月紀書叙從三位至是書爲參議と云  
 ○詔曰、三代格卷十六延喜二年三月十三日宣符中に見ゆ  
 ○山川云々、雜令に見ゆ  
 ○具有令文、原本具を見に、令を今に作り文の字なし金本曾本淀本に據て補ひ訂す  
 ○川人部、四年二月甲戌改めて高田臣を賜ふ  
 ○助公用、原本助を則に作る金本曾本淀本に據て改む  
 【延曆四年】石上榎井二氏、共に物部氏と同祖、饒速日命の後なり  
 ○整梓楯、天平十七年正月紀を參看すべし  
 ○兵衛叫闇、考證に案準人式凡元日即位云々謂發、吹聲、兵衛叫闇疑亦此義と云、關は字書に謂宮門とあり御門に於て叫ぶを云  
 ○眞友、原本友を支に作る金本曾本淀本に據て改む下同じ  
 ○河根、原本河を阿に作る金本淀本に據て改む  
 ○三坂、原本坂を故に作る金本淀本に據て改む  
 ○秦忌寸馬長、秦上疑く

長野正四位上、從五位上文室、真人高嶋、正五位下、從五位下藤原、朝臣眞友、文室、真人於保、紀、朝臣作良、並從五位上、正六位上藤原、朝臣葛野麻呂、甘南備、真人繼人、平群、朝臣清麻呂、阿倍、朝臣枚麻呂、佐伯、宿禰繼成、小野、朝臣河根、雀部、朝臣虫麻呂、縣犬養、宿禰繼麻呂、大宅、朝臣廣江、高橋、朝臣三坂、安曇、宿禰廣吉、文室、真人大原、大伴、宿禰蓑麻呂、紀、朝臣廣足、紀、朝臣皆麻呂、並從五位下、秦、忌寸馬長、白鳥、村主元麻呂、伊蘇志、臣眞成、並外從五位下、○乙巳、授從五位上川邊、女王、正五位下、從五位下三嶋、女王、從五位上、無位八千代、女王、從五位下、從四位上橘、朝臣眞都賀、正四位下藤原、朝臣諸姉、百濟、王明信、並正四位上、從四位下藤原、朝臣延福、藤原、朝臣人數、和氣、朝臣廣虫、因幡、國造淨成、並從四位上、從五位上藤原、朝臣綿手、正五位下武藏、宿禰家刀自、並正五位上、從五位下藤原、朝臣春蓮、從五位上藤原、朝臣勤子、田中、朝臣吉備、並正五位下、從五位下藤原、朝臣祖子、從五位上、無位平群、朝臣竈屋、藤原、朝臣慈雲、藤原、朝臣家野、多治比、真人豐繼、外從五位下葛井、連廣見、並從五位下、



は外正六位上の五字を脱す  
 ○川邊女王、曾本淀本邊を嶋に作る  
 ○藤原朝臣入敷、朝臣の二字は金本曾本淀本に據て補ふ  
 ○因幡國造、國字は金本曾本淀本に據て補ふ  
 ○綿手、原本手を午に作る金本淀本及二年四月甲子紀に據て改む  
 ○葛井連廣見、見字は天應元年三月戊辰紀に據る  
 ○神下梓江、所在未詳、内藤氏は攝津國河邊郡神崎村あり神下は此地なるべしといひ吉田氏は神下梓江は安威川茨木川等なるべし古は彼水直に淀川の本流に入りけるを延曆中餘生野の西に導き今の如く支流三國川へ注ぐ事さなるか云り  
 ○餘生野、攝津國東生郡味原ノヂ、郷あり攝津志に味原郷方廢味生原存今屬嶋下郡とあり今三嶋郡味生村此なるべし  
 ○通于三國川、原本于を子に作る金本曾本淀本に據て改む三國川は攝津志に在嶋郡自嶋下流經郡界長洲三國邑等入

外從五位下豐田造信女外從五位上無位道田連桑田外從五位下又授從五位上三嶋女王正五位下○庚戌遣使掘攝津國神下梓江鱒生野通于三國川○辛亥以從五位下藤原朝臣弟友爲侍從從五位下高橋朝臣御坂爲陰陽頭從五位下伊勢朝臣水通爲內匠頭從五位下藤原朝臣仲繼爲大學頭從五位上中臣朝臣常爲治部大輔從五位下縣犬養宿禰伯麻呂爲立蕃頭從五位下淺井王爲諸陵頭正五位下粟田朝臣鷹守爲民部大輔從五位下紀朝臣千世爲少輔外從五位下奈良忌寸長野爲主稅助從四位下大伴宿禰潔足爲兵部大輔從五位下藤原朝臣雄友爲少輔美作守如舊從五位上丈部大麻呂爲織部正從五位上文室真人忍坂麻呂爲木工頭從五位下布勢朝臣大海爲主殿頭從五位下平群朝臣清麻呂爲典藥頭從四位下佐伯宿禰眞守爲造東大寺長官外從五位下林忌寸稻麻呂爲次官東宮學士如舊從三位紀朝臣船守爲近衛大將中宮大夫常陸守如故從五位下佐伯宿禰老爲少將相摸介如故從四位下紀朝臣古佐美爲中衛中將式部大輔但馬

河邊郡一名神崎川とあり味生村の西南にて淀川の分岐せる川なり川邊郡小田村神崎にて海に入る○高橋朝臣、原本橋を指に作る金本曾本淀本に據て改む  
 ○外從五位下林忌寸、外字は金本曾本淀本及元年二月庚申紀に據て補ふ  
 ○佐伯宿禰老、宿禰の二字は金本曾本淀本に據て補ふ  
 ○内廐頭、頭は首に作るべし主馬頭も亦同じ曾本淀本頭を正に作る  
 ○爲兼山背守、兼字は諸本に據て補ふ  
 ○陸奥國守、國字は金本曾本淀本に據て補ふ  
 ○鷹守、原本守を主に作る諸本及元年閏正月庚子三年十一月癸卯紀等に據て改む

守如故從五位下藤原朝臣宗繼爲少將從五位下紀朝臣廣足爲衛門佐從五位下縣犬養宿禰堅魚麻呂爲左衛士佐正五位上安倍朝臣家麻呂爲左兵衛督從五位下文室真人大原爲右兵衛佐從五位上三嶋真人名繼爲內廐頭正五位下多治比真人人足爲主馬頭正五位上巨勢朝臣苗麻呂爲河內守從五位下大伴宿禰蓑麻呂爲介少納言正五位下大中臣朝臣諸魚爲兼山背守內廐頭從五位上三嶋真人名繼爲兼介從五位下紀朝臣皆麻呂爲伊勢介從五位上淨村宿禰晉卿爲安房守右衛士督正四位上坂上大忌寸苅田麻呂爲兼下總守皇后宮大進從五位下安倍朝臣廣津麻呂爲兼常陸大掾從五位上紀朝臣木津魚爲美濃守從五位下藤原朝臣繩主爲介從五位下大神朝臣船人爲上野守從五位下和朝臣國守爲下野介從五位上多治比真人宇美爲陸奥國守從五位下佐伯宿禰鷹守爲越中介正五位下葛井連道依爲越後守春宮亮從五位上紀朝臣白麻呂爲兼伯耆守從五位上多治比真人年主爲出雲守近衛將監外從五位下筑紫史廣鳴爲兼播磨大掾



○諸泊魚、詳ならず紀略泊を伯に作る

○能勢郡領、淀本領上に大の字あり

○海上國造、國造本紀に上海上國造志賀高穴穂朝天穗日命八世孫忍立化多比命定賜國造あり  
○他田日奉直、原本他池に作る金本曾本淀本に據て改む萬葉廿に海上郡海上國造他田日奉直得大理見ゆ  
○大中臣朝臣諸魚、朝臣の二字は諸本に據て補ふ  
○閑人、金本曾本淀本蘭人に作る  
○二月、野上連、録河内

從五位下笠朝臣雄宗爲美作介從五位上百濟王仁貞爲備前守東宮學士外從五位下林忌寸稻麻呂爲兼介造東大寺次官如故從五位上葛井連根主爲伊豫守外從五位下秦忌寸長足爲豐前介○戊午安房國言以今月十九日部内海邊漂著大魚五百餘長各一丈五尺以下一丈三尺以上古老相傳云諸泊魚○癸亥攝津國能勢郡領外正六位上神人爲奈麻呂近江國蒲生郡大領外從六位上佐佐貴山公由氣比丹波國天田郡大領外從六位下丹波直廣麻呂豐後國海部郡大領外正六位上海部公常山等居職匪懈撫民有方於是詔並授外從五位下又授正六位下海上國造他田日奉直德刀自外從五位下以從五位上小倉王百濟王玄鏡並爲少納言從五位下藤原朝臣乙叡爲權少納言正五位下大中臣朝臣諸魚爲左中弁山背守如故從五位下藤原朝臣園人爲右少弁從五位上紀朝臣作良爲大藏大輔外從五位下佐伯直諸成爲園池正從五位上弓削宿禰大成爲西市正從五位上中臣朝臣鷹主爲信濃守從五位上日下部宿禰雄道爲豐前守○二月丁卯近

諸蕃野上連河原連同祖陳思王植之後也○あり  
○征賦、征字は諸本に據て補ふ  
○高田臣、系詳ならず但馬國氣多郡高田郷あれば之に因れるなるべし  
○神吉事、五年二月紀にも見ゆ  
○丁未、是月丙寅朔にて丁未なし或は乙未の誤か乙未は晦なり  
○福信、傳は八年十月紀に見ゆ  
○三月、嶋院、山城志に嶋院乙訓郡白井村金林寺即其故址あり  
○賜高村忌寸、原本賜を爲に作る金本曾本に據て改む弘仁三年閏十二月紀賜姓宿禰、録右京諸蕃高村宿禰出自魯恭王之後青州刺史劉琮也○あり  
○四月、多賀階上、陸奥國宮城郡多賀郷科上○シナカ、郷是なり此二郡一時權りに郡さし次に眞郡さし吏員を備へられしかご後又廢して郷さなれり其事史に闕く多賀は鎮守府を膽澤城に進められし後國府さなり今宮城郡多賀城村さなれるが科上は郷名も隠れたり其地今の宮

衛將監外從五位下筑紫史廣嶋賜姓野上連○壬申授陸奥國小田郡大領正六位上丸子部勝麻呂外從五位下以經征戰也○甲戌但馬國氣多郡人外從五位下川人部廣井改本姓賜高田臣○丁丑從五位上多治比真人宇美爲陸奥按察使兼鎮守副將軍國守如故授正四位上坂上大忌寸菟田麻呂從三位○癸未出雲國造外正八位上出雲臣國成等奏神吉事其儀如常授國成外從五位下自外祝等進階各有差○丁未彈正尹從三位兼武藏守高倉朝臣福信上表乞身優詔許之賜御杖并衾○三月戊戌御嶋院宴五位已上召文人令賦曲水賜祿各有差○甲辰授陸奥按察使從五位上多治比真人宇美正五位下又賜彩帛十疋緇十疋綿二百屯○丙午以從五位下安倍朝臣草麻呂爲神祇大副從五位下高倉朝臣石麻呂爲治部少輔從五位下佐伯宿禰葛城爲中衛少將○甲寅正六位上春原連田使從七位下眞木山等改春原連賜高村忌寸○夏四月乙丑朔授正六位上丸部臣董神外從五位下○辛未中納言從三位兼春宮大夫陸奥按察使鎮守將軍大伴宿禰家



城郡七北田村に當り古の宮城郷今の仙臺市の北山嶺を隔てし地なり  
 ○備預不虞、此語左傳文六年に見ゆ預は豫に通ず  
 ○推鋒萬里、推鋒は漢書英王傳に見ゆ一説に推は摧の誤なり云  
 ○開設、原本開設に作る金本淀本に據て改む開設の名あり云々は郡を開設したりと稱するも之を治むる人も置れず有名無實なるを云  
 ○船瀬、上に見ゆ

(五月)丑山、原本丑山に作る金本淀本に據て改む曾本金イ本には丑を又に作る甘次は誤あるべし  
 ○湯原造、諸史に見えず原本湯を陽に作る金本曾本淀本に據て改む  
 ○祖以子貴、公羊傳隱元年に母以子貴あり祖は祖先の意なり  
 ○紀朝臣、光仁天皇御母椽姫の父諸人なり  
 ○道氏、原本道を適に作る諸本及紀略に據て改む録右京皇別道公大彥命孫彦屋主田心命之後也  
 ○白髮部、清寧紀に見え

持等言、名取以南一十四郡、僻在山海、去塞懸遠、屬有徵發、不會機急、由是權置多賀階上二郡、募集百姓、足入兵於國府、設防禦於東西、誠是備預不虞、推鋒萬里者也、但以徒有開設之名、未任統領之人、百姓顧望、無所係心、望請建爲眞郡、備置官員、然則民知統攝之歸、賊絕、窺窬之望、許之、○己卯、授大初位下日下部、連國益外從五位下、以獻稻船瀬也、○丁亥、從五位上紀朝臣作良爲造齋宮、長官、○癸巳、宮內卿從四位上石川朝臣垣守爲兼武藏守、○五月乙未朔、左京人從六位下丑山甘次猪養賜姓湯原造、○丁酉、詔曰、春秋之義、祖以子貴、此則典經之垂範、古今之不易也、朕君臨四海、于茲五載、追尊之典、或猶未崇、興言念此、深以懼焉、宜追贈朕外曾祖贈從一位紀朝臣正一位太政大臣、又尊曾祖妣道氏曰太皇太夫人、仍改公姓爲朝臣、又臣子之禮、必避君諱、比者先帝御名及朕之諱、公私觸犯、猶不忍聞、自今以後、宜並改避、於是改姓白髮部爲眞髮部、山部爲山、○戊戌、右京人從五位下昆解宿禰沙彌麻呂等改本姓賜鴈高宿禰、○癸丑、先是皇后宮赤雀見、是日詔曰、朕君

清寧天皇の御名を後の世に傳へむ爲に置ける部民の名なり古事記にも見ゆ  
 光仁天皇の御諱は白壁なりし故に之を避く  
 ○眞髮部、狩谷氏曰石川年足朝臣葛誌攝津國嶋下郡白髮郷即和名抄所載眞上郷誌在詔前廿四年故猶不避之常陸國眞壁郡本名白髮郡見風土記其改爲眞壁蓋亦在是時也  
 ○山部、桓武天皇の御諱なり二年二月紀に山宿禰子虫なご見ゆるは此詔以前なるが是等は追書せるなり  
 ○鴈高宿禰、録右京諸蕃雁高宿禰出自百濟國貴首王也  
 ○政未洽於南薰、南薰は孔子家語辯樂解に昔者舜彈五絃之琴造南風之詩曰南風之薰兮可解吾民之慍兮あり原本未字なく薰を熏に作る未は金本曾本淀本に據て補ひ薰は類史に據て改む  
 ○東戸、淮南子繆稱訓に昔東戸季子之世道路不拾遺未相餘糧宿諸敵首使君子小人各得其宜也  
 其

臨紫極、子育蒼生、政未洽於南薰、化猶闕於東戸、粵得參議從三位行左大弁兼皇后宮大夫大和守佐伯宿禰今毛人等奏云、去四月晦日、有赤雀一隻、集于皇后宮、或翔止廳上、或跳梁庭中、貞甚閑逸、色亦奇異、晨夕栖息、旬日不去者、仍下所司、令檢圖、孫氏瑞應圖曰、赤雀者瑞鳥也、王者奉己儉約、動作應天、時則見、是知朕之庸虛、豈致此覲、良由宗社積德、餘慶所覃、既叶舊典之上瑞、式表新色之嘉祥、奉天休而倍惕、荷靈貺以逾兢、思敦弘澤以答上玄、宜天下有位、及内外文武官、把笏者、賜爵一級、但有蔭者、各依本蔭、四世五世及承嫡、六世已下、王、年廿以上、並叙六位、又五位已上、子孫、年廿已上、叙當蔭階、正六位上者、免當戶、今年租、其山背國者、皇都初建、既爲輦下、慶賞所被、合殊常倫、今年田租、特宜全免、又長岡村、百姓家入大宮處者、一同京戶之例、○甲寅、從五位上淨原王爲右大舍人、頭、從四位上藤原朝臣雄依爲大藏卿、從四位上大中臣朝臣子老爲宮內卿、神祇伯如故、正四位下神王爲彈正、尹、從五位上上海上眞人三狩爲大宰、少貳、從五位下百濟王英孫爲陸奧



○不去者、者字は金本及類史に據て補ふ  
 ○圖諫、玉篇に諫又通作牒とあり  
 ○新色、原本色か邑に作る諸本に據て改む新色は新しく珍しき義舊典に對して云  
 ○倍揚、原本揚を傷に作る金本閣本及類史に據て改む  
 ○思敦弘澤、類史敦を數に作る  
 ○當戸、當字は金本會本淀本及類史に據て補ふ  
 ○輦下、輦は天子の車をいひ輦下は京師なり輦輦下の略  
 ○全免、原本全を令に作る金本閣本及類史に據て改む  
 ○三狩、此人大宰大貳なること寶龜十一年二月紀に見ゆ既に罷めて復任せるか  
 ○貢進調庸云々、賦役令及主稅式に見ゆ  
 ○多不中用、原本用下に度字あり諸本に據て之を削る使用に過せざるを云  
 ○節級、等差を定むるを云  
 ○譜第、原本第を弟に作る金本會本に據て改む

鎮守權、副將軍、○戊午、勅曰、貢進、調庸、具著法式、而遠江國所進調庸、濫穢不堪、官用、凡頃年之間、諸國貢物、餽惡多不中用、准量其狀、依法可坐、自今以後、有如此類、專當國司、解却見任、永不任用、自餘官司、節級科罪、其郡司者、加決罰以解見任、兼斷譜第、○己未、勅曰、出家之人、本奉行道、今見衆僧多乖法旨、或私定檀越、出入閭巷、或誣稱佛驗、誣誤愚民、非唯比丘之不、慎教律、抑是所司之不勤、捉搦也、不加嚴禁、何整、緇徒、自今以後、如有此類、擯出外國、安置定額寺、○庚申、遣使五畿內、祈雨焉、○辛酉、地震、周防國飢疫、賑給之、○壬戌、授正六位上、百濟王元基從五位下、○六月乙丑、出羽丹波年穀不登、百姓飢饉、並賑給之、○癸酉、勅曰、去五月十九日、緣皇后宮有赤雀之瑞、普賜天下、有位爵一級、但官司者是祥瑞、出處也、當加褒賞、以答靈貺、宜官司主典已上、不論六位五位、進爵一級、右衛士督從三位兼下總守坂上、大忌寸、苅田麻呂等、上表言、臣等、本是後漢靈帝之曾孫阿智王之後也、漢祚遷魏、阿智王因神牛、教、出行、帶方、忽得寶帶、瑞、其像似宮城、爰建國邑、育其人庶、後召父兄、告

○本事行道、閣本會本本奉に作る  
 ○佛驗、三代格佛を有に作る  
 ○註誤、原本註を註に作る金本會本淀本及格に據て改む  
 ○安置、格此下に供養の二字あり  
 ○六月、宮司者、司字は諸本及類史に據て補ふ  
 ○祥瑞出處也、原本處を家に作る金本淀本及類史に據て改む  
 ○不論六位五位云々、是全く特例なり  
 ○阿智王之後也、也字は金本會本淀本に據て補ふ  
 ○帶方、漢書地理志に帶方屬樂浪郡とあり  
 ○爰建國邑、原本爰を受に作る金本會本淀本に據て改む  
 ○母弟、原本女弟に作る金本に據て改む  
 ○迂與德、金本淀本迂を迂に作る又與は會本淀本與に作り金本にはなし  
 ○七姓民、原本民を氏に作る金本淀本に據て改む  
 ○譽田天皇、應神天皇に坐せり此天皇二十年倭漢直祖阿知使主其子都加使主並率己之黨類十七縣

曰、吾聞、東國有聖主、何不歸從乎、若久居此處、恐取覆滅、即携母弟迂、興德、及七姓民、歸化來朝、是則譽田天皇治天下之御世也、於是阿智王奏請曰、臣舊居在於帶方、人民男女皆有才藝、近者寓於百濟高麗之間、心懷猶豫、未知去就、伏願天恩、遣使追召之、乃勅遣臣八腹氏、分頭發遣、其人男女、舉落隨使盡來、永爲公民、積年累代、以至于今、今在諸國、漢人亦是其後也、臣苅田麻呂等、失先祖之王族、蒙下人之卑姓、望請改忌寸、蒙賜宿禰姓、伏願天恩、矜察、儻垂聖聽、所謂寒灰更煖、枯樹復榮也、臣苅田麻呂等、不勝至望之誠、輒奉表以聞、詔許之、坂上、內藏、平田、大藏、文、調、文部、谷、民、佐、太、山口等、忌寸、十姓、一十六人、賜姓宿禰、○辛巳、右大臣從二位兼中衛、大將臣藤原朝臣是公等、率百官、上慶瑞表、其詞曰、伏奉去五月十九日、勅、比者赤雀、戾止椒庭、既叶舊典之上瑞、式表新色、之嘉祥、思與天下喜、此靈貺者、臣等生逢明時、頻沐天渙、欣悅之情、實倍恒品、臣聞德動天地、無遠不臻、至誠有感、在幽必達、伏惟、皇帝陛下、道格乾坤、澤沾動植、政化以洽、品物咸亨、皇后殿下、德超娥



而來歸焉見ゆ ○勅遣臣八腹氏 此事應神紀に見えず八腹氏は八姓の人を云推古紀に八腹臣とあるに同じく朝廷に仕奉る諸氏の人を遣はされしなるべし  
○其人男女、考證に堀本に依て人の下に民字を増すべしと云  
○擧落、部落を擧げて悉くなり  
○漢人、録攝津諸蕃葦屋漢人阿智王之後也とあり此他敏達紀に漢人夜菩推古紀に高向漢人玄理及新漢人大國新漢人日南南淵漢人請安志賀漢人惠隱漢人廣濟など見えたりされ漢人とあるは悉く阿智使主の後はあらで高麗百濟の種族より系を引けるものあり  
○寒灰更煖、漢書韓安國傳に見ゆ  
○枯樹復榮、遊仙窟卷五に白骨再穴枯樹重花とあるに出づ  
○坂上、録右京諸蕃に見ゆ内藏宿禰平田宿禰亦同じ ○大藏、録に見えず ○文、文忌寸は右京諸蕃に見ゆ ○文部、録に文宿禰文忌寸と見えゆ金本曾本本文に作る恐くは非なり ○谷、録右京諸蕃に谷宿禰坂上大宿禰同祖と見えゆ、佐太宿禰山口宿禰は右京諸蕃に見ゆ ○十姓、十一姓なれば十の下に一の字を脱せしなるべし ○戻止、原本戻を屢に作る關本澁本に據て改む、戻止は毛詩魯頌泂水章に魯公戻止とあり ○椒庭、後宮を云 ○新色、原本色を邑に作る金本曾本に據て改む ○喜此靈貺、類史喜を嘉に作る ○天煖、煖は水盛なる貌天恩の盛なるに譬へたり ○道格乾坤、原本格を格に作る關本曾本澁本に據て改む格は字書に法式也標準とあり天地を標準とするを云 ○澤沾動植、原本動を動に作る

英功軼姪、母儀方闡、厚載既隆、故能兩儀合德、百靈効祉、白鸚產帝畿、以馴化、赤雀翔皇宮、而表禎、稽驗圖課、僉曰休徵、斯實曠古、殊貺、當今嘉祥、率土抃舞、莫不ト云幸甚、臣是公等、不勝踴躍之至、謹詣朝堂、奉表以聞、詔報曰、乾坤表貺、休瑞荐彰、白鸚構巢於前春、赤雀來儀於後夏、寔惟宗社、攸祉羣卿、所諧朕之庸虛、何應於此、但當與卿等勉理政化、上答天休、省所來賀、祇懼兼懷、是日、授皇后宮大夫從三位佐伯宿禰今毛人正三位、亮從五位上笠朝臣名末呂正五位下、大進從五位下藤原朝臣眞作、少進從五位下安倍朝臣廣津麻呂、並從五位上、大屬正六位上阿閉間人臣人足、少屬正六位上林連浦海、並外從五位下、○癸未、參議兵部卿從三位兼侍從下總守藤原朝臣家依薨、贈太政大臣正一位永手之第一子也、

る金本曾本及類史に據て改む ○品物成亨、易坤卦の象傳に出づ亨は原本亨に作るを改む ○娥英、娥皇女英をいふ共に堯の女にして舜の妃なり ○姪、大姪大姪なり、大姪は周文王の母、大姪は武王の母なり ○厚載、後漢書皇后紀贊に出づ地厚くして能載するを云皇后の徳の大なるに譬ふ ○白鸚、三年五月紀に攝津國史生云々貢白鸚一と見えたり ○皇后宮大夫、宮字は金本曾本澁本及類史に據て補ふ ○阿閉間人臣、録右京皇別阿閉間人臣彦背立大稻與命之後也とあり ○並外從五位下、從字は諸本及類史に據て補ふ ○藤原朝臣家依薨、神護元年十一月紀に始見、式部少輔同大輔皇后宮大夫治部卿衛門督及大和丹波近江等の守を歴任す

○七月麻田連、原本麻の下に呂字あり金本澁本に據て削る

○狹賦、原本狹を狹に作る金本曾本に據て改む下同

○全成、原本全を今に作る金本に據て改む下同

○淡海真人三船卒、勝寶三年正月辛亥條に賜三位御船王淡海真人と見え

○秋七月甲午朔己亥、參議從三位石川朝臣名足爲左大弁、播磨守如故、參議從四位上大中臣朝臣子老爲右大弁、神祇伯如故、外從五位下麻田連狹賦爲左大史、中納言正三位藤原朝臣小黑麻呂爲兼中務卿、參議正三位佐伯宿禰今毛人爲民部卿、皇后宮大夫大和守如故、從五位下紀朝臣安提爲少輔、從五位上紀朝臣作良爲兵部大輔、正五位上内藏宿禰全成爲大藏大輔、從四位上石川朝臣垣守爲宮内卿武藏守如故、從三位坂上大宿禰苅田麻呂爲左京大夫、右衛士督下總守如故、從五位下賀茂朝臣人麻呂爲亮、從四位下石川朝臣豐人爲右京大夫、大納言正三位藤原朝臣繼繩爲兼大宰帥、從五位下紀朝臣千世爲豐後守、左中弁正五位下大中臣朝臣諸魚爲兼左兵衛督、山背守如故、○己酉、外從五位下秦忌寸馬長爲土左守、○庚戌、刑部卿從四位下兼因幡守淡海



○筆札、原本筆を華に作る金本曾本淀本に據て改む  
 ○寶字元年、勝寶三年正月紀に賜御船王姓淡海真人一と見えたりは寶字元年とあるに誤るべし  
 ○陂池、原本陂を波に作る關イ本に據て改む  
 ○惠美仲麻呂云々、寶字八年八月紀を參考すべし  
 ○通自宇治、原本通を適に作る寶字八年九月紀に據て改む金本道に作るは通の訛なり

○蓋亦、關本亦を之に作る  
 ○傳燈、法燈を傳ふる義にて法脈を承け傳ふるを云  
 ○和雇、營繕令に凡有所營造及和雇造作之類所司皆先録し須臾數申太政官と見ゆ同意を得て雇ふを云

真人三船卒、三船大友親王之曾孫也。祖葛野王正四位上式部卿。父池邊王從五位上内匠頭。三船性識聰敏，涉覽群書，尤好筆札。寶字元年，賜姓淡海。真人起家拜式部少丞，累遷寶字中授從五位下，歷式部少輔。參河美作守。八年，被充造池使，往近江國修造陂池。時惠美仲麻呂遁自宇治，走據近江，先遣使者調發兵馬，三船在勢多，與使判官佐伯宿禰三野共捉縛賊使及同惡之徒，尋將軍日下部宿禰子麻呂佐伯宿禰伊達等卒數百騎而至，燒斷勢多橋，以故賊不得渡江，奔高嶋郡。以功授正五位上勳三等，除近江介，遷中務。大輔兼侍從，尋補東山道巡察使，出而採訪，事畢復奏，昇降不隨，頗乖朝旨，有勅譴責之，出爲大宰少貳，遷刑部大輔，歷大判事大學頭兼文章博士。寶龜末，授從四位下，拜刑部卿。兼因幡守，卒時年六十四。○癸丑，勅曰：釋教深遠，傳其道者，緇徒是也。天下安寧，蓋亦由其神力矣。然則惟僧惟尼，有德有行，自非衰顯，何以弘道。宜仰所司，擇其修行傳燈無厭倦者，景迹齒名，具注申送。又勅：造宮之務，事弗獲已，所役之夫，宜給其功。於是和雇諸國百姓卅一万四千人。○甲寅，從五位下賀茂朝臣人麻呂爲齋宮頭。○丁巳，勅曰：夫正稅者，國家之資。水旱之備也，而比年國司苟貪利潤，費用者衆，官物減耗，倉廩不實。職此之由，宜自今已後，嚴加禁止，其國司如有一人犯用，餘官同坐，並解見任，永不叙用。贓物令共填納，不在免死。逢赦之限，遞相檢察，勿爲違犯。其郡司和許亦同國司。○辛酉，土左國貢調愆期，其物亦惡。勅國司目已上，並解見任。○壬戌，外從五位下高篠連廣浪爲左大史，從五位下藤原朝臣眞鷲爲大學頭，外從五位下井上直牛養爲主計，助外從五位下伊蘇志臣眞成爲主船，正從四位下安倍朝臣東人爲刑部卿，從五位上多朝臣犬養爲大輔，從五位下巨勢朝臣家成爲主殿，頭從五位下坂本朝臣大足爲官奴，正從五位下甘南備真人繼成爲右京亮，從五位下石浦王爲主馬，頭從五位下三嶋真人大湯坐爲參河介，從五位下笠朝臣雄宗爲能登守，從五位下藤原朝臣宗繼爲因幡守，外從五位下大村直池麻呂爲介，從五位下布勢朝臣大海爲美作介，授正八位下三野臣廣主，外從五位下，以貢獻也。○八月癸亥朔，右京人士師宿禰淡海，其

○勅曰、三代格卷十九に見ゆ

○費用者多、原本者各に作る金本淀本及類史に據て改む

○逢赦之限、之字は格及要略に據て補ふ

○多朝臣、曾本多の下に治字あり

○大湯坐、原本湯を陽に作る金本淀本に據て改む

○三野臣、三野は備前國御野郡なり應神紀廿二年(書紀卷上二〇五頁)三野縣を以て弟彦に封す是三野臣の始祖なりとあり

寅，從五位下賀茂朝臣人麻呂爲齋宮頭。○丁巳，勅曰：夫正稅者，國家之資。水旱之備也，而比年國司苟貪利潤，費用者衆，官物減耗，倉廩不實。職此之由，宜自今已後，嚴加禁止，其國司如有一人犯用，餘官同坐，並解見任，永不叙用。贓物令共填納，不在免死。逢赦之限，遞相檢察，勿爲違犯。其郡司和許亦同國司。○辛酉，土左國貢調愆期，其物亦惡。勅國司目已上，並解見任。○壬戌，外從五位下高篠連廣浪爲左大史，從五位下藤原朝臣眞鷲爲大學頭，外從五位下井上直牛養爲主計，助外從五位下伊蘇志臣眞成爲主船，正從四位下安倍朝臣東人爲刑部卿，從五位上多朝臣犬養爲大輔，從五位下巨勢朝臣家成爲主殿，頭從五位下坂本朝臣大足爲官奴，正從五位下甘南備真人繼成爲右京亮，從五位下石浦王爲主馬，頭從五位下三嶋真人大湯坐爲參河介，從五位下笠朝臣雄宗爲能登守，從五位下藤原朝臣宗繼爲因幡守，外從五位下大村直池麻呂爲介，從五位下布勢朝臣大海爲美作介，授正八位下三野臣廣主，外從五位下，以貢獻也。○八月癸亥朔，右京人士師宿禰淡海，其



〔八月〕

○從七位上大秦、原本從  
を正に作る金本曾本湊本  
に據て改む  
○以築太政官院垣、天平  
十四年八月丁丑紀を參考  
すべし

姉諸主等、改本姓、賜秋篠宿禰、○己巳、授從四位上藤原朝臣雄依、正四位下、從四位下石川朝臣豐人、安倍朝臣東人、佐伯宿禰久良麻呂、並從四位上、從五位下藤原朝臣是人、藤原朝臣雄友、藤原朝臣內麻呂、並從五位上、外從五位下朝原忌寸道永、正六位上多治比真人國成、笠朝臣江人、並從五位下、○丙子、從五位上多治比真人濱成、爲右中弁、從五位上安倍朝臣廣津麻呂、爲皇后宮大進、外從五位下阿閉間人、臣人足、爲少進、外從五位下林連浦海、爲大屬、從五位下笠朝臣江人、爲式部少輔、從五位下大伴宿禰眞麻呂、爲主稅頭、從五位下下毛野朝臣年繼、爲內掃部正、從四位下大伴宿禰潔足、爲近衛中將、從五位上藤原朝臣內麻呂、爲中衛少將、外正五位下丹比宿禰眞淨、爲右衛士佐、從五位上藤原朝臣眞作、爲石見守、從五位下石川朝臣宿奈麻呂、爲周防守、授從五位下羽栗臣翼、從五位上、正六位上多治比真人屋嗣、從五位下、正六位上國中連三成、外正六位上丹波直人足、並外從五位下、○乙酉、授從七位上大秦公忌寸宅守、從五位下、以築太政官院垣也、外從五位下土師

○將向伊勢神宮、九月己亥發向  
○大伴宿禰家持死、薨後罪露れて除名せらるる故に薨と書せず  
○大伴繼人竹良云々、下文に詳なり  
○除名、大同元年三月辛巳勅復家持本位從三位と後紀に見ゆ  
○永主、類史永手に作る  
○處流、原本處を家にする金本曾本湊本及類史に據て改む紀略に隱岐國に流さるるあり  
〔九月〕水雄岡、近江國高鳴郡水尾神社あり其地ならむとの説あれど黒川氏は愛宕郡愛宕山下なる水雄なりと云り後説是なるが如し  
○池原公綱主、原本綱を繩に作る金本曾本湊本に據て改む下同し  
○或乘船、原本船下に中の字あり金本曾本湊本及類史に據て削る  
○種繼被賊射薨、紀略に種繼被賊射二兩箭貫身丙辰云々種繼已薨乃詔有司一搜捕其賊云々仍獲竹良并近衛伯耆守麻呂中衛杜鹿木積實勅右大辨石川名足等推勸之

宿禰公足、爲隱岐守、○丙戌、天皇行幸平城宮、先是朝原內親王齋居平城、至是齋期既竟、將向伊勢神宮、故車駕親臨發入、○庚寅、中納言從三位大伴宿禰家持死、祖父大納言贈從二位安麻呂父大納言從二位旅人家持、天平十七年授從五位下、補宮內少輔、歷任內外寶龜初、至從四位下左中弁兼式部員外大輔、十一年拜參議、歷左右大弁、尋授從三位坐、氷上川繼反事、免移京外、有詔宥罪、復參議春宮大夫、以本官出爲陸奥按察使、居無幾、拜中納言春宮大夫如故、死後廿餘日、其屍未葬、大伴繼人竹良等殺種繼、事發覺、下獄案驗之、事連家持等、由是追除名、其息永主等並處流焉、○九月乙未、地震、○己亥、齋內親王向伊勢大神宮、百官陪從、至大和國堺而還、○庚子、行幸水雄岡遊獵、授正六位上巨勢朝臣鳴人、從五位下、正六位上池原公綱主、外從五位下、○壬寅、河內國言洪水汎溢、百姓漂蕩、或乘船、或寓堤上、糧食絕乏、艱苦良深、於是遣使監巡、兼加賑給焉、○乙卯、中納言正三位兼式部卿藤原朝臣種繼被賊射薨、○丙辰、車駕至自平城、捕獲大伴繼人、同竹良并



桴麿云主稅頭大伴眞麿  
大和太孫大伴太子春宮少  
進佐伯高成及竹良等同謀  
遣存麿高成等並歎云故  
云々繼人高成等並歎云故  
中納言大伴家持相謀曰  
宜唱大伴佐伯兩氏以  
除種繼因啓皇太子遂  
行其事窮問自餘黨皆  
承伏於是首惡左少辨大  
伴繼人高成眞麿竹良湊麿  
春宮主書首多治比濱人同  
誅斬及射種繼者桴麿木  
積麿二人斬於山崎橋南  
河頭又右兵衛督五百枝  
王大藏卿藤原依同坐  
此事五百枝王降死流伊  
豫國雄依及春宮亮紀白  
麿家持息京亮永主流  
隱岐東宮學士林寸稻麿  
流伊豆自餘隨罪亦流  
あり水鏡に中納言種繼  
(長岡京)留主にて侍ひ  
しを御門の御弟の早良親  
王東宮にておはせしが人  
をつかはして射殺さしめ  
給ひてきさい其原因は  
早良親王政を預りて佐伯  
今毛人を宰相に給ひしを種繼が天皇に申して先例なきこと其宰相の職をこりしより親王遂に政を執るを得ずなり給ひしを口惜しく思はれし故なり  
りせり此事本紀に之を省きて紀略に書せるを見れば考證に云るが如く後に早良親王の崇を恐れて舊史に書する所を削除せしものなるべし  
○竹良并黨與、原本并を等にする金本及類史に據て改む黨與とは伯耆桴麿呂牡鹿木積麻呂等を云、○宇合之孫、尊卑分限補任には淨成の子云、○加從四位下、下字は金本曾本淀本及天應元年正月紀に據て補ふ、○薨於第、原本第を弟に作る金本曾本に據て改む、○左大臣、大同四年四月更に太政大臣を贈る、○左少辨、原本少を中に作る金本曾本淀本に據て改む、○英孫、原本英を次に作る金本曾本淀本に據て改む、○爲兼備前介、兼字は金本曾

黨與數十人推鞠之並皆承伏依法推斷或斬或流其種繼參議式部卿  
兼大宰帥正三位宇合之孫也神護二年授從五位下除美作守稍遷寶  
龜末補左京大夫兼下總守俄加從四位下遷左衛士督兼近江按  
察使延曆初授從三位拜中納言兼式部卿三年授正三位天皇甚委任  
之中外之事皆取決焉初首建議遷都長岡宮室草創百官未就匠手役  
夫日夜兼作至於行幸平城太子及右大臣藤原朝臣是公中納言種  
繼等並爲留守照炬催檢燭下被傷明日薨於第時年四十九天皇甚悼  
惜之詔贈正一位左大臣○己未造東大寺長官內藏頭從四位下石  
上朝臣家成爲兼衛門權督兵部少輔美作守正五位上藤原朝臣雄友  
爲兼左衛士權督○辛酉以從五位下佐伯宿禰葛城爲左少辨從五位  
下百濟王英孫爲出羽守近衛少將從五位下紀朝臣兄原爲兼備前介

本淀本に據て補ふ  
○十月佐渡權守權字  
は諸本に據て補ふ弘仁五  
年間七月壬午紀泉の本傳  
證さすべし  
○田原山陵光仁天皇御  
陵なり五年十月甲申條に  
改葬太上天皇於大和國  
田原陵さあれば此時奉  
告ありしは思ふに田原の  
東陵なり然るに此に田原  
陵さあるは追書なり  
○後佐保山陵諸陵式に  
佐保山南陵さある聖武天  
皇御陵なり後書せるは  
太皇太后の佐保山西陵に  
別たむが爲なり  
○廢皇太子天應元年四  
月壬辰皇弟早良親王を立  
て皇太子させられしが  
是に至りて廢せらる紀略  
に九月庚申詔曰云々中納  
言大伴家持云々等式部卿  
藤原朝臣乎殺之朝廷傾奉  
早良王乎爲君止謀氣利  
今月廿三日夜亥時藤原朝  
臣乎殺事爾依且勸賜爾申  
久藤原朝臣在波不此  
人乎掃退幸止皇太子爾掃  
退止且仍許訖近衛桴麿中  
衛木積麿二人乎爲且殺支  
止申云々は皇太子自  
內裏歸於東宮即日戌時  
出置乙訓寺是後太子不

○冬十月甲子左降從四位下吉備朝臣泉佐渡權守從五位下藤原朝  
臣園人爲安藝守○乙丑從五位上藤原朝臣是人爲長門守○丙寅遣  
使五畿內檢田爲班授也○庚午遣中納言正三位藤原朝臣小黑麻  
呂大膳大夫從五位上笠王於山科山陵治部卿從四位上壹志濃王散  
位從五位下紀朝臣馬守於田原山陵中務大輔正五位上當麻王中衛  
中將從四位下紀朝臣古佐美於後佐保山陵以告廢皇太子之狀○壬  
申遠江下總常陸能登等國去七八月大風五穀損傷百姓飢饉並遣  
使賑給之○甲戌中衛中將從四位下兼式部大輔但馬守紀朝臣古佐  
美爲參議從五位下紀朝臣馬守爲中務少輔從五位下下毛野朝臣年  
繼爲大監物從五位上文室真人子老爲玄蕃頭從五位上秦忌寸足長  
爲主計頭從五位下石川朝臣公足爲主稅頭從五位下縣犬養宿禰伯  
爲刑部少輔從四位下大伴宿禰潔足爲大藏卿外從五位下嶋田臣宮  
成爲右京亮從五位上弓削宿禰鹽麻呂爲造東大寺次官從五位下紀  
朝臣兄原爲近衛少將備前介如故外從五位下池原公綱主爲將監從



自飲食積十餘日遣宮  
 內卿石川恒守等駕船移  
 送淡路比至高瀬橋頭  
 已絕載屍至淡路葬云  
 々々水鏡には十月に東宮  
 を乙訓寺に籠奉り云々淡  
 路の國へ流し奉り給ひし  
 に山崎にてうせ給ひにき  
 に見ゆ  
 ○兄原、原本兄を長に作  
 る閣本曾本淀本及九月辛  
 酉紀に據て改む  
 ○入居、原本入を人に作  
 る金本に據て改む  
 ○善藻、原本藻を藤に作  
 る金本曾本淀本に據て改  
 む古本曾網補任亦同じ  
 (十一月)祀天神、此事  
 六年十一月甲寅及齊衡三  
 年十一月壬戌條に亦見ゆ  
 ○誣告謀反、大伴家持等  
 皇太子早良親王を奉じて  
 君さし朝廷を傾け奉らむ  
 さす誣告せしを云るな  
 るべし  
 ○交野柏原、河内志交野  
 郡古蹟條に廢郊祀壇在  
 片鉾村云々壇上有老杉  
 今日交野原一本杉さあ  
 り片鉾は今北河内郡山田  
 村大字さなる一説に同郡  
 牧野村大字坂式内神片野  
 神社は其遺祠なり云  
 ○旅子、七年五月辛亥紀

五位下橘、朝臣入居、爲中衛、少將、近江、介如故、正五位下笠、朝臣名末呂、  
 爲右兵衛督、皇后宮、亮如故、外從五位下白鳥、村主元麻呂、爲武藏、大掾、  
 從五位上藤原、朝臣眞友、爲下總守、左京、大夫、右衛士、督從三位坂上、大  
 宿禰、菟田麻呂、爲兼越前守、從五位上藤原、朝臣內麻呂、爲介、從五位下  
 川邊、朝臣淨長、爲安藝、介、○庚辰、以善藻法師、爲律師、○辛巳、從五位下  
 春階、王、爲遠江守、從五位下紀、朝臣繼成、爲讚岐、介、○己丑、河内、國破壞、  
 隄防卅處、單功卅万七千餘人、給糧、修築之、○十一月癸巳朔、授從四位  
 上石川、朝臣垣守、正四位上、○庚子、能登守、從五位下三國、眞人廣見、坐  
 誣告謀反、合斬、減死一等、配佐渡國、○壬寅、祀天神於交野、柏原、賽宿禰  
 也、○甲辰、從五位下平羣、朝臣清麻呂、爲大膳、亮、外從五位下麻田、連、狛  
 賦、爲典藥頭、○丙辰、授無位藤原、朝臣旅子、從三位、從五位上笠、女王正  
 五位下、○丁巳、詔立安殿親王、爲皇太子、大赦天下、高年孝義及鰥寡孤  
 獨、不能自存者、並加賑恤焉、是日、授從四位下紀、朝臣古佐美、從四位  
 上、正五位下大中臣、朝臣諸魚、笠、朝臣名末呂、並正五位上、從五位上文

の本傳に五年正月進爲  
 夫人(四四九頁)見ゆ  
 ○名末呂、金本淀本末を  
 未にする  
 ○水通、原本子老に作る  
 金本曾本淀本に據て改む  
 閣本には此二字闕く忠本  
 にも闕けしを子老の二字  
 を補へりされば子老さあ  
 るは後人の推測を以て加  
 筆せること明なり  
 ○從五位下佐伯宿禰老、  
 從以下四字は金本曾本淀  
 本に據て補ふ  
 ○楫長、原本楫を揖に作  
 る金本曾本淀本に據て改  
 む楫長或は楫長又勝長に  
 作る  
 ○學士、原本士を子に作  
 る金本曾本淀本に據て改  
 む  
 ○安倍朝臣廣津麻呂、原  
 本臣下に口字あり衍なり  
 金本曾本淀本に據て削る  
 金本には麻呂の二字なし  
 ○庚子、已に前に出づ此  
 條も上の庚子の下に移す  
 べきなり一本に庚申さあ  
 りさいへご未ださる本を  
 見ず尙よく尋ねべし  
 ○上下、原本上下に作る  
 金本閣本曾本に據て改む  
 (十一月)勝首益麻呂、  
 錄山城諸蕃に勝氏見ゆれ

室、眞人水通、正五位下、從五位下佐伯、宿禰老、從五位上、外從五位下津、  
 連眞道、正六位上藤原、朝臣仲成、藤原、朝臣縵麻呂、紀、朝臣楫長、坂上、大  
 宿禰、田村麻呂、並從五位下、外從五位下上毛野、公我人、池原、公綱、主、並  
 外從五位上、又以右大弁從三位兼播磨、守石川、朝臣名足、近衛、大將從  
 三位兼中宮、大夫常陸、守紀、朝臣船守、並爲中納言、大納言中務卿正三  
 位藤原、朝臣繼繩、爲兼皇太子、傅、大外記從五位下朝原、忌寸道永、左兵  
 衛、佐從五位下津、連眞道、並爲學士、參議從四位上紀、朝臣古佐美、爲春  
 宮、大夫、中衛、中將式部、大輔但馬、守如故、從五位上安倍、朝臣廣津麻呂、  
 爲亮、皇后宮、少進常陸、大掾如故、○庚子、詔賀茂上下、神社充愛宕郡、封  
 各十戶、○十二月辛未、近江、國人從七位下勝、首益麻呂、起去二月、迄  
 十月、所進役夫摠三万六千餘人、以私糧給之、以勞授外從五位下、而讓  
 其、父眞公、有勅許之、○甲申、故遠江、介從五位下菅原、宿禰古人、男四人、  
 給衣糧、令勤學業、以其父侍讀之勞也、



〇同族なるか詳ならず益字は諸本及紀略に據て補ふ  
 〇古人、尊卑分脈に古人弘仁十年卒年七十あり此と合はず  
 〇男四人、菅原氏系圖に古人子三人清公、清岡、清人あり餘一人を載せず  
 〇給衣糧、木野戸翁云按二中歷卷十二登省給料條菅清公桓武天皇給衣糧令勸學也給料之起始于茲也

續日本紀卷第卅八

續日本紀卷第卅九

起延曆五年正月盡七年十二月

右大臣正二位兼行皇太子傅中衛大將臣藤原朝臣繼繩等奉 勅撰

今皇帝

〔延曆五年〕

〇文室真人高嶋、金本室を屋に作る

五年春正月壬辰朔、宴五位已上、賜祿有差。〇乙未、授無位長津王從五位下。〇戊戌、宴五位已上、授正四位下神王正四位上、從四位上壹志濃王正四位下、從五位下篠嶋王從五位上、從四位上大中臣朝臣子老正四位下、正五位上紀朝臣犬養從四位下、正五位下文室真人高嶋從五位上藤原朝臣雄友藤原朝臣內麻呂並正五位上、從五位上藤原朝臣菅繼正五位下、從五位下藤原朝臣乙叡從五位上、外從五位下長尾忌寸金村物部多藝宿禰國足外正五位下丹比宿禰真淨外從五位上上毛野公大川正六位上佐伯宿禰志賀麻呂阿倍朝臣名繼從七位上和朝臣家麻呂正六位上多治比真人賀智紀朝臣楫人藤原朝臣清主百



○坂上大宿禰苅田麻呂  
薨、寶字八年九月乙巳紀  
に始見、傳は此に見るが  
如し

濟王孝德、並從五位下、宴訖、賜祿有差、左京大夫從三位兼右衛士督下  
總守坂上大宿禰苅田麻呂薨、苅田麻呂正四位上、犬養之子也、寶字中  
任授刀少尉、八年、惠美仲麻呂作逆、先遣其息訓儒麻呂、邀奪鈴印、苅田  
麻呂與將曹牡鹿嶋足共奉詔載馳、射訓儒麻呂而殺之、以功授從四  
位下勳二等、賜姓大忌寸、補中衛少將兼甲斐守、語在廢帝紀、寶龜初、加

○近衛員外中將、金本會  
本從木近衛の下に中將の  
二字あり

正四位下、出爲陸奥鎮守將軍、居無幾、徵入、歷近衛員外中將、丹波伊  
豫等國守、天應元年、授正四位上、遷右衛士督、苅田麻呂家世、事弓馬善、  
馳射宿衛、宮掖、歷事數朝、天皇寵遇優厚、別賜封五十戶、延曆四年、授從  
三位、拜左京大夫、右衛士督、下總守如故、薨時年五十九、○乙巳、授正四  
位上紀、朝臣宮子橘、朝臣眞都賀、藤原朝臣諸姉、並從三位、從四位下美  
作、女王從四位上、從五位下八上、女王正五位下、從五位下忍坂、女王置  
始、女王並從五位上、從四位上多治比、眞人古奈禰、正四位下、正五位上  
武藏宿禰家刀自、從四位下、正五位下藤原朝臣春蓮、藤原朝臣勤子、並

正五位上、從五位下坂上、大宿禰又子、藤原朝臣明子、三嶋宿禰廣宅、並  
正五位上、從五位下安倍、朝臣黑女、從五位上、外從五位下山口、宿禰家  
足、無位紀、朝臣古刀自、藤原朝臣姉、藤原朝臣鷹子、正六位上賀茂、朝臣  
三月、無位錦部連姉繼、並從五位下、○戊申、以從三位藤原朝臣旅子爲  
夫人、○壬子、於近江國滋賀郡始造梵釋寺矣、○乙卯、以從五位下藤原  
朝臣宗嗣爲伊勢守、從五位下和、朝臣家麻呂爲大掾、外從五位下井上  
直牛養爲尾張介、從五位下紀、朝臣廣足爲駿河守、內藥正侍醫從五位  
下吉田連古麻呂爲兼常陸大掾、正四位下多治比、眞人賀智爲信濃介、正五  
從五位下紀、朝臣楫長爲介、從五位下多治比、眞人賀智爲信濃介、正五  
位上藤原朝臣內麻呂爲越前守、春宮亮從五位上安倍朝臣廣津麻呂  
爲兼介、從五位上文室眞人忍坂麻呂爲因幡守、從五位下藤原朝臣眞  
鷲爲伯耆守、式部少輔從五位下笠朝臣江人爲兼播磨大掾、從五位下  
伊勢朝臣水通爲紀伊守、○己未、地震、從五位下安倍朝臣枚麻呂爲大  
監物、從五位下藤原朝臣縵麻呂爲皇后宮大進、正五位上安倍朝臣家  
麻呂爲左大舍人頭、從五位下安倍朝臣名繼爲右大舍人助、從五位上

○黑女、原本黒を里に作  
る二年二月壬子條に據て  
改む

○梵釋寺、高僧記に桓武  
天皇御宿願建立梵釋寺  
皇子之昔與參議百川相  
講造立梵天帝釋二天像  
各長五尺等、皇子之身此  
祈登極也、踐祚之初、延曆  
二年癸亥、建立梵釋寺、安  
置二天像、また類史百八  
十に延曆十四年九月己酉  
詔曰云々是以披山水名  
區草創禪院、盡土木妙  
製莊飾伽藍、名曰梵釋  
寺、仍置清行禪師十人、云  
々さあり所在は近江與地  
志略志賀郡見世村の條に  
今其遺蹟不詳然れども崇  
福寺の邊なるべしと云り  
○宗嗣、原本宗を崇に作  
る金本閣本會本に據て改  
む

○從五位下吉田連古麻  
呂、從五位下の四字は金  
本會本從本に據て補ふ



○佐伯宿禰久良麻呂、良字は金本曾本及九月乙卯紀に據て補ふ。  
○爲左京大夫、金本曾本淀本左上に兼字あるは非なり。  
○中衛少將、原本衛を將に作る金本曾本淀本に據て改む。

二月

○石川朝臣名足、朝臣の二字は金本曾本淀本に據て補ふ。

紀朝臣作良爲大學頭、從五位下縣犬養宿禰繼麻呂爲散位、助、外從五位下林連浦海爲主計、助、從五位下藤原朝臣乙友爲宮内少輔、從五位下文室真人久賀麻呂爲木工頭、外從五位下國中連三成爲助、外從五位下上村主虫麻呂爲官奴、正、從四位上佐伯宿禰久良麻呂爲左京大夫、從五位下藤原朝臣繩主爲中衛少將、從五位下藤原朝臣仲成爲衛門佐、皇后宮亮、正五位上笠朝臣名末呂爲兼右衛士督、從五位上百濟王玄鏡爲右兵衛督、從五位下文室真人大原爲佐、從五位下大宅朝臣廣江爲美濃介、從五位下安倍朝臣眞黑麻呂爲出雲介、○二月己巳、出雲國造出雲臣國成奏神吉事、其儀如常、賜國成及祝部物各有差、○丁丑、從四位上紀朝臣古佐美爲右大弁、春宮大夫、中衛、中將、但馬守、如故、中納言從三位石川朝臣名足爲兼中宮大夫、左大弁、播磨守、如故、正五位上內藏宿禰全成爲內藏頭、中納言近衛大將從三位紀朝臣船守爲兼式部卿、常陸守、如故、正五位上大中臣朝臣諸魚爲大輔、左兵衛督、如故、正四位下大中臣朝臣子老爲兵部卿、神祇伯、如故、正五位上藤原

○彈正弼、原本彈を驛に作る金本曾本に據て改む。

○四月、詔曰云々、此詔三代格卷七に見ゆ。

○莅政、原本莅を莅に作る金本曾本に據て改む、莅は字書に臨也とあり。  
○貶黜、三代格に黜を陟に作る。

○撫育有方、原本に撫を無に作る諸本及三代格に據て改む。  
○判斷、原本判斷に作る金本に據て改む、曾本判を割に作る。  
○當前二條、格前字の下に件字あり下同じ。  
○擢以不次、諸本及格以を之に作る。

朝臣雄友爲大輔、正五位下文室真人水通爲大藏大輔、從五位下大原真人美氣爲彈正弼、從四位下石上朝臣家成爲衛門督、兵部大輔、正五位上藤原朝臣雄友爲兼左衛士督、內厩頭、從五位上三嶋真人名繼爲兼山背守、外從五位下御使朝臣淨足爲美濃介、從五位下大宅朝臣廣江爲丹後介、○夏四月庚午、詔曰、諸國所貢庸調支度等物、每有未納、交關國用、積習稍久、爲弊已深、良由國宰郡司遞相怠慢、遂使物漏民間、用乏官庫、又其莅政治民、多乖朝委、廉平稱職、百不聞一、侵漁潤身、十室而九、忝曰官司、豈合如此、宜量其狀、隨事貶黜、其政績有聞、執掌無廢者、亦當甄錄、擢以顯榮、所司宜詳沙汰、明作條例、奏聞、於是太政官商量、奏其條例、撫育有方、戶口增益、勸課農桑、積實倉庫、貢進雜物、依限送納、肅清所部、盜賊不起、判斷合理、獄訟無冤、在職公平、立身清慎、且守且耕、軍糧有儲、邊境清肅、城隍修理、若有國宰郡司、鎮將邊要等官、到任三年之內、政治灼然、當前二條已上者、五位已上者、量事進階、六位已下者、擢以不次、授以五位、在官貪濁、處事不平、肆行姦猾、以求名譽、



○請託、原本託を託に作る諸本及格に據て改む  
○成卒、閣本成を戎に作る字書に成は守邊也とあり  
○同前群官、格に群を郡に作る

○維敬宗、原本維を縦に作る金本曾本淀本に據て改む閣本忠本縦に作る  
○長井忌寸、姓氏錄に載せず他史にも見えず  
○四天王寺云々、景雲元年十一月壬寅紀及寶龜四年二月己未紀を參考すべし  
○印南郡、抄國郡部に播磨國印南(伊奈美)郡とあり  
○今當班田、今年は班田の年に當れりとなり五畿内に班田使を遣さる、事九月乙卯の條に見ゆ  
○五月、石川朝臣垣守卒、寶字八年九月丁未紀始見、木工頭安房守中務大輔右京大夫伊豫守左京大夫武藏守等を歴任す

改遊無度、擾亂百姓、嗜酒沈湎、廢闕公務、公節無聞、私門日益、放縱子弟、請託公行、逃失數多、克獲數少、統攝失方、成卒違命、若有同前、群官不務職掌、仍當前一條已上者、不限年之遠近、解却見任、其違乖、撫育勸課等條者、亦望准此而行之、奏可之、授正三位藤原朝臣繼繩從二位、從四位上石川朝臣豐人爲中宮大夫、中納言左大弁從三位石川朝臣名足爲兼皇后宮大夫、播磨守如故、大納言從二位藤原朝臣繼繩爲兼民部卿、東宮傳如故、參議正三位佐伯宿禰今毛人爲大宰帥、○乙亥、左京人正七位上維敬宗等、賜姓長井、忌寸、播磨國言、四天王寺、飭磨郡、水田八十町、元是百姓口分也、而依太政官符、入寺、訖、因茲百姓口分、多授比郡營種之勞、爲弊實深、其印南郡、戶口稀少、田數巨多、今當班田、請遷飭磨郡、置印南郡、許之、○戊寅、式部大輔正五位上大中臣朝臣繼麻呂爲大和守、爲兼右京大夫、左兵衛督如故、從五位上大中臣朝臣繼麻呂爲大和守、○五月辛卯、新遷京都、公私草創、百姓移居多、未豐贍、於是詔賜左右京及東西市人物、各有差、○癸巳、宮內卿正四位上石川朝臣垣守卒、○庚

○六月己未朔、原本己未の朔なること明なり故に改む  
○去寶龜三年制、交替式延曆廿二年二月太政官符に寶龜三年八月十五日格を引けるが文に異同あり

○共所預知、原本預を領に作る金本及類史に據て改む  
○燒正倉云々、寶龜四年二月辛亥紀同八月庚午紀を參考すべし

○阿倍朝臣弟當、金本曾本淀本阿倍を安陪に作る

子、正四位下伊勢朝臣老人爲縫殿頭、從五位下巨勢朝臣廣山爲大和介、○六月己未朔、先是去寶龜三年制、諸國公廨處分之事、前人出舉、後人收納、彼此有功、不合無料、前後之司、宜各平分、至是勅、出舉收納、其勞不同、宜革前例、一依天平寶字元年十月十一日、式收納之前、所有公廨、入於後人、收納之後、入於前人、又勅、撫育百姓、糾察部內、國郡官司同職掌也、然則國郡功過、共所預知、而頃年有燒正倉、獨罪郡司、不坐國守、事稍乖理、豈合法意、自今以後、宜奪國司等公廨、惣填燒失官物、其郡司者、不在會赦之限、○丁卯、以從五位上藤原朝臣乙叡、從五位下文室真人眞屋麻呂、並爲少納言、右大弁從四位上紀朝臣古佐美爲左大弁、春宮大夫中衛中將但馬守如故、從五位下阿倍朝臣弟當爲右少弁、從五位下上毛野公大川爲主計頭、大外記如故、中納言從三位石川朝臣名足爲兼兵部卿、皇后宮大夫播磨守如故、從五位下多治比真人公子爲大藏少輔、正四位下大中臣朝臣子老爲宮內卿、神祇伯如故、大納言從二位藤原朝臣繼繩爲兼造東大寺長官、東宮傳民部卿如



○藤原朝臣諸姉薨、景雲三年十月甲子紀に始見  
 ○贈妃、旅子を云七年五月辛亥紀に夫人從三位藤原朝臣旅子薨云々宣詔贈妃并正一位云々あり  
 ○七月朝座、八省院朝堂の座を云  
 ○八月阿保朝臣人上、原本保を倍に作る金本及三年十一月戊午紀に據て改む  
 ○文室真人大原、金本室を屋に作る  
 ○正倉被燒云々、寶龜四年八月庚午紀を參考すべし  
 ○譜第之徒、原本第を弟に作る金本曾本及類史に據て改む下同  
 ○神災人火、災火の別は左傳宣十六年に凡火人火曰火天火曰災さあるに據れり  
 ○盧如津、原本盧を盧に作る諸本及姓氏錄に據て改む  
 ○清川忌寸、錄左京諸蕃清川忌寸唐人正六位上盧如津入朝焉沈惟岳同時也  
 ○九月四十一人、關本淀本四十を卅に作る、一本に五十二人を作るさあるは六十五人の數に合せ

故 ○丁亥、尙縫從三位藤原朝臣諸姉薨、内大臣從一位良繼之女也、適贈右大臣百川生女、是贈妃也 ○秋七月壬寅、正五位下羽栗臣翼爲内藥、正兼侍醫 ○丙午、太政官院成、百官始就朝座焉 ○八月甲子、以從四位下巨勢朝臣苗麻呂爲左中弁、河内守如故、從四位上和氣朝臣清麻呂爲民部大輔、攝津大夫如故、從五位下中臣朝臣必登爲參河介、從五位上阿保朝臣人上爲武藏守、從五位下紀朝臣楫人爲介、從五位下文室真人大原爲下總介、中宮大進從五位下物部多藝、宿禰國足爲兼常陸大掾、正五位下粟田朝臣鷹守爲上野守、使從五位下佐伯宿禰葛城於東海道、從五位下紀朝臣楫長於東山道、道別判官一人、主典一人、簡閱軍士、兼檢戎具、爲征蝦夷也、勅曰、正倉被燒、未必由神、何者、譜第之徒、害傍人而相燒、監主之司、避虛納以放火、自今以後、不問神災人火、宜令當時國郡司填備之、仍勿解見任絕、譜第矣 ○戊寅、唐人盧如津賜姓清川忌寸 ○九月甲辰、出羽國言渤海國使大使李元泰已下六十五人、乘船一隻、漂著部下、被蝦夷略十二人、見存四十一人 ○

むて殊更に數字を改めしなるべし故に輒く改めず姑く舊に依る  
 ○驛戶、三代格卷十四弘仁十三年正月五日太政官符に應、驛戶給借貸并口分田授、一處事右云々天下重役莫過驛戶、夏月飲河不願、產業冬日履霜、常事遞送、雖免其庸、僑動苦倍於平民、伏望諸國驛子准書生例、每戶量給借貸二百束、兼擇驛家、近側好田混授一處云々(又類史八十四に見ゆ)民部式に凡美濃國坂本土岐大井三驛信濃國阿知驛子課役並免其畿内驛子亦免課倍さあり  
 ○班田左長官、今年班田の年に當るが故に班田使を任命せらる田令に凡應班田者云々起十月一日京國官司預校勘造簿至十一月一日檢集應受之人對共給授さあり故に之に先ちて此任命ありしなり  
 ○十月物部志太連、養老七年三月戊子紀常陸國信田郡人物部國依改賜信太連姓さあり同姓なり

○丁未、攝津職言、諸國驛戶、免庸輸調、其畿内者、本自無庸、比于外民、勞逸不同、逋逃不禁、良爲此也、驛子之調、請從免除、許之、自餘畿内之國、亦准此例 ○乙卯、以正四位上神王爲大和國班田左長官、從五位下石川朝臣魚麻呂爲次官、從四位上佐伯宿禰久良麻呂爲右長官、外從五位下鳴田臣宮成爲次官、從四位下巨勢朝臣苗麻呂爲河内和泉長官、從五位上紀朝臣作良爲次官、從四位上和氣朝臣清麻呂爲攝津長官、從五位下藤原朝臣葛野麻呂爲次官、正四位下壹志濃王爲山背長官、從五位下多治比真人繼兄爲次官、使別判官二人、主典二人 ○冬十月甲子、以外從五位下忌部宿禰人上爲神祇少副、正五位下高賀茂朝臣諸魚爲中宮亮、從五位下文室真人眞屋麻呂爲右大舍人、頭、從五位下高倉朝臣殿嗣爲立蕃頭、從五位下淺井王爲内匠頭、正五位下廣上王爲内禮正、從五位下八上王爲諸陵頭、外從五位下息長真人清繼爲木工助、衛門大尉外從五位上上毛野公我人爲兼西市正、從五位上文室真人子老爲尾張守、從五位下縣犬養宿禰堅魚麻呂爲信濃守、從五位下



○周百姓急、論語雅也篇に君子周急不繼富さあるに據れり  
 ○田原陵、諸陵式に田原東陵平城宮御宇天宗高紹天皇在大和國添上郡大和志に在東田原村、陵墓要覽に同郡田原村大字日笠あり  
 (十二月)乙卯、是月丙辰朔にして乙卯なし誤あらむ已卯ならば廿四日なり  
 ○路三野真人石守、養老三年正月壬寅紀に三野真人三嶋見え萬葉第八には三野連石守を載せたり是と同否を詳にせず  
 ○馬養、寶字八年十月庚午紀に三野真人馬甘さあり  
 【延曆六年】

阿倍朝臣草麻呂爲豐前守、○丁丑常陸國信太郡大領外正六位上物部志太連大成以私物周百姓急授外從五位下、○戊寅授從七位上大津連廣刀自外從五位下、○庚辰授采女正六位上三野臣淨日女外從五位下、○辛巳授正六位上中臣栗原連子公外從五位下、○甲申改葬太上天皇於大和國田原陵、○十一月丁未從五位下巨勢朝臣總成爲遠江守、○十二月乙卯陰陽助正六位上路三野真人石守言己父馬養姓無路字而今石守獨著路字請除之許焉、○辛巳叙從五位下松尾神從四位下、  
 (丙辰朔)六年春正月壬辰授正四位下多治比真人長野從三位無位矢庭王大庭王正六位上岡田王並從五位下從四位下大伴宿禰潔足從四位上從五位上文室真人波多麻呂安倍朝臣常鳴藤原朝臣眞友並正五位下從五位下文室真人久賀麻呂阿倍朝臣弟當藤原朝臣宗嗣紀朝臣眞子並從五位上正六位上大原真人長濱橘朝臣安麻呂藤原朝臣今川百濟王玄風正六位下紀朝臣全繼從六位上巨勢朝臣人公正六位

(二月)廣根朝臣、錄左京皇別廣根朝臣諸勝是光仁天皇龍潛之時女孀從五位下縣犬養宿禰勇耳侍御而所生也  
 ○長岡朝臣、同に長岡朝臣岡成是皇統彌照天皇詔桓武之御東宮也多治比真人豐繼爲女孀而供奉所生也  
 ○爲兼相摸守、兼字は諸本に據て補ふ  
 ○紀朝臣真人、原本眞を直に作る曾本澁本に據て改む  
 ○美濃介、原本濃を伴に作るは非なり金本閣本會本忠本に據て改む美作介ならむには下文爲兼美作守の次にあるべきなり  
 ○從五位下紀朝臣馬守、原本下を上に作る金本及四年十月庚午紀に據て改む  
 ○雄倉王、上文雄を小に作る

上石川朝臣永成並從五位下、○二月庚申勅諸勝賜姓廣根朝臣岡成長岡朝臣以從五位下高倉朝臣石麻呂爲中務少輔從五位下中臣朝臣比登爲和泉守從五位下甘南備真人繼成爲伊賀守外從五位下御使朝臣淨足爲參河介近衛少將從五位上佐伯宿禰老爲兼相摸守少納言如故從五位下紀朝臣真人爲介從五位下百濟王玄風爲美濃介從五位下佐伯宿禰葛城爲陸奥介從五位下石淵王爲若狹守從五位下紀朝臣馬守爲越中守從五位下丹比宿禰眞淨爲丹波介從五位下大宅朝臣廣江爲丹後守外從五位下丹比宿禰稻長爲伯耆介中納言正三位藤原朝臣小黒麻呂爲兼美作守中務卿如故從五位下紀朝臣安提爲備中守從五位上雄倉王爲阿波守正五位上內藏宿禰全成爲讚岐守陸奥介從五位下佐伯宿禰葛城爲兼鎮守副將軍、○癸亥以從五位下石浦王爲少納言從五位下石川朝臣永成爲左大舍人助從五位下榮井宿禰道形爲內藏助從五位下橘朝臣安麻呂爲雅樂助從五位下巨勢朝臣人公爲民部少輔外從五位下麻田連眞淨爲主稅助外



○主馬頭、頭は首さあるべし  
 ○柁師、原本柁か柁に作る金本に據て改む柁師は敏達紀十二年に見ゆ抄人倫部に柁師文選吳都賦云柁工柁師、和名加知止利、さあり箋注に柁師を除きて挾抄を擧げ挾抄唐令云挾抄(和名加知利)柁師(和名同上)按說文抄木標末也用、木抄、刺以進、舟故、轉謂進、舟具爲抄也、さあり之に據れば柁師挾抄は同訓なれど職に上下の區別あるべし  
 ○水手、抄人倫部に水手文選江賦云舟子(和名布奈古)日本紀私記云水手(加古)さあり  
 (三月)乙亥、是月乙酉朔なれば乙亥なし疑くは己亥の謬己亥は十五日  
 ○飽波女王卒、寶龜元年十一月甲子紀に始見二年二月壬子飽浪王に作る  
 ○癡疾、原本癡を廢に作る曾本に據て改む金本閣本癡を癩に作る

從五位下奈良忌寸長野爲鼓吹正從五位下阿倍朝臣祖足爲左京亮從五位下石川朝臣魚麻呂爲攝津亮從五位下藤原朝臣繩主爲右衛士佐從五位下大伴王爲主馬頭○甲戌渤海使李元泰等言元泰等入朝時柁師及挾抄等逢賊之日並被劫殺還國無由於是仰越後國給船一艘柁師挾抄水手而發遣焉○庚辰以從五位上大伴宿禰弟麻呂爲右中弁從五位上文室真人久賀麻呂爲攝津亮從五位下和朝臣國守爲參河守從五位上多治比真人濱成爲常陸介從五位下佐伯宿禰葛城爲下野守從五位下藤原朝臣葛野麻呂爲陸奥介從五位下石川朝臣魚麻呂爲丹後守從五位下池田朝臣眞枚爲鎮守副將軍○三月丁亥宴五位已上於內裏召文人令賦曲水宴訖賜祿各有差○乙亥散事從四位上飽波女王卒○甲辰詔曰養老之義著自前修歷代皇王率由斯道方今時屬東作人赴南歎迺瞻生民情深矜恤其左右京五畿內七道諸國百歲已上各賜穀二斛九十已上一斛八十已上五斗鰥寡孤獨及癡疾之徒者量其老幼三斗已下一斗已上仍令本國長

○親至鄉邑、原本至を見到作る諸本に據て改む  
 (四月)榮山忌寸、三年六月辛丑紀に出づ  
 ○武藏國、國の字は金本曾本淀本に據て補ふ  
 ○武藏宿禰家刀自卒、寶龜元年十月癸丑紀に始見  
 ○佐佐貴山公、原本佐一字なし諸本に據て補ふ佐々貴山君は天平十六年八月乙未紀に見ゆ  
 (五月)蘇敬注新修本草、唐書藝文志に蘇敬新修本草二十一卷、式部式に凡醫生皆讀蘇敬新修本草さ見ゆ  
 ○陶隱居集注本草、唐書藝文志に陶弘景集注本草七卷、現在書目亦之を載す  
 ○增一百餘條、本草注に李時珍曰唐高宗命司空英國公李勣等修陶隱居所註神農本草經增爲七卷世謂之英公唐本草頗有增益顯慶中右監門長史蘇恭重加訂註表請修定帝復命大尉趙國公長孫無忌等二十二人與恭詳定增藥一百一十四種分爲玉石草木人獸禽蟲魚果米穀菜有名未用十一部凡二十卷目錄一卷別

官親 至鄉邑存情賑贍○丙午以從五位上中臣朝臣常爲神祇大副從五位下藤原朝臣繩主爲少納言從五位上阿倍朝臣弟當爲左少弁從五位下笠朝臣江人爲右少弁播磨大掾如故正五位下藤原朝臣眞友爲右大舍人頭下總守如故近衛將監從五位下坂上大宿禰田村麻呂爲兼內匠助從五位上安倍朝臣廣津麻呂爲式部少輔春宮亮越前介如故從五位下朝原忌寸道永爲大學頭東宮學士文章博士越後介如故從五位上紀朝臣作良爲治部大輔從五位下文室真人眞屋麻呂爲少輔從五位下文室真人八嶋爲正親正從五位下廣田王爲鍛冶正從五位上藤原朝臣乙叡爲右衛士佐○夏四月乙卯朔唐人王維倩朱政等賜姓榮山忌寸○乙丑武藏國足立郡采女掌侍兼典掃從四位下武藏宿禰家刀自卒○庚午山背國獻白雉○戊寅授蒲生采女從七位下佐佐貴山公賀比外從五位下○五月己丑有勅令皇太子帶劍于時太子未加元服矣○戊戌典藥寮言蘇敬注新修本草與陶隱居集注本草相檢增一百餘條亦今採用草藥既合敬說請行用之許焉○壬寅



爲藥圖二十五卷圖經七卷共五十三卷世謂之唐新本草蓋宋人避翼祖諱而改換也云云

○忍海原連、十年正月己巳紀に葛木襲津彦之第六子熊道足禰の後と見ゆ

〔閏五月〕丈部、原本丈を大に作る金本述本に據て改む

○巨勢朝臣苗麻呂卒、原本に朝字無し金本曾本述本及四年正月辛亥紀に據て補ふ寶字元年七月庚戌紀始見、少納言駿河守兵部大輔左中辨信濃守等を歷任す

〔六月〕平田忌寸、錄右京諸蕃坂上大宿禰同祖

○於忌寸、同祖原本於の下に保字あり諸本に據て削る  
○林臣、錄左京皇別林朝臣石川朝臣同祖武内宿禰之後也とあり

授從四位上紀、朝臣古佐美正四位下、正五位上大中臣、朝臣諸魚笠、朝臣名末呂藤原、朝臣雄友藤原、朝臣内麻呂並從四位下、○乙巳、授正六位上忍海原連魚養外從五位下、○戊申、以從五位下多治比真人豐長爲内藏助、春宮少進如故、外從五位下榮井宿禰道形爲造兵正、外從五位下中臣栗原連子公爲大炊助、從五位上藤原朝臣乙叡爲中衛少將、少納言從五位下藤原朝臣繩主爲兼右衛士佐、從五位下山上王爲内兵庫正、○閏五月丁巳、陸奥鎮守將軍正五位上百濟王俊哲坐事、左降日向權介、○癸亥、左右京二職所掌調租等物、色目非一或不勤徵收多致未納、或犯用其物、遷替之司貽累、後人於是始准攝津職、與解由放焉、○戊寅、外從五位下白鳥村主元麻呂爲織部正、從五位上丈部大麻呂爲隱伎守、從五位上文室真人於保爲備後守、○己卯、左中弁兼河内守從四位下巨勢朝臣苗麻呂卒、○六月辛丑、正六位上平田忌寸杖麻呂、路忌寸泉麻呂、從七位下蚊屋忌寸淨足、從八位上於忌寸弟麻呂等四人並改忌寸、賜宿禰姓、○壬寅、河内國志紀郡人林臣海主野守等改

〔七月〕大友民曰佐、原本曰を日に作る金本述本に據て改む下同

○錦曰佐、倭名抄郡郷部を按るに近江國滋賀郡並に淺井郡に錦部郷あり錦は此に據れる名なるべし曰佐は譯語にて其職掌に因れる戸なり

○周興、原本興を與に作る諸本に據て改む  
○穴太村主、穴太は近江國志賀郡にあり穴太村主は錄右京雜姓志賀穴太村主後漢孝獻帝男美波夜王之後とあり

○志賀忌寸、錄攝津諸蕃志賀忌寸後漢獻帝之後也とあり  
○先是云々、八年五月丙辰紀及寶龜十年八月庚申紀を參看すべし

○返鈔、金本述本返抄に作る  
○求預考例、原本求を永に作る金本に據て改む  
○釐務、字書に釐は理也又治也とあり

○自其時後、諸本自時其後に作る  
○緩怠、原本緩を後に作る金本に據て改む  
〔八月〕高橋津、山城國

臣賜朝臣、○秋七月己未、太白晝見、○戊辰、右京人正六位上大友村主廣道、近江國野洲郡人正六位上大友民、曰佐龍人淺井、郡人從六位上錦曰佐周興、蒲生郡人從八位上錦曰佐名吉坂田、郡人大初位下穴太村主眞廣等、並改本姓賜志賀忌寸、○丙子、先是去寶龜十年立制、牧宰之輩奉使入京、或無返鈔而歸、任或稱病而滯京下、求預考例兼得公廨、如此之類、莫預釐務、國司奪料、郡司解任、容許之司亦同此例、而自其時後、希有遵行、至是重下知、諸國不悛、前過猶致、緩怠即科違勅罪矣、○八月丙申、以治部卿正四位下壹志濃王爲參議、○甲辰、行幸高橋津、還過大納言從二位藤原朝臣繼繩、第授其室正四位上百濟王明信從三位、○九月丁卯、以近衛少將從五位下紀朝臣兄原爲兼少納言、從五位上大伴宿禰弟麻呂爲左中弁、從五位上文室真人與企爲右中弁、中納言從三位石川朝臣名足爲兼左京大夫、兵部卿皇后宮大夫如故、從五位下高倉朝臣殿嗣爲亮、從五位下坂上大宿禰田村麻呂爲近衛少將、内匠助如故、從五位下采女朝臣宅守爲日向守、○丁丑、先是贈



乙訓郡山崎の地なるべしといふ  
 ○九月、從五位下采女朝臣、從五位下の四字は金本曾本淀本に據て補ふ  
 ○井手宿禰、井手は大和國添上郡井手村に因れるなるべし  
 ○十月、含生之民、含生は生命を含有するを云  
 ○大賚、論語堯曰篇に周有大賚、さあり賚は賞賜なり  
 ○有年、豐年を云  
 ○給粟、粟は字書に賜穀也古者給人、以食取之食糜也さあり  
 ○效邑、長岡を云  
 ○言念居民、原本居を此に作る諸本に據て改む  
 ○騷然、原本騷を驗に作る金本淀本に據て改む騷は憂也さ字書に見ゆ  
 ○繼繩別業、河内志に廢趾在交野郡楠葉村、今有地名藤原さあり  
 ○元信、原本信を眞に作る金本類史及九年三月王辰紀に據て改む  
 ○正五位下藤原朝臣明子、正五位下の四字は諸本及類史に據て補ふ  
 ○笠朝臣名末呂卒、寶龜二年十一月戊申紀始見

左大臣藤原朝臣種繼、男湯守有過除籍、至是賜姓井手宿禰、○冬十月丁亥、詔曰、朕君臨四海、于茲七載、未能使含生之民共洽淳化、率土之內咸致雍熙、顧惟虛薄、良用慙嘆、而天下諸國、今年豐稔、享此大賚、豈獨在予、思與百姓慶斯有年、其賜天下高年百歲已上穀人三斛、九十已上人二斛、八十已上人一斛、鰥寡孤獨、疾之徒、不能自存者、所司准例加賑恤、仍各令本國次官已上巡縣鄉邑、親自給粟、又朕以水陸之便、遷都茲邑、言念居民、豈無騷然、宜免乙訓郡延曆三年出舉、未納其郡司主帳已上賜爵人一級、○丙申、天皇行幸交野、放鷹遊獵、以大納言從二位藤原朝臣繼繩、別業爲行宮矣、○己亥、主人率百濟王等奏種種之樂、授從五位上百濟王玄鏡、藤原朝臣乙叡、並正五位下、正六位上百濟王元信、善貞、忠信、並從五位下、正五位下藤原朝臣明子、正五位上、從五位下藤原朝臣家野、從五位上、無位百濟王明本、從五位下、是日還宮、○癸卯、從五位下佐伯宿禰葛城爲民部少輔、下野守如故、○甲辰、右衛士督從四位下兼皇后宮亮丹波守勳五等笠朝臣名末呂卒、○十一月

齋宮頭大宰少貳近衛少將左少弁皇后宮亮右兵衛督右衛士督等を歷任す  
 ○十一月、祀天神於交野、上に注す  
 ○嗣天子臣、尙書立政に拜手稽首告嗣天子王矣さあり天命を繼承する子の意  
 ○昊天上帝、昊天爾雅に秋爲昊天、注に慈萬物影落也、辭源に凡稱天曰昊天、言仁覆慈下也さあり上帝は天帝を云、賤命、尙書大禹謨に出づ、賤は脊に同じ  
 ○覆燾、原本燾字の連火を心に作る金本曾本淀本に據て改む、燾は燻に同じく亦覆也、覆燻の文字中庸に出づ、字書に燻亦覆也謂大也さあり  
 ○大明南至云々、冬至を云  
 ○燔祀、隋書禮儀志に敬薦玉帛犧齊粢盛庶品、燔祀於皇天上帝さあり玉篇に燔與燔通、祭肉也また生曰服熱、曰燔さあり肉を以て天を祭るを云  
 ○機齊、原本齊を牲に作る金本閣本淀本に據て改む、機は玉篇に宗廟之牲也さあり、○黍盛、黍は穀の祭祀に供するものをいひ、盛は器に盛れるを云  
 ○禮燦、玉篇に禮は潔祀也、燦は在地曰燦、執之曰燭さあり祭祀を行ふに火を燒くを云、○皇帝臣諱、原本諱字なし、金本閣本淀本に訴字あり、曾本淀本許に作る蓋諱字の訛なり、今之を補ふ、○履長伊始、冬至になれるを云、玉燭寶典に冬至律當黃鐘、其管最長故有履長之賀さあるに據れり、○肅

甲寅、祀天神於交野、其祭文曰、維延曆六年歲次丁卯十一月庚戌朔甲寅、嗣天子臣謹遣從二位行大納言兼民部卿造東大寺司長官藤原朝臣繼繩、敢昭告于昊天上帝、臣恭膺賚命、嗣守鴻基、幸賴穹蒼、降祚覆燾、騰徵四海、晏然万姓康樂、方今大明南至、長晷初昇、敬采燔祀之義、祇修報德之典、謹以玉帛犧齊粢盛庶品、備茲禮燦、祇薦潔誠、高紹天皇配神作主尙、饗、又曰、維延曆六年歲次丁卯十一月庚戌朔甲寅、孝子皇帝臣諱謹遣從二位行大納言兼民部卿造東大寺司長官藤原朝臣繼繩、敢昭告于高紹天皇、臣以庸虛忝承天序、上玄錫祉、率土宅心、方今履長伊始、肅事郊禋、用致燔祀于昊天上帝、高紹天皇、慶流長發、德冠思文、對越昭升、永言配命、謹以制幣犧齊粢盛庶品、式陳明薦、侑神作主尙、饗、○十二月庚辰朔、授外正七位下朝倉公家長外從五位下、以進軍糧於陸奧國也、



事郊禋、原本事字なし金本閣本會本に據て補ふ又原本に禋を禋に作る閣本に據て改む郊は郊祀なり玉篇に冬至祀天子南郊夏至祀地于北郊故謂祀天地爲郊とあり ○長發、毛詩商頌長發章に潛哲維爾長發其祥とあり ○思文、周頌の篇名、后稷を以て天に配するを言ふなり周公祖先の文徳あるものを思ひ后稷の功を以て天に配す故に思文を以て篇名とす ○對越、周頌清廟章に對越在天とあり ○永言配命、大雅下武章に永言配命成王之孚とあり ○制幣、字書に祭祀所奠之帛也とあり晉書に詔以制幣告於太廟と見ゆ ○明薦、祭祀の供物を云原本薦を薦に作る金本會本淀本に據て改む ○侑神、侑は玉篇に勸食也とあり考證に疑當作有と云るは非なり

【延曆七年】加元服、元服とは初冠するを云卷上(一〇三頁)に見ゆ清和紀貞觀六年正月條及新儀式西宮記北山抄江家次第等を參考すべし

(二月)安倍、小殿朝臣堺、考證に案古時皇子生以乳母姓爲名皇太子初名小殿蓋取諸此とあり ○武生連柏、原本忠本柏を朝に作り金本柏に作る或は稻の譌ならむかと思へど姑く會本淀本に據て後の考を俟つ

七年春正月癸亥、從五位下巨勢朝臣家成爲和泉守、○甲子、皇太子加元服、其儀、天皇后並御前殿、令大納言從二位兼皇太子傅藤原朝臣繼繩、中納言從三位紀朝臣船守兩人、手加其冠、了即執笏而拜、有勅令皇太子參中宮、乃赦天下、詔在京諸司及高年僧尼并神祝等、賜祿各有差、又諸老人年百歲已上、賜穀五斛、九十已上三斛、八十已上一斛、孝子順孫、義夫節婦、表其門閭、終身勿事、鰥寡、惇獨、篤疾、不能自存者、並加賑恤、焉是日引群臣宴飲殿上、賜祿有差、○二月辛巳、授從五位下錦部連姉繼從五位上、無位安倍小殿朝臣堺、武生連柏並從五位下、並皇太子乳母也、○甲申、以中納言兵部卿從三位石川朝臣名足爲兼大和守、從五位下高倉朝臣殿嗣爲介、從五位下大伴宿禰蓑麻呂爲河內守、從五位下百濟王善貞爲介、正四位下伊勢朝臣老人爲遠江守、從五位下

○紀朝臣真人、原本眞を直に作る金本會本淀本に據て改む下同じ

○中臣丸朝臣、丸字は諸本及寶龜十一年四月辛亥紀に據て補ふ

○永名、八年二月丁丑紀長名に作る ○從五位上山口王、原本上を下に作る三年十二月己巳紀に據て改む

縣犬養、宿禰繼麻呂爲伊豆守、從五位下紀朝臣真人爲相摸守、從五位下藤原朝臣縵麻呂爲介、中宮大夫從四位上石川朝臣豐人爲兼武藏守、中衛少將正五位下藤原朝臣乙叡爲兼下總守、從五位下中臣丸朝臣馬主爲上野介、從五位下淺井王爲丹波守、從五位上大中臣朝臣繼麻呂爲但馬守、式部大輔左兵衛督從四位下大中臣朝臣諸魚爲兼播磨守、從五位下笠朝臣江人爲介、外從五位下忍海原連魚養爲大掾、正五位上當麻王爲備前守、少納言從五位下藤原朝臣繩主爲兼介、右衛士佐如故從五位下下毛野朝臣年繼爲備中、介、外從五位下忌部宿禰人上爲安藝介、東宮學士左兵衛佐從五位下津連眞道爲兼伊豫介、從五位上紀朝臣伯麻呂爲大宰、少貳、從五位下石川朝臣多禰爲肥前守、○壬辰、外從五位下入間宿禰廣成爲近衛將監、○庚子、授正六位上紀朝臣永名從五位下、○丙午、從五位下多治比真人繼兄爲右少弁、正五位下藤原朝臣眞友爲中務、大輔從五位上山口王爲大監物、從四位上和氣朝臣清麻呂爲中宮大夫、民部、大輔攝津大夫如故、左中弁從五位



○中臣栗原連子公、子公  
大炊助なること六年五  
月戊申紀に見ゆ

○三月常陸國神賤、鹿  
嶋の神賤なり

○司存、論語泰伯篇に籩  
豆之事則有司存とあるよ  
り出づ苟曰司存云々とは  
苟くも責任ある職員あり  
て此の如き事にて可なら  
むやとなり  
○以乏軍興、原本興を興  
に作る諸本に據て改む唐  
撰興律に諸乏軍興と者斬  
とあり疏議に興軍征討  
國之大事調發征行有所  
稽廢者名乏軍興と云

上大伴、宿禰弟麻呂爲兼皇后宮亮、外從五位下阿閉、間人、臣人足爲大  
進、從五位下川村王爲右大舍人、頭、從五位下廣田王爲縫殿頭、主稅助  
外從五位下麻田、連眞淨爲兼大學博士、從五位下大原眞人長濱爲散  
位助、外從五位下中臣栗原連子公爲大炊助、從五位下大宅朝臣廣江  
爲主殿頭、從五位下和朝臣家麻呂爲造酒正、從五位下長津王爲鍛冶  
正、從五位下百濟王教德爲右兵庫頭、外從五位下林連浦海爲安藝介、  
陸奥按察使、守正五位下多治比眞人宇美爲兼鎮守將軍、外從五位下  
安倍、狹嶋、臣墨繩爲副將軍、○三月庚戌、軍糧三萬五千餘斛、仰下陸奥、  
國、運收、多賀城、又糶二萬三千餘斛并鹽、仰東海、東山、北陸等國、限七  
月以前、轉運、陸奥國並爲來年征蝦夷也、○辛亥、下勅曰、調發東海、東  
山、坂東諸國、步騎五萬二千八百餘人、限來年三月會於陸奥國多賀  
城、其點兵者、先盡前般入軍經戰、叙勳者、及常陸國神賤、然後簡點餘  
人、堪弓馬者、仍勅、比年國司等無心奉公、每事闕怠、屢沮成謀、苟曰  
司存、豈應如此、若有更然、必以乏軍興從事矣、○甲子、中宮大夫從四

○堀川、字書に堀同堀  
穿地也とあり  
○荒陵、攝津志に在東  
成郡天王寺村俗呼茶磨  
山とあり  
○河内川、同に馳川本名  
河内川自天王寺荒陵南  
流歷未津難波之間達木  
津川今住吉郡平野西有  
河内川荒陵南有堀越村  
皆其故跡とあり  
○單功、原本單を戰に作  
る金本淀イ本に據て改む

○狹賦、原本狹を狎に作  
る金本曾本に據て改む下  
同じ

○四月不問王臣、金本  
曾本淀本問を問に作る

○有水之處、原本處を家  
に作る金本に據て改む

位上兼民部、大輔攝津大夫和氣朝臣清麻呂言、河内攝津兩國之堺、堀  
川築堤、自荒陵南、導河内川西通於海、然則沃壤益廣、可以墾闢矣、於  
是便遣清麻呂勾當其事、應須單功廿三萬餘人、給糧從事矣、○己巳、  
外從五位下嶋田、臣宮成、授從五位下、從五位下藤原朝臣末茂爲內匠  
頭、正五位下粟田朝臣鷹守爲治部、大輔、從五位下紀朝臣永名爲兵部  
少輔、從四位上石川朝臣豐人爲大藏、卿、中宮大夫武藏守如故、從五位  
下大宅朝臣廣江爲少輔、從五位下岡田王爲主殿頭、從五位上羽粟臣  
翼爲左京亮、內藥正侍醫如故、外從五位下麻田連狹賦爲右京亮、從四  
位上大伴宿禰潔足爲衛門督、從四位下石上朝臣家成爲右衛士督、從  
五位上紀朝臣作良爲上野守、從五位下嶋田臣宮成爲周防守、從五位  
上多治比眞人濱成、從五位下紀朝臣眞人佐伯、宿禰葛城、外從五位下  
入間、宿禰廣成、並爲征東副使、○夏四月庚辰、遣使畿內祈雨焉、○丁  
亥、奉黑馬於丹生川上、神祈雨也、○戊子、勅五畿內頃者亢旱累月、溝  
池乏水、百姓之間不得耕種、宜仰所司、不問王臣、家田有水之處、恣任



○擁令播種、原本擁を權に作る金本澁本に據て改む擁は進に同じ進塞するを云  
 ○出庭親祈、天皇御親ら祈雨の事皇極天皇南淵河上の御祈請と能く似たり  
 (五月)七道名神、名神さは臨時祭式に所載の名神祭に預り給ふ神を云何れも式内の大社なり  
 ○旅子薨、諸陵式に河上陵贈皇后藤原氏在大和國添下郡大和志に在小和田村東富川側陵墓要覽に贈皇太后旅子宇波多陵乙訓郡大枝村大字塚原とあり  
 ○贈妃并正一位、淳和天皇弘仁十四年五月詔して皇太后を贈らる  
 ○大伴親王、淳和天皇に坐す原本伴を津に作る金本澁イ本に據て改む  
 ○新長忌寸、録左京諸蕃新長忌寸唐人正六位上馬清之後也とあり清下疑くは朝字脱す  
 ○自經、原本經を經に作る金本曾本澁本及類史に據て改む  
 (六月)美作備前二國國造、後紀延曆十八年二月紀清麻呂傳に清麻呂の高

百姓擁令播種勿失農時、○癸巳、自去冬不雨、既經五箇月、灌溉已竭、公私望斷、是日早朝、天皇沐浴、出庭親祈焉、有頃、天闇雲合、雨降滂沱、群臣莫不舞蹈稱萬歲、因賜五位以上御衾及衣、咸以爲聖德至誠、祈請所感焉、○五月己酉、詔羣臣曰、宜差使祈雨於伊勢神宮、及七道名神、是夕大雨、其後雨多、遠近周匝、遂得耕殖矣、○辛亥、夫人從三位藤原朝臣旅子薨、詔遣中納言正三位兼中務卿藤原朝臣小黑麻呂、參議治部卿正四位下壹志濃王等、監護喪事、又遣中納言從三位兼兵部卿皇后宮大夫石川朝臣名足、參議左大辨正四位下兼春宮大夫中衛、中將紀朝臣古佐美、就第宣詔、贈妃并正一位、妃贈右大臣從二位藤原朝臣百川之女也、延曆初、納於後宮、尋授從三位、五年進爲夫人、生大伴親王、薨時年卅、○丁巳、唐人馬清朝賜姓新長忌寸、○庚午、中務大錄正六位下中臣丸連淨兄詐作印書、請受庫物、前後非一事、已發露、欲加推勸、聞而自經矣、○六月癸未、美作備前二國國造中宮大夫從四位上兼攝津大夫民部大輔和氣朝臣清麻呂言、備前國和氣郡河西百姓

祖父佐波良等四人并清麻呂を美作備前兩國國造とす見ゆ  
 ○民部大輔和氣朝臣清麻呂、和字以下七字は諸本に據て補ふ  
 ○備前國和氣郡、備前國の三字は同じく諸本に據て補ふ  
 ○赤坂上道、抄國郡部に備前國赤坂(安加佐加)上道(加无豆美知)とあり  
 ○大河、吉井川を云  
 ○河西百姓、原本河を江に作る金本澁イ本に據て改む  
 ○藤野驛家、兵部式に載せず  
 ○施入梵釋寺、入字は金本曾本に據て補ふ梵釋寺は上に見ゆ  
 ○石川朝臣名足薨、寶字五年正月戊子紀に始見  
 ○拜中納言、拜字は金本曾本澁本に據て補ふ  
 ○多米連、錄左京神別多來連神魂命五世孫天日和志命之後也成務天皇御世仕奉炊職賜多米連也とあり

一百七十餘人歎曰、己等元是赤坂上道二郡東邊之民也、去天平神護二年、割隸和氣郡、今是郡治在藤野、鄉中有大河、每遭雨水、公私難通、因茲河西百姓屢闕公務、請河東依舊爲和氣郡、河西建磐梨郡、其藤野驛家遷置河西、以避水難兼均勞逸、許之、○甲申、從五位下藤原朝臣根麻呂爲左大舍人、助東宮學士左兵衛、佐從五位下津連眞道爲兼圖書助、從五位上藤原朝臣刷雄爲大學頭、○乙酉、下總越前二國封各五十戶、施入梵釋寺、○丙戌、中納言從三位兼兵部卿皇后宮左京大夫大和守石川朝臣名足薨、名足、御史大夫正三年足之子也、寶字中、授從五位下、除伊勢守、稍遷寶龜初任兵部大輔、遷民部大輔、授從四位下、出爲大宰、大貳、居二年、徵入、歷左右大辨、尋爲參議兼右京大夫、名足耳目所涉、多記於心、加以利口、剖斷無滯、然性頗偏急、好詰人之過、官人申政、或不合旨、即對其人、極口而罵、因此諸司候官曹者、值名足聽事、多踴躄而避、延曆初、授從三位、拜中納言兼兵部卿皇后宮左京大夫、薨時年六十一、○辛丑、外從六位下武藏宿禰弟總、外正八位上多米連



○大秦公忌寸、原本秦を泰に作る諸本に據て改む

○大中臣朝臣清麻呂薨、天平十五年五月癸卯紀に始見

福雄並授外從五位下、以貢獻也。○壬寅正四位下伊勢朝臣老人爲木工頭、從五位下橘朝臣入居爲遠江守、近衛少將從五位下坂上大宿禰田村麻呂爲兼越後介、內匠助如故、從五位下紀朝臣兄原爲出雲守、  
○秋七月己酉、大宰府言去三月四日戌時、當大隅國贈於郡曾乃峯上、火炎大熾、響如雷動、及亥時火光稍止、唯見黑烟、然後雨、沙峯下五六里、沙石委積可二尺、其色黑焉。○辛亥、以參議左大辨正四位下兼春宮大夫中衛中將紀朝臣古佐美爲征東大使。○庚午、以從五位下正月王爲少納言、中納言正三位藤原朝臣小黑麻呂爲兼皇后宮大夫、中務卿美作守如故、從五位下大秦公忌寸宅守爲主計、助從三位多治比真人長野爲兵部卿、近江守如故、從五位下爲奈真人豐人爲造兵、正從五位下多治比真人屋嗣爲主鷹正、外從五位下忍海原連魚養爲典藥頭、播磨大掾如故、兵部大輔從四位下藤原朝臣雄友爲兼左京大夫、左衛士督如故、從五位下藤原朝臣繩主爲近衛少將、少納言如故、從五位上阿倍朝臣廣津麻呂爲中衛少將、式部少輔春宮亮如故、春宮少進從五

○大中臣朝臣清麻呂薨、天平十五年五月癸卯紀に始見  
○國子、推古三十一年紀に小德中臣連國と見ゆ  
○天皇嘉其累任云々、神護元年十一月庚辰紀に詔曰云々清麻呂其心如名清慎勤勞累奉神祇官朕見之誠有嘉焉云々あり  
○賜姓大中臣、景雲三年六月乙卯紀に見ゆ  
○八月穴咋、考證に諸史無此氏人、案景行五十五年紀有春日穴咋邑蓋因此地名也云々  
○九月、辨齒、原本齒を齒に作る考證に齒俗齒字見龍龜手鑑とあり金本西に遊本四に曾本西に作る  
○美見造、考證に内藤氏曰美見作美續後紀云承和三年閏五月美濃國人主殿寮少屬美見造貞繼云々其先百濟國人也美見厚見邦訓通因地命姓者也云

位下多治比真人豐長爲兼右衛士佐、春宮大夫中衛中將正四位下紀朝臣古佐美爲兼大和守、從五位下三嶋真人大湯坐爲駿河守。○癸酉前、右大臣正二位大中臣朝臣清麻呂薨、曾祖國子小治田朝小德冠、父意美麻呂、中納言正四位上清麻呂、天平末授從五位下、補神祇大副、歷左中辨文部大輔、尾張守、寶字中、至從四位上、參議左大辨兼神祇伯、歷居顯要、見稱勤恪、神護元年仲滿平後、加勳四等、其年十一月、高野天皇更行大嘗之事、清麻呂時爲神祇伯、供奉其事、天皇嘉其累任、神祇官清慎自守、特授從三位、景雲二年、拜中納言、優詔賜姓大中臣、天宗高紹天皇踐祚、授正三位、轉大納言兼東宮傅、寶龜二年、拜右大臣、授從二位、尋加正二位、清麻呂歷事數朝、爲國舊老、朝儀國典多所諳練、在位視事、雖年老而精勤、匪怠、年及七十、上表致仕、優詔弗許、今上即位、重乞骸骨、詔許之、薨、時年八十七。○八月戊子、對馬嶋守正六位上穴咋、皆麻呂賜姓秦忌寸、以誤從母姓也。○九月丁未、美濃國厚見郡人狛齒濱倉賜姓美見造。○庚午、詔曰、朕以眇身、忝承鴻業、水陸有便、建都長岡、而宮室未就、



○功貨、原本貨を實に作る金本曾本淀本に據て改む

○二束還民、二束は金本曾本淀本に據て補ふ

○十月  
十一月播磨國、國字は曾本淀本に據て補ふ

○事露改正焉、露字は諸本に據て補ふ淀本正字なし是なるに似たり

○十二月征東大將軍、七月己亥紀征東大使とす

○推轂分圖、漢書馮唐傳に王者遣將跪而推轂曰圖以內寡人制之圖以外將軍制之とあるに據れり  
○返關、原本返を匿に作る金本に據て改む  
○綿三百屯、原本綿を錦に作る金本に據て改む

興作稍多、徵發之苦、頗在百姓、是以優其功貨、欲無勞煩、今聞造宮、役夫短褐不完、類多羸弱、靜言於此、深軫于懷、宜諸進役夫之國、今年出舉者、不論正稅公廩、一切減其息利、縱貸十束、其利五束、二束還民、三束入公、其勅前徵納者、亦宜還給焉、○冬十月丙子、雷雨暴風、壞百姓廬舍、○十一月丁未、參議正四位下大中臣朝臣子老、爲宮內卿、神祇伯如故、○庚戌、播磨國捐保、郡人外從五位下佐伯直諸成、延曆元年、籍冒注連姓、至是事露改正焉、○戊辰、宴五位已上、從五位上中臣朝臣常、大伴宿禰弟麻呂、並授正五位下、從五位下紀朝臣田長、從五位上、正六位上大中臣朝臣弟成、小野朝臣澤守、田中朝臣淨人、並從五位下、○十二月庚辰、征東大將軍紀朝臣古佐美辭見、詔召昇殿、上賜節刀、因賜勅書曰、夫擇日拜將、良由綸言、推轂分圖、專任將軍、如聞承前、別將等、不慎軍令、返關猶多、尋其所由、方在輕法、宜副將軍有犯死罪、禁身奏上、軍監以下、依法斬決、坂東安危在此、一舉將軍宜勉之、因賜御被二領、采帛卅疋、綿三百屯、

續日本紀卷第卅九

續日本紀卷第四十

起延曆八年正月盡十年十二月

右大臣正二位兼行皇太子傅中衛大將臣藤原朝臣繼繩等奉 勅撰

今皇帝

○延曆八年甲辰朔、原本朔字無し例に據て補ふ

○從五位下賀茂朝臣、從五位下の四字は金本曾本淀本に據て補ふ  
○藤原朝臣園人、金本曾本淀本園を國に作る  
○平群朝臣園人、原本園を國に作る金本曾本淀本に據て改む  
○登万理、九年三月壬辰紀登麻理に作る

延曆八年春正月甲辰朔、日有蝕之、○己酉、宴五位已上於南院、授從五位上笠王正五位下、從五位下廣田王從五位上、無位葛井王從五位下、從四位下佐伯宿禰真守從四位上、正五位下藤原朝臣菅繼從四位下、正五位下百濟王玄鏡正五位上、從五位上文室真人與企、紀朝臣作良、並正五位下、從五位下賀茂朝臣人麻呂、藤原朝臣園人、伊勢朝臣水通、津連真道並從五位上、正六位上平群朝臣園人、紀朝臣伯紀、朝臣登万理、榎井朝臣靺鞨、田中朝臣大魚、安倍朝臣人成、巨勢朝臣道成、石川朝臣清濱、石川朝臣清成、大春日朝臣清足、藤原朝臣岡繼、石上朝臣乙名、大野朝臣仲男、角朝臣筑紫麻呂、並從五位下、正六位上大綱、公廣道、



○正三位佐伯宿禰、原本正を從に作る四年六月辛巳紀に據て改む  
 ○乞骸骨、骸骨は身體を云に同じ、老臣の致仕するに同じ、史記項羽紀に天下事大定矣、君主自爲之、願賜骸骨、歸卒伍とあるに出づ  
 ○大中臣朝臣子老卒、寶龜二年五月己亥紀に始見、伊勢介神祇大副右京大夫右大辨兵部卿等を歴任す  
 ○春蓮、金本曾本淀本春蓮に作る  
 ○黒女、原本黒を里に作る金本曾本淀本及二年二月壬子紀に據て改む  
 ○邑刀自、原本邑を色に作る金本及十年十二月癸卯紀に據て改む類史に大に作る大邑訓同じ  
 ○岡上連、姓氏録に見えず原本連を蓮に作る金本曾本淀本に據て改む  
 ○恩日、金本恩を息に作る  
 ○二月、參河守、原本河を川に作る金本曾本淀本に據て改む下同じ

韓國連源、秋篠宿禰安人、並外從五位下、以兵部卿從三位兼近江守多治比真人長野爲參議、○壬子參議大宰帥正三位佐伯宿禰今毛人上表乞骸骨、詔許之、○丁巳、以律師立憐法師爲少僧都、○戊辰參議宮内卿正四位下兼神祇伯大中臣朝臣子老卒、右大臣正二位清麻呂之第二子也、○己巳、授從四位上藤原朝臣延福正四位下、正五位上藤原朝臣春蓮、藤原朝臣勤子、並從四位下、正五位下伴田朝臣仲刀自、正五位上、從五位上藤原朝臣慈雲、安倍朝臣黒女、並正五位下、從五位下藤原朝臣眞貞、平群朝臣炊女、大原真人明、無位多治比真人邑刀自、藤原朝臣數子、紀朝臣若子、並從五位上、外從五位下豐田造信女、岡上連綱、無位藤原朝臣惠子、正六位上菅生朝臣恩日、從六位上石上朝臣眞家、從六位下角朝臣廣江、並從五位下、正六位上物部韓國連眞成、山代忌寸越足、從六位下采女、臣阿古女、並外從五位下、○二月丁丑、以從五位下大原真人美氣爲尾張守、正五位下高賀茂朝臣諸雄爲參河守、從五位上文室眞人子老爲安房守、正五位上百濟王立鏡爲上總守、從五位下

○外從五位上池原公、原本上を下に作る四年十一月丁巳紀に據て改む金本曾本に網主を網主に作る  
 ○葉栗臣、上文葉を羽に作る  
 ○總成、原本總を絲に作る金本淀本及五年十一月丁未紀に據て改む  
 ○右京亮、原本金イ本右を左に作る  
 ○東宮、原本宮下に東字あり金本曾本淀本及紀略に據て削る  
 ○二月、諸國之軍云々、前年より蝦夷征討の計畫ありて之を決行せしなり、七年三月辛亥紀を參看すべし  
 ○幣帛、原本幣を幣に作る金本曾本に據て改む  
 ○近江守如故、原本如を加に作る金本に據て改む

石川朝臣清濱爲介、近衛將監外從五位上池原公綱主爲兼下總大掾、式部大輔從四位下大中臣朝臣諸魚爲兼近江守、左兵衛督如故、從五位下紀朝臣長名爲越前介、大判事從五位上橋朝臣綿裳爲兼越中、介正五位上安倍朝臣家麻呂爲石見守、兵部大輔左京大夫從四位下藤原朝臣雄友爲兼播磨守、左衛士督如故、從五位下高倉朝臣石麻呂爲美作介、從五位上藤原朝臣園人爲備後守、從五位下百濟王教德爲讚岐介、○癸未、以從五位下橋朝臣安麻呂爲中務少輔、內藥正侍醫從五位上葉栗臣翼爲兼內藏助、從五位下巨勢朝臣總成爲造酒正、從五位上弓削宿禰鹽麻呂爲右京亮、○庚子、移自西宮始御東宮、○三月癸卯朔、造宮使獻酒食并種種玩好之物、○辛亥、諸國之軍會於陸奥多賀城、分道入賊地、○壬子、遣使奉幣帛於伊勢神宮、告征蝦夷之由也、○戊午、以從四位下大中臣朝臣諸魚爲神祇伯、式部大輔左兵衛督近江守如故、從五位下大中臣朝臣弟成爲少納言、從四位下紀朝臣犬養爲左大舍人、頭、從五位下百濟王仁貞爲中宮亮、從五位上津連眞道爲圖書



○大綱公、原本綱を綱に作る上文に據て改む  
 ○文室真人八嶋、原本室を屋に作る金本澁本に據て改む  
 ○左京大夫、原本左を右に作る金本曾本澁本及九年三月壬辰紀に據て改む  
 ○藤原朝臣内麻呂、朝臣の二字は金本曾本澁本に據て補ふ  
 ○細賦、原本細を狎に作る金本曾本及七年三月己巳紀に據て改む  
 ○山背介、原本介を守に作る金本に據て改む  
 ○從五位下大伴王云々、從五位下以下十一字は金本曾本澁本に據て補ふ  
 ○從五位上文室真人、原本上を下に作る六年正月壬辰紀證すべし  
 ○石上朝臣乙名、原本上を川に作る金本曾本澁本及正月己酉の條に據て改む  
 ○中臣朝臣常、原本常の上を白字あり金本に據て削る五月己巳紀亦證すべし

頭、東宮、學士左兵衛、佐伊豫、介如故、外從五位下大綱、公廣道、爲主計、助、從五位下安倍、朝臣枚麻呂、爲兵部、少輔、從五位上藤原、朝臣黑麻呂、爲刑部、大輔、從五位下藤原、朝臣大繼、爲大判事、從四位下石上、朝臣家成、爲宮内卿、從五位下矢庭、王爲正親、正從五位上文室、真人八嶋、爲彈正、弼、從四位下藤原、朝臣菅繼、爲左京、大夫、從五位下角、朝臣筑紫麻呂、爲衛門、大尉、從四位下藤原、朝臣内麻呂、爲右衛士、督、越前、守如故、從五位下大秦、公忌寸宅守、爲左兵庫、助、從五位下爲奈、真人豐人、爲右兵庫、頭、從五位下小野、朝臣澤守、爲攝津、亮、外從五位下麻田、連、狛賦、爲山背、介、從五位下大伴、王、爲甲斐、守、從五位上文室、真人久賀麻呂、爲但馬、介、從五位下石川、朝臣公足、爲安藝、守、正五位下粟田、朝臣鷹守、爲長門、守、從五位上藤原、朝臣園人、爲大宰、少貳、廢造、東大寺、司、○辛酉、以從五位下石上、朝臣乙名、爲大監、物、正五位下中臣、朝臣常、爲治部、大輔、從五位下清海、宿禰、惟岳、爲美作、權、掾、○夏四月庚辰、木工、頭、正四位下伊勢、朝臣老人卒、○乙酉、先是、伊勢、美濃、等、關例、上下、飛驒、函、關、司、必、開、見、至、是

殿頭等を歷任す  
 ○飛驒、勅符官符等を納る函なり、驛使をして之を送らしむ故に、飛驒函と云其函の長は木工式に飛驒、函、長一尺一寸六分廣三寸深二寸三分之を授與の事は、儀式、飛驒、儀、に、大臣、喚、少、納、言、授、勅、符、及、官、符、少、納、言、受、之、踏、印、云々、踏、訖、覆、奏、如、常、訖、授、少、納、言、少、納、言、受、令、主、鈴、納、於、木、函、緘、封、納、於、木、函、以、絲、緘、之、以、松、脂、封、之、訖、即、令、內、記、一、人、於、函、上、頭、記、賜、某、國、字、押、緘、之、處、書、封、字、其、緘、下、右、注、飛、驒、字、左、注、年、月、日、時、刻、令、內、記、一、人、於、革、囊、短、箱、記、賜、某、國、飛、驒、函、字、及、年、月、日、時、刻、又、耐、左、注、副、官、符、若、干、通、字、記、著、已、訖、令、主、鈴、納、於、囊、中、云々、あり  
 ○辛酉、是月、癸、酉、朔、なれ、ば、辛、酉、な、し、辛、卯、の、誤、か、辛、卯、は、十九、日、なり  
 ○機、殿、原本、殿、を、敝、に、作、る、金、本、閣、本、曾、本、及、類、史、に、據、て、改、む  
 ○倉、廩、原本、廩、を、庫、に、作、る、諸、本、及、類、史、に、據、て、改、む  
 ○賀、成、類、稻、原本、賀、を、留、に、作、る、諸、本、及、類、史、に、據、て、改、む、賀、は、説、文、に、易、財、也

勅、自今以後、不得、輒、開、焉、○丙戌、以從五位下安曇、宿禰、廣吉、爲和泉、守、從五位下田中、朝臣淨人、爲伊勢、介、從五位下大野、朝臣仲男、爲安房、權、守、從五位下川村、王、爲備後、守、○辛酉、美濃、尾張、參河、等、國、去年、五穀、不稔、饑、餒、者、衆、雖、加、賑、恤、不、堪、自、存、於是、遣、使、開、倉、廩、准、賤、時、價、糶、與、百姓、其、價、物、者、收、貯、國、庫、至於、秋、收、賣、成、類、稻、名、曰、救、急、使、其、國、郡、司、及、殷富之民、不得、交易、如有、違、犯、科、違、勅、罪、矣、○庚子、伊賀、國、飢、賑、給、之、  
 ○五月癸丑、勅、征、東、將、軍、曰、省、比、來、奏、狀、知、官、軍、不、進、猶、滯、衣、川、以、去、四月六日、奏、偶、三、月、廿八日、官、軍、渡、河、置、營、三、處、其、勢、如、鼎、足、者、自、爾、以、還、經、卅、餘、日、未、審、緣、何、事、故、致、此、留、連、居、而、不、進、未、見、其、理、夫、兵、貴、拙、速、未、聞、巧、遲、又、六、七、月、者、計、應、極、熱、如、今、不、入、恐、失、其、時、已、失、其、時、悔、何、所、及、將、軍、等、應、機、進、退、更、無、間、然、但、久、留、一、處、積、日、費、糧、朕、之、所、恠、唯、在此、耳、宜、具、滯、由、及、海、軍、消息、附、驛、奏、來、○丙辰、先是、諸、國、司、等、奉、使、入、京、無、返、抄、歸、任、者、不、預、釐、務、奪、其、公、廩、而、在、國、之、司、偏、執、此、格、曾、不、催、領、專、煩、使、人、於是、始、制、如、此、之、類、不、問、入、京、在、國、共、奪、自、己、上、之、料、但、遙



さあり交換の意類は玉篇に禾末也さあり稻の穂首より刈取たるを云  
 ○救急、危急の際に之を出して救助す故に救急云主税式を參看すべし  
 (五月)省比來奏狀、原本省を見作る金本曾本  
 澁本に據て改む  
 ○衣川、膽澤郡にあり中古磐井郡に屬せしが今又膽澤郡に屬す  
 ○以去四月六日奏、以字は金本曾本澁本に據る  
 ○鼎足、原本鼎を鼎に作る昇は鼎の俗字鼎の三足あるが如く三陣相須つて功をたつるに喩ふ  
 ○兵貴拙速、孫子作戰篇に兵聞拙速、未觀巧之久也さあるに據れり原本拙を獨に作る金本に據て改む  
 ○海軍消息、海字は誤なるべし狩谷校本に海一作賊と云  
 ○諸國司等云々、六年七月丙子紀及寶龜十年八月庚申紀を參看すべし  
 ○返抄、原本抄を鈔に作る今諸本に據る  
 ○不預釐務、原本預を豫に作る諸本及類史に據る  
 ○不問入京在國、原本在

附便使不在奪限○己未、太政官奏言、謹案令條、良賤通婚、明立禁制、而天下士女及冠蓋子弟等或貪艷色而奸婢或挾淫奔而通奴遂使氏族之胤沒爲賤隸公民之後變作奴婢不革其弊何導迷方臣等所望自今以後婢之通良良之嫁奴所生之子並聽從良其寺社之賤如有此類亦准上例放爲良人伏望布此寬恩拯彼泥滓臣等愚管不敢不奏伏聽天裁奏可之○庚申播磨國揖保郡大興寺賤若女本是讚岐國多度郡藤原郷女也而以慶雲元年歲次甲辰揖保郡百姓佐伯君麻呂詐稱己婢賣與大興寺而若女之孫小庭等申訴日久至是始得雪若女子孫奴五人婢十人免賤從良安房紀伊等國飢賑給之○丁卯詔贈征東副將軍民部少輔兼下野守從五位下勳八等佐伯宿禰葛城正五位下葛城率軍入征中途而卒故有此贈也○己巳以從五位下賀茂朝臣大川爲神祇大副從五位上調使王爲右大舍人頭從五位下藤原朝臣繼彥爲主計頭從五位下和朝臣家麻呂爲造兵正正五位下中臣朝臣常爲宮內大輔○庚午信濃國筑摩郡人外少初位下後部牛養無位

上之字あり金本曾本澁本に據て削る  
 ○太政官奏、考證に三代格貞觀五年九月廿五日官符引宜合考さあり  
 ○良賤通婚、戸令に載す  
 ○冠蓋子弟、官位高き人の子弟を云  
 ○氏族、原本氏を民に作る金本曾本澁本及三代格に據て改む  
 ○賤隸、原本隸を隸に作る澁本に據て改む  
 ○公民之後、原本後を徒に作る金本澁本に據て改む  
 ○拯彼泥滓、滓は字書に澁也濁也さあり泥滓さは氏族の胤公民の後たるもの下りて奴婢さなれるを云原本拯を極に作る澁本に據て改む  
 ○大興寺、所在詳ならず  
 ○藤原郷、抄國郡部に讚岐國多度郡葛原(加都良波良)あり考證に元融案神龜四年十一月改備前國藤原郡爲藤原郡寶字元年三月改藤原郡爲久須波良郡但此地僻遠當時未及改換後日乃改葛原耳と云るか如く延曆八年には尙ほ藤原郷と稱せしを後に葛原と改

宗守、豐人等賜姓田河造○六月甲戌、征東將軍奏、副將軍外從五位下入間宿禰廣成、左中軍別將從五位下池田朝臣眞枚、與前軍別將外從五位下安倍猿鳴、臣墨繩等議、三軍同謀并力、渡河討賊、約期已畢、由是抽出中後軍各二千人、同共凌渡、比至賊帥夷阿互流爲之居有賊徒三百許人、迎逢相戰、官軍勢強、賊衆引遁、官軍且戰且燒、至巢伏村、將與前軍合勢、而前軍爲賊被拒、不得進渡、於是賊衆八百許人、更來拒戰、其力太強、官軍稍退、賊徒直衝、更有賊四百許人、出自東山、絕官軍、後前受敵、賊衆奮擊、官軍被排、別將丈部善理、進士高田道成、會津壯麻呂安宿戶吉足、大伴五百繼等並戰死、摠燒亡賊居十四村、宅八百許、烟器械雜物如別、官軍戰死廿五人、中矢二百四十五人、投河溺死一千廿六人、裸身游來一千二百五十七人、別將出雲諸上道嶋御楯等引餘衆還來、於是勅征東將軍曰、省比來奏云、膽澤之賊、摠集河東、先征此地、後謀深入者、然則軍監已上率兵、張其形勢、嚴其威容、前後相續、可以薄伐、而軍少將卑、還致敗績、是則其道副將等計策之所失也、至



めじなり  
 ○佐伯君麻呂、考證に蓋佐伯直同祖也とあれど同祖なるや否は詳ならず○已碑、原本婢を奴に作る諸本に據て改む  
 ○田河造、原本河を阿に作る諸本に據て改む田河は筑摩郡の地名なるべけれど今詳ならず後部は録左京雜姓に後部高麗國人後部高千金之後とあれば田河造も高麗系の蕃別なるべし  
 ○六月、與前軍別將、與字は金本曾本淀本に據て補ふ  
 ○阿豆流爲之居、原本居を君に作る金本に據て改む考證に爲字疑衍と云  
 ○巢伏村、陸奥郡郷考に所在未詳と云  
 ○東山、同に今岩井郡三郷分屬邑四十六邑其一日東山屬邑四十六邑あり  
 ○被排、排は字書に推也擠也斥也とあり排斥けらるゝと云  
 ○進士、天平十二年十一月丙戌紀に見ゆ  
 ○會津、考證に景雲三年三月紀云陸奥國會津郡人文部庭虫等賜姓安倍會津臣未、知與、此同異也

於善理等戰亡及士衆溺死者惻怛之情有切于懷○庚辰征東將軍奏稱、膽澤之地、賊奴奧區、方今大軍征討、剪除村邑、餘黨伏竄、殺略人物、又子波和我、僻在深奧、臣等遠欲薄伐、糧運有艱、其從玉造、塞至衣川、營四日、輜重受納、二箇日、然則往還十日、從衣川至子波地、行程假令六日、輜重往還十四日、總從玉造、塞至子波地、往還廿四日、程也、途中逢賊相戰、及妨雨不進之日、不入程內、河陸兩道、輜重一万二千四百四十人、一度所運、糶六千二百十五斛、征軍二万七千四百七十人、一日所食、五百四十九斛、以此支度、一度所運、僅支十一日、臣等商量、捐子波地、支度交關、割征兵加輜重、則征軍數少、不足征討、加以軍入以來、經涉春夏、征軍輜重、並是疲弊、進之有危、持之無利、久屯賊地、運糧百里之外、非良策也、雖蠢爾小寇、且通天誅、而水陸之田、不得耕種、既失農時、不滅何待、臣等所議、莫若解軍遺糧、支擬非常軍士所食、日二千斛、若上奏聽裁、恐更多糜費、故今月十日以前解出之狀、牒知諸軍、臣等愚議、且奏且行、勅報曰、今省先後、奏狀曰、賊集河東、抗拒官軍、

○安宿戶吉足、足字は諸本に據て補ふ曾本淀本吉を告に作る  
 ○其道副將等、原本副將を嶋の一字に作る諸本に據て改む  
 ○有切于懷、原本有を肯に作る金本曾本淀本に據て改む  
 ○大軍、金本曾本淀本大の下に將字あり  
 ○伏竄、原本竄を窺に作る金本曾本淀本に據て改む  
 ○子波和我、今の紫波及和賀郡なり後紀弘仁二年正月丙午紀に於陸奥國置和我葦籬斯波三郡とある是なり  
 ○惣從玉造塞、原本惣及塞の字なし惣は金本曾本淀本に據て補ふ塞は曾本淀本に據て補ふ也とあり  
 ○持之無利、考證に諸本之下有則字恐非是とあり  
 ○日二千斛、大日本史注に按上文一日之食五百四十九斛而此云軍士所食日二千斛蓋舉本軍成數乎今無所考とあり  
 ○解出之狀、開本金本出を書に作る  
 ○然後解出、原本出を書に作る金本曾本淀本に據て改む  
 ○差入裨將、原本差を若に作る諸本に據て改む裨將は字書に裨に輔に同し相補助也とあり部下のみを差遣して自ら奮進せざるを云  
 ○師出、原本師を帥に作る金本曾本淀本に據て改む  
 ○闕外、七年十二月紀に見ゆ  
 ○甲斐國云々、考證に後紀云十八年十二月甲斐國人止彌若虫云々等言已等先祖元是百濟人也仰冀聖朝航海投化即天朝降綸旨安置攝津職後依丙寅歲正月廿七日格更遷甲斐國云々此所云要部上麻呂云々等蓋此種類也とあり  
 ○田井、甲斐の地名なるべけれど今詳ならず  
 ○古尔、金本淀本尔を禾に作る考證に天平十七年正月乙丑紀有古仁虫名案下鞠部解禮蓋皆姓也と云  
 ○玉井、甲及大井は考證に皆因地爲姓也和名抄甲斐國郷名山梨郡玉井(多萬乃井)巨麻郡大井(於保井)とあり  
 ○中井、詳ならず

先征此地、後謀深入者、然則不利、深入、應以解軍者、具狀奏上、然後解出、未之晚也、而曾不進入、一旦罷兵、將軍等策、其理安在、的知將軍等畏憚兇賊、逗留所爲也、巧飭浮詞、規避罪過、不忠之甚、莫先於斯、又廣成墨繩、久在賊地、兼經戰場、故委以副將之任、存其力戰之効、而靜處營中坐、見成敗、差入裨將、還致敗績、事君之道、何其如此、夫師出無功、良將所恥、今損軍費、糧爲國家大害、闕外之寄、豈其然乎、甲斐國山梨郡人外正八位下要部、上麻呂等、改本姓爲田井、古尔等爲玉井、鞠部等爲大井、解禮等爲中井、並以其情願也、

○秋七月丁未、尙掃從四位上美作、女王、散事正四位下藤原、朝臣春蓮

○秋七月丁未、尙掃從四位上美作、女王、散事正四位下藤原、朝臣春蓮



○藤原朝臣春蓮卒、天應元年十一月丙子紀に始見  
 ○勿用防禦、原本用を周  
 に作る金本曾本淀本に據  
 て改む  
 ○藤澤水陸万頃云々、  
 以下唯見鬼火に至るま  
 で當時蝦夷の巢窟たる膽  
 澤地方の状況を述べて水  
 陸に充滿せる蝦夷等も官  
 兵の爲に絶滅せられて其  
 地は荒墟となり山谷海浦  
 の巢穴は再び炊烟起らず  
 唯鬼火を見るに至れりこ  
 事下文に辨せられし如く  
 なれど當時蝦夷の状態は  
 此に述べしが如きものな  
 りしなるべし  
 ○假息、佩文韻府所引令  
 狐楚賀捷表に蠢茲蕃魄  
 假息西陲とあるに據れ  
 り將に絶えなんとする氣  
 息にて假喘と云むに同じ  
 ○非復人烟、原本復を須  
 に作る諸本に據て改む  
 ○而云大兵一擧、云字は  
 金本曾本淀本に據て補ふ  
 ○攫賊巢穴、原本攫を搜  
 に作る閣本に據て改む金  
 本は獲に作る

並卒、○甲寅、勅伊勢美濃越前等國曰、置關之設、本備非常、今正朔所  
 施、區宇無外、徒設關險、勿用防禦、遂使中外隔絕、既失通利之便、公私  
 往來、每致稽留之苦、無益時務、有切民憂、思革前弊、以適變通、宜其  
 三國之關、一切停廢、所有兵器糧糶、運收於國府、自外、館舍移建於便郡  
 矣、○乙卯、伊勢志摩兩國飢、賑給之、○丁巳、勅持節征東大將軍紀朝臣  
 古佐美等曰、得今月十日、奏狀稱、所謂膽澤者、水陸万頃、蝦虜存生、大兵  
 一擧、忽爲荒墟、餘燼假息、危若朝露、至如軍船解纜、舳艫百里、天兵所  
 加、前無強敵、海浦窟宅、非復人烟、山谷巢穴、唯見鬼火、不勝慶快、飛驒  
 上奏者、今檢先後、奏狀、斬獲賊首八十九級、官軍死亡、千有餘人、其被  
 傷害者、殆將二千、夫斬賊之首、未滿百級、官軍之損亡、及三千、以此  
 言之、何足慶快、又大軍還出之日、兇賊追侵、非唯一度、而云大兵一擧、  
 忽爲荒墟、准量事勢、欲似虛飭、又真枚墨繩等、遣裨將於河東、則敗軍  
 而逃還、溺死之軍一千餘人、而云一時凌渡、且戰且焚、攫賊巢穴、還持本  
 營、是溺死之軍、弁而不論、又濱成等掃賊略地、差勝他道、但至於天兵所

○稱其種落、考證に稱猶  
 采に作る或は樂の草體か  
 ○藤原朝臣教貴卒、寶龜  
 七年正月丙午紀に始見  
 ○八月、造宮官人、官字  
 は金本及類史に據て補ふ  
 ○從五位下角朝臣、原本  
 下の上に作る諸本に據て  
 改む

○減半賜之、大日本史注  
 に按寶字八年文寧淨三致  
 仕先是致仕者成賜半俸  
 特勅淨三賜全俸然則  
 致仕給半俸非始于此  
 云り  
 ○富田、後紀に十八年三  
 月辛亥陸奥國富田郡併  
 色麻郡とあり故に民部  
 式倭名抄並に見えず  
 ○賀美、原本加美に作る  
 諸本に據て改む  
 ○故特延復年、特字は曾  
 本淀本に據て補ふ  
 ○至自陸奥、至字は金本  
 淀本及紀略に據て補ふ

加前無強敵、山谷巢穴唯見鬼火、此之浮詞、良爲過實、凡獻凱表者、平  
 賊立功、然後可奏、今不究其奧地、稱其種落、馳驛稱慶、不亦愧乎、○乙丑、  
 下野美作兩國飢、賑給之、命婦正四位上藤原朝臣教貴卒、○丁卯、備  
 後國飢、賑給之、○八月庚午朔、造宮官人已下、雜工已上、隨勞叙位、并賜  
 物有差、○辛巳、以從五位下角朝臣筑紫麻呂爲中衛、將監從五位上紀  
 朝臣木津魚爲右兵衛督、從五位下文室真人眞屋麻呂爲主馬頭、○庚  
 寅、先是參議正三位佐伯宿禰今毛人致仕、而罷其參議、封戶減半賜之、  
 下知民部、以爲永例矣、○己亥、勅陸奥國入軍人等、今年田租、宜皆免  
 之、兼給復二年、其牡鹿小田新田、長岡志太、玉造富田、色麻賀美、黑川等  
 一十箇郡、與賊接居、不可同等、故特延復年、○九月丁未、持節征東大將  
 軍紀朝臣古佐美、至自陸奥、進節刀、○辛亥、以從五位上藤原朝臣黑麻  
 呂爲治部大輔、從五位下紀朝臣伯爲玄蕃助、從五位下布勢朝臣大海  
 爲主稅頭、從五位上上毛野朝臣稻人爲刑部大輔、左少弁從五位上安  
 倍朝臣弟當爲兼下野守、○戊午、勅遣大納言從二位藤原朝臣繼繩、中



○荒備流、俗言の格なれど古よりかくも云りしにや

○支多米、罰するを云  
○承前爾云々、天應元年九月丁丑征夷の勞に依り從四位下勳四等に叙せられたるを云

○日上乃湊、解に衣川の川下なるべしと云、金本湊本日土を是の一字に誤れり  
○扶拯、原本拯を極に作る湊本に據て改む  
○又有小功人、原本又を久に作る諸本に據て改む

納言正三位藤原朝臣小黒麻呂從三位紀朝臣船守左兵衛佐從五位上津連眞道大外記外從五位下秋篠宿禰安人等於太政官曹司勸問征東將軍等逗留敗軍之狀大將軍正四位下紀朝臣古佐美副將軍外從五位下入間宿禰廣成鎮守副將軍從五位下池田朝臣眞枚外從五位下安倍狹嶋臣墨繩等愚頑畏拙之且進退失度軍期乎毛闕怠利今法乎檢爾墨繩者斬刑爾當里眞枚者解官取冠倍久在然墨繩者久歷邊戍且仕奉留勞在爾緣且奈母斬刑乎波免賜且官冠乎乃未取賜比眞枚者日上乃湊之氏溺軍乎扶拯開留勞爾緣且奈母取冠罪波免賜且官乎乃未解賜比又有小功人乎波隨其重輕且治賜比有小罪人乎波不勸賜免賜久止宣御命乎衆聞食止宣是日右大臣從二位兼中衛大將藤原朝臣是公薨詔贈從一位是公贈太政大臣正一位武智麻呂之孫參議兵部卿從三位乙麻呂之第一子也爲人長大兼有威容寶字中授從五位下補神祇大副歷山背播磨守左衛士督神護二年授從四位下歷內豎式部大輔春宮大夫寶龜末至參議左大弁從三位天應元年加正三位遷中衛大將兼式部卿俄拜中納言中衛大將式部卿如故轉大納言延曆二年拜右大臣中衛大將如故是公曉習時務割斷無滯薨時年六十三○冬十月戊寅以大納言從二位藤原朝臣繼繩爲兼中衛大將○乙酉散位從三位高倉朝臣福信薨福信武藏國高麗郡人也本姓背奈其祖福德屬唐將李勣拔平壤城來歸國家居武藏焉福信卽福德之孫也小年隨伯父背奈行文入都時與同輩晚頭往石上衢遊戲相撲巧用其力能勝其敵遂聞內裏召令侍內豎所自是著名初任右衛士大志稍遷天平中授外從五位下任春宮亮聖武皇帝甚加恩幸勝寶初至從四位紫微少

○藤原朝臣是公薨初名黑麻呂寶字五年正月戊子紀始見寶龜五年五月癸卯參議なる贈從一位牛屋大臣と號す  
○補神祇大副補字は金本曾本湊本に據て補ふ  
○轉大納言原本轉を輔に作る諸本に據て改む  
○中衛大將如故原本故を元にする金本曾本湊本に據て改む  
○割斷金本判斷に作る  
○十月高倉朝臣福信薨天平十年三月辛未紀に始見補任には十月八日薨とあり  
○李勣天智天皇七年高麗を討て之を滅せり傳は唐書卷九十三に見ゆ  
○平壤城今の朝鮮京城なり欽明紀十二年紀下六〇頁を參看すべし  
○居武藏焉諸本爲武藏人焉の五字に作る  
○小年小は少と通ず  
○石上衢大和國山邊郡石上郷にあり大和志に石上郷方廢村存とあり  
○內豎所勝寶八歳五月紀(卷上四〇五頁)に注す拾芥抄に內豎所在一本御書所東内候以大臣爲別當とあり



○大原真人室子卒、寶龜四年十一月丁卯紀に始見(十一月)壬午、是月己亥朔壬午なし疑くは壬子の訛なるべし壬子は十四日なり

○停止攝津職、止字は金本曾本淀本に據て補ふ

○勘過公使之使、職員令に攝津大夫一人掌津濟過所上下公使云々事あり

(十二月)美濃郡、抄國郡部に播磨國美濃(美奈木)とあり

○水兒船瀬、考證に黑河氏曰水兒訓ニカコ播磨國鹿子水門見應神紀今有賀古郡船瀬見景雲元年八月考證云

○多治比真人長野薨、神護元年正月己亥始見、刑部大判事大和介參河守民部大輔攝津大夫伊勢守刑部卿近江守等を歴任す

○長野大納言從一位云々、長野の二字は金本曾本に據て補ふ

○中宮、皇太夫人高野氏なり下文に見ゆ

○皇太后、下文本傳中に九年追上尊號曰皇太后とあれば此は追書なる事明なり

弼、改本姓、賜高麗朝臣、遷信部、大輔、神護元年、授從三位、拜造宮卿、兼歷武藏近江守、寶龜十年、上書言、臣自投聖化、年歲已深、但雖新姓、之榮朝臣過分、而舊俗之號高麗未除、伏乞、改高麗以爲高倉、詔許之、天應元年、遷彈正尹兼武藏守、延曆四年、上表乞身、以散位歸第焉、薨時年八十一、○己丑、授正六位上巨勢朝臣野足從五位下、○辛卯、以從五位下巨勢朝臣野足爲陸奥鎮守副將軍、○丁酉、命婦從四位下大原真人室子卒、○十一月丁未、授造宮、大工正六位上物部建麻呂外從五位下、○壬午、停止攝津職、勘過公私之使、○十二月乙亥、播磨國美濃郡大領正六位下韓鍛首廣富獻稻六万束於水兒船瀬、授外從五位下、○己丑、參議兵部卿從三位多治比真人長野薨、長野大納言從二位池守之孫、散位從四位下家主之子也、○庚寅、勅曰、朕有所思、宜停來年賀正之禮、又勅、頃者中宮不豫、稍經旬日、雖勤醫療、未有應驗、思歸至道、令復安穩、宜令畿內七道諸寺、一七箇日讀誦大般若經焉、○乙未、皇太后崩、○丙申、以大納言從二位藤原朝臣繼繩參議彈正尹正四位上神王備前

○藤原朝臣黑麻呂、原本に黒を里に作る金本曾本淀本に據て改む

○兄原、原本原を厚に作る金本淀本に據て改む

○小倉王、王字は諸本に據て補ふ

○賀智、金本曾本淀本智を知に作る

○錫紵、葬喪令に凡天皇爲本服二等以上親喪服錫紵義解に天皇爲考妣令條無文依式處分也錫紵者細布即用淺墨染也と見ゆ

守正五位上當麻王、散位從五位上氣多王、內禮正從五位下廣上王、參議左大弁正四位下紀朝臣古佐美、宮內卿從四位下石上朝臣家成、右京大夫從四位下藤原朝臣菅繼、右中弁正五位下文室真人與企、治部大輔從五位上藤原朝臣黑麻呂、散位從五位上桑原公足床、出雲守從五位下紀朝臣兄原雅樂、助外從五位下息長、真人淨繼、大炊、助外從五位下中臣栗原連子公、六位已下、官九人、爲御葬司、中納言正三位藤原朝臣小黑麻呂、參議治部卿正四位下壹志濃王、阿波守從五位上小倉王、散位從五位下大庭王、正五位下藤原朝臣眞友、因幡守從五位上文室真人忍坂麻呂、但馬介從五位上文室真人久賀麻呂、左少弁從五位上阿倍朝臣弟當彈正、弼從五位下文室真人八嶋、六位已下、官十四人、爲山作司、信濃介從五位下多治比真人賀智、安藝介外從五位下林、連浦海、六位已下、官八人、爲養民司、左衛士佐從五位下巨勢朝臣嶋人、丹波介從五位下丹比宿禰眞淨、六位已下、官三人、爲作路司、差發左右京、五畿內、近江、丹波等國、役夫、天皇服錫紵、避正殿、御西廂、率



○神郷、類史郷を郡に作る  
 ○見僧尼、考證に見下疑脱住字云云  
 ○天高知日之子姫尊、天高知は日の枕詞、日之子は其遠祖都慕王は母日精に感じて生む所なり云云によりて稱へ名としたるなるべし  
 ○壬子、九年正月十五日なり  
 ○大枝山陵、諸陵式に大枝陵太皇太后高野氏在山城國乙訓郡山城志に在る掛村(今大枝村大字掛掛)とあり  
 ○和氏、後に高野氏と改む和氏は百濟武寧王の後なること此に見ゆるが如此此外に姓氏録に和連見ゆ同じく百濟系なり  
 ○贈正一位乙繼、九年十二月壬辰正一位を贈らるること詔に見ゆ  
 ○大枝朝臣眞妹、乙繼と同時に贈位ありたり原本妹を妹に作る金本曾本淀本に據て改む善神考に眞の妹と訓みしは恐くは非ならむ  
 ○武寧王、姓氏録に和朝臣百濟國都慕王十八世孫武寧王之後也とあり姓氏録考證に其世系を擧げたり繼體紀十七年五月に百濟國王武寧王と見ゆ  
 ○純陞太子、繼體紀十八年正月百濟太子明即位とある是なり明は明王とも聖明王とも云へり欽明天皇十五年新羅の爲に殺さる  
 ○夙著、原本夙を風に作る金本曾本淀本に據て改む  
 ○媼而納焉、淀本媼を聘に作る考證に案媼同聘說文媼問也聘訪也媼女耳分部義通と云  
 ○寶龜年中、年字は諸本に據て補ふ  
 ○高野朝臣、寶龜九年正月丙子條に授從四位下高野朝臣從三位とあり先是既在高野朝臣の姓を賜はりしなるべし  
 ○追上尊號、大日本史注に追上尊號月日不載疑在壬子葬於大枝陵之日と云  
 ○都慕王、姓氏録長背連焉

の條に鄒牟王一名朱蒙とあり魏書高句麗傳に高句麗者出於夫餘自言先祖朱蒙朱蒙母河伯女爲夫餘王閉於室中爲日所照引身避之日影又逐既而有孕生一卵大如五升云々有一男破殼而出及其長也字之曰朱蒙其俗言朱蒙善射也云々と見ゆ蓋百濟及高句麗共に扶餘に出て其先を温祚といひ温祚の父即朱蒙なり後漢書梁書並に東明と書けり

【延曆九年】藤原朝臣黑麻呂、原本黒を里に作る金本曾本淀本に據て改む下同じ  
 ○御齋會、原本御を佛に作る金本及紀略に據て改む  
 (二月)藤原朝臣濱成薨、初名濱足、勝寶三年正月己酉紀に始見  
 ○略涉群書、天書十卷を著す又八雲御抄に歌經標式も此人の著なりと云  
 ○術數、陰陽五行生剋の理を究めて人事を推知し吉凶を趨避する者即ち占候卜筮星命の如きを云一には法制治國の術をもいへど此は前者なるべし  
 ○宰輔胤、金本曾本淀本輔下に之字あり  
 ○民部省云々、職員令集解太政官奏を引て謹案令條官員有限縁事繁閑應有増減而民部省主計寮計納雜物勳勾用度諸司之中尤是念劇伏請民部省加大丞一人主計寮加少允少屬各一人

九年春正月癸亥、以從二位藤原朝臣繼繩、正三位藤原朝臣小黑麻呂、正四位上神王、正四位下紀朝臣古佐美、從四位上和氣朝臣清麻呂、正五位下文室真人與企、從五位上藤原朝臣黑麻呂、百濟王仁貞、三嶋真人名繼、從五位下文室真人八嶋、爲周忌御齋會司、六位已下、官九人、○丁卯、百官釋服、從吉、是日大祓、○二月乙酉、大宰員外帥從三位藤原朝臣濱成薨、贈太政大臣正一位不比等之孫、兵部卿從三位麻呂之子也、略涉群書類、習術數、以宰輔胤、歷職內外、所在無績、吏民患之、寶龜中、至參議從三位、歷彈正、刑部卿、天應元年、坐事左遷、至是薨於任所、時年六十七、○壬辰、民部省加置大丞一人、主計寮少允少屬各一人、越前、肥後、二國各掾一人、○癸巳、授從五位上紀朝臣木津魚正五位下、外從五位上池原公綱主、外從五位下入間宿禰廣成、正六位上吉備朝臣與智麻呂、並從五位下、○甲午、詔以大納言從二位藤原朝臣繼繩爲



自今以後永爲恒式云々あり  
○木津魚、原本木を本に作る諸本に據て改む

○正五位上文室真人、原本上を下に作る閣本に據て改む

三月正六位上秦造子嶋、三年十一月癸卯紀に外從五位下に作る何れか誤あるべし  
○大田首豐繩、大田首は姓氏録に載せず系詳ならず豐繩は下文に豐繩に作る  
○百濟王俊哲、俊哲事に坐して日向に左降せられしこ六年閏五月丁巳紀に見ゆ

右大臣、中納言正三位藤原朝臣、小黑麻呂爲大納言、從四位上大伴宿禰、潔足、從四位下石川朝臣、眞守、大中臣朝臣、諸魚、藤原朝臣、雄友、爲參議、授從三位紀朝臣、船守、正三位、正五位上當麻呂、從四位下、無位謂奈王、從五位下、正四位下紀朝臣、古佐美、正四位上、從四位上和氣朝臣、清麻呂、正四位下、正五位上文室真人、高嶋、百濟王玄鏡、並從四位下、從五位上百濟王仁、眞正五位上、從五位上羽栗、臣翼、正五位下、從五位下藤原朝臣、末茂、從五位上、正六位上百濟王鏡仁、從五位下、是日詔曰、百濟王者、朕之外戚也、今所以擢一兩人、加授爵位也、○三月己亥、正六位上秦造子嶋、從六位下大田首豐繩、並授外從五位下、○庚子、停節宴、以凶服、雖除忌序、未周也、日向權介、正五位上勳、四等百濟王、俊哲、免其罪、令入京、○丙午、以從五位下巨勢朝臣、嶋人爲山背守、左衛士、佐如故、從五位下藤原朝臣、今川爲伊勢介、從五位下大原真人、美氣爲尾張守、雅樂頭、正五位下文室真人、波多麻呂爲兼參河介、鼓吹、正外從五位下奈良忌寸、長野爲兼遠江介、從五位上藤原朝臣、黑麻呂爲駿河守、木

○筑紫麻呂、紫字は諸本及八年三月戊午紀に據て補ふ

○那保企、原本那を群に作る諸本及閏三月丁丑紀に據て改む

○壬戌、原本戌を辰に作る諸本及紀略に據て改む

工、助外從五位下高篠、連廣浪爲兼介、從五位下都努朝臣、筑紫麻呂爲武藏介、從五位下大野朝臣、仲男爲安房守、參議彈正、尹正四位上神王爲兼下總守、從五位下入間宿禰、廣成爲常陸介、大藏大輔、正五位下藤原朝臣、乙叡爲兼信濃守、侍從如故、從五位下平群朝臣、清麻呂爲介、從五位上多治比真人、濱成爲陸奥按察使、兼守近衛少將、從五位下坂上大宿禰、田村麻呂爲兼越後守、內匠助如故、從五位下大宅朝臣、廣江爲丹後守、從五位下藤原朝臣、仲成爲出雲介、從五位上藤原朝臣、末茂爲美作守、正五位下中臣朝臣、常爲紀伊守、圖書頭、從五位上津連、眞道爲兼伊豫守、東宮學士左兵衛佐如故、從五位下高橋朝臣、祖麻呂爲介、正五位下文室真人、那保企本名與企爲大宰大貳、正五位下粟田朝臣、鷹守爲肥後守、從五位下百濟王鏡仁爲豐後介、○辛亥、伯耆紀伊淡路參河飛驒美作等六國飢、賑給之、○壬戌、以正五位上百濟王仁、眞爲左中弁、正五位下多治比真人、宇美爲右中弁、從五位下藤原朝臣、眞鷲爲右少弁、從五位下藤原朝臣、弟友爲侍從、從五位下物部多藝、宿禰國足爲圖書助、



○左京大夫、金本曾本淀本及八年三月戊午條に左を右に作る

○仁貞、原本仁弟に作る金本淀本及四年正月辛亥紀に據て改む  
○左京亮、原本左を右に作る金本に據て改む  
○春宮大進、原本春を東に作る金本に據て改む

常陸、大掾如故、從四位下藤原朝臣內麻呂、爲內藏頭、右衛士、督越前守、如故、左京大夫、從四位下藤原朝臣菅嗣、爲兼陰陽頭、正五位下紀朝臣木津魚、爲內匠頭、從五位下百濟王元信、爲治部少輔、外從五位下上毛野、公薩摩、爲主稅助、從四位上大伴宿禰潔足、爲兵部卿、正五位下藤原朝臣乙叡、爲大輔、侍從信濃守如故、從五位下甘南備真人淨野、爲少輔、從五位下藤原朝臣岡繼、爲大判事、從五位下和朝臣國守、爲大藏少輔、外從五位下錦部連家守、爲織部正、從五位上紀朝臣難波麻呂、爲宮內大輔、從五位下藤原朝臣弟友、爲少輔、侍從如故、左中弁正五位上百濟王仁貞、爲兼木工頭、從五位下大神朝臣人成、爲大膳亮、從五位下紀朝臣登麻理、爲彈正弼、從五位下巨勢朝臣人公、爲左京亮、從五位下安倍朝臣人成、爲春宮大進、從五位下百濟王忠信、爲中衛少將、正五位下紀朝臣木津魚、爲衛門督、內匠頭如故、從五位下佐伯宿禰繼成、爲佐、外從五位下大田首豐繼、爲左衛士大尉、從五位上伊勢朝臣水通、爲右衛士佐、兵部大輔、正五位下藤原朝臣乙叡、爲兼右兵衛督、大外記、從五位下

(閏三月)清橋女王卒、寶龜元年十一月甲子紀(二七頁)に始て見え淨橋に作る  
○仰下諸國、下字は金本曾本及紀略に據て補ふ

秋篠、宿禰安人、爲兼佐、皇后宮亮、正五位下大伴宿禰弟麻呂、爲兼河內守、外從五位下麻田連眞淨、爲伊勢介、外從五位下息長、真人淨繼、爲尾張介、從五位下田中朝臣清人、爲下總介、從五位下文室真人八嶋、爲伯耆守、從五位下多治比真人繼兄、爲大宰少貳、○丙寅、參河美作二國飢、賑給之、○閏三月丁卯朔、從四位上清橋女王卒、○庚午、勅爲征蝦夷、仰下諸國、令造革甲二千領、東海道駿河以東、東山道信濃以東、國別有數、限三箇年、並令造、訖、○丙子、有勅、度二百人出家、又左右京五畿內、高年鰥寡、孤獨疹疾、不能自存者、普加賑恤、並爲皇后不豫也、是日皇后崩、○丁丑、天皇移御近衛府、以從二位藤原朝臣繼繩、正四位上神、王、從四位下當麻王、從五位上氣多王、從五位下廣上王、正四位上紀朝臣古佐美、從四位下石上朝臣家成、藤原朝臣雄友、藤原朝臣內麻呂、正五位下文室真人那保企、從五位上藤原朝臣黑麻呂、桑原公足、床阿倍朝臣廣津麻呂、外從五位下高篠連廣浪、中臣栗原連子公、爲御葬司、六位已下、官八人、正三位藤原朝臣小黑麻呂、正四位下壹志濃王、從五



○六位已下官三人、原本下か上に作る金本澁本に據て改む

○國哀相尋、八年十二月乙未(四八六頁)皇太后崩じ九年閏三月皇后崩じ給ふ云

○天之高藤原宗照姫尊、原本姫の下に之字あり金本曾本に據て削る高藤原藤原氏の出に坐すに因れる稱名廣宗照は美稱なるべし

○長岡山陵、諸陵式に高島陵皇太后藤原氏、在山城國乙訓郡にあり、中務式三代實錄は此に同じ山城志に在寺戸村にあり○贈從一位良繼、原本内大臣の上にも贈字あり金本に據て削る

位下大庭王、從四位下藤原朝臣菅繼、文室真人高嶋、正五位下文室真人八多麻呂、藤原朝臣眞友、從五位下文室真人八嶋、藤原朝臣眞鷲、爲山作司、六位已下、官十二人、從五位下多治比、真人賀智、外從五位下林連浦海、爲養民司、六位已下、官五人、從五位下巨勢朝臣鳴人、丹比、宿禰眞淨、爲作路司、六位已下、官三人、差發左右京、五畿内、近江、丹波等國、役夫、令京畿七道、自今月十八日始、素服、舉哀、以晦日爲限焉、○壬午、詔曰、朕以寡德、臨馭寰區、國哀相尋、災變未息、轉禍爲福、德政居先、思布仁恩、用致安穩、宜可大赦天下、自延曆九年閏三月十六日、味爽以前、大辟已下、罪無輕重、已發露未發露、已結正未結正、繫囚見徒、私鑄錢、八虐、強竊、二盜、常赦所不免者、咸皆赦除、其延曆三年以往、天下百姓所負正稅、未納言上、及調庸未進者、咸免除之、縱未言上、無由徵納者、亦免之、神寺之稻、宜准此例焉、○甲午、參議左大弁正四位上紀朝臣古佐美、率誅人奉誅、諡曰天之高藤原宗照、是日葬於長岡山陵、皇后姓藤原氏、諱乙牟漏、内大臣贈從一位良繼之女也、母尙侍贈從一位阿倍朝臣古美奈

○賀美能親王、或は神野に作る嵯峨天皇に坐す  
○東山上野以東、原本此六字重複す金本曾本に據て削る  
○四月丹後、原本後を波に作る諸本に據て改む  
○五月石川朝臣豐人卒、天平廿年二月己未始見、少納言主税頭越中守刑部少輔右少辨大和守出雲守石京大夫中宮大夫武藏守等を歷任す  
○遠田郡領、原本領上に大の字あり金本閣本曾本に據て削る  
○更欽清化、原本欽を飲に作る金本に據て改む  
○田夷、天平二年正月辛亥紀に見ゆ  
○欲改夷姓、欲字は金本曾本澁本に據て補ふ  
○賜姓遠田臣、原本遠上に於字あり金本曾本に據て削る  
○六月神今食、公事根源に神今食の儀は年に兩度也伊勢天照大神を勸請申されて天子みづから神饌を供せさせ給ふにや靈龜二年六月よりはじまるさあり訓は普通にジンゴンジキと訓め釋紀述義六に私記を引て古謂神

后性柔婉、美姿儀閑、於女則有母儀之德焉、今上之在儲宮也、納以爲妃、生皇太子、賀美能親王、高志内親王、及於即位立爲皇后、薨時春秋卅有一、○乙未、勅東海相摸以東、東山上野以東、諸國乾備軍糧、糶十四万斛、爲征蝦夷也、○丙申、百官釋服大祓、○夏四月庚子、授正五位下文室真人那保企正五位上、○辛丑、仰大宰府令造鐵冑二千九百餘枚、備前阿波二國飢、賑給之、○癸丑、以從六位下出雲臣人長爲出雲國造、○乙丑、和泉、參河、遠江、近江、美濃、上野、丹後、伯耆、播磨、美作、備前、備中、紀伊、淡路等十四國飢、賑給之、○五月戊辰、大藏卿從四位上石川朝臣豐人卒、○庚午、陸奥國言遠田郡領外正八位上勳八等遠田公押人款云、己既洗濁俗、更欽清化、志同内民、風仰華土、然猶未免田夷之姓、永貽子孫之恥、伏望一同民例、欲改夷姓、於是賜姓遠田臣、○癸酉、以外從八位上紀直五百友爲紀伊國造、○丙戌、遣使五畿内祈雨焉、○甲午、以炎早經月、公私焦損、詔奉幣畿内名神以祈嘉澍焉、○六月戊申、於神祇官曹司行神今食之事、先是頻屬國哀、諒闇未終、故避内裏而於外設焉



今木こあれば古くはカ  
ムイマケと訓みしなり其  
起源を靈龜二年とするは  
非なり神今食の事高橋氏  
文にも見えたる起源と  
は無く其以前より行はれ  
し事明なり  
○於外設焉、金本曾本  
本於上に作字あり、本傍  
注に殊乎と云り  
○(七月)貴須王、欽明紀  
及姓氏、貴須を貴首に作  
り三國史記には仇首王或  
云貴須とあり  
○第十六世王也、姓氏錄  
には都慕王十世孫とあり  
三國史記には六世孫とす  
○都慕大王者云々、八年  
十二月丙申紀に注す  
○近肖古王、比流王の第  
二子にて貴須王の孫なり  
肖古は貴須の父なれば時  
代合へり肖古王の誤なる  
べし原本肖を背に作る金  
本曾本本に據て改む  
○應神天皇云々、荒田別  
を遣すこと應神紀十五年  
八月に見ゆ但し紀には  
遣上毛野君祖荒田別  
別於百濟仍徵王仁也と  
あり此に言ふ所と異れり  
○搜聘有識者、搜字恐く  
は行ならむ  
○國主貴須王云々、神功

○辛酉、内厩、頭從五位上三嶋、眞人名繼、爲兼美作、守、○秋七月辛巳、左  
中弁正五位上兼木工、頭百濟王仁貞、治部少輔從五位下百濟王元信、  
中衛少將從五位下百濟王忠信、圖書頭從五位上兼東宮學士左兵衛  
佐伊豫守津連眞道等上表言眞道等本系出自百濟國、貴須王、貴須王  
者、百濟始興第十六世王也、夫百濟太祖都慕大王者、日神降靈、奄扶  
餘而開國、天帝授籙、惣諸韓而稱王、降及近肖古王、遙慕聖化、始聘貴國、  
是則神功皇后攝政之年也、其後輕嶋豐明朝、御宇、應神天皇、命上  
毛野氏遠祖荒田別使於百濟、搜聘有識者、國主貴須王、恭奉使旨、擇  
採宗族、遣其孫辰孫王一名智宗王隨使入朝、天皇嘉焉、特加寵命、以爲皇太子  
之師矣、於是始傳書籍、大闡儒風、文教之興、誠在於此、難波高津朝御宇、  
仁德天皇、以辰孫王長子太阿郎王爲近侍、太阿郎王子亥陽君、亥陽君  
子午定君、午定君生三男、長子味沙、仲子辰爾、季子麻呂、從此而別、始爲  
三姓、各因所職、以命氏焉、葛井、船津、連等即是也、逮于他田朝御宇、敏  
達天皇、御世、高麗國遣使上烏羽之表、羣臣諸史莫之能讀、而辰爾進取

紀に六十四年百濟國貴須  
王薨とあり此に記す所と  
合はす  
○午定君、原本君を若に  
作る曾本本金本に據  
て改む金本午を子に作  
る何れか是なるを知らず  
○午定君生三男、午定君  
の三字は金本本に據て  
補ふ  
○味沙、錄左京諸蕃に葛  
井宿禰鹽君男味散君之後  
也  
○辰爾、同上に船連太阿  
郎王三世孫智仁子君之  
後也とあり智仁即辰爾な  
り  
○麻呂、同上に津宿禰鹽  
君男麻侶之後也とあり  
○上烏羽之表、敏達元年  
五月紀に高麗上表疏書  
于烏羽字隨羽黑既無識  
者辰爾乃蒸羽於飯氣以  
帛印羽寫其字朝廷悉  
異之とあり  
○群臣諸史、原本史を司  
に作す金本に據て改む  
○品彙、各種の生物を謂  
ふ  
○凡有懷生、文選注に懷  
生之物謂動植之類也と  
あり總ての動植物を云  
ふ(卷上一九二頁參照)原本  
生を性に作る金本本に

其表能讀巧寫詳奏表文、天皇嘉其篤學、深加賞歎、詔曰、勤乎懿哉、汝若  
不愛學、誰能解讀、宜從今始、近侍殿中、既而又詔東西諸史曰、汝等雖衆、  
不及辰爾、斯並國史家牒、詳載其事矣、伏惟皇朝、則天布化、稽古垂  
風、弘澤浹乎羣方、叡政覃於品彙、故能修廢繼絕、萬姓仰而賴慶、正  
名辨物、四海歸而得宜、凡有懷生、莫不抃躍、眞道等先祖、委質聖朝、  
年代深遠、家傳文雅之業、族掌西庠之職、眞道等生逢昌運、預沐天恩、  
伏望改換連姓、蒙賜朝臣、於是勅因居賜姓菅野、朝臣○乙酉、正五位上  
坂上、大宿禰又子卒、故左京大夫從三位菟田麻呂之女也、天皇之在儲  
宮也、以選入、生高津內親王○戊子、從五位下紀、朝臣皆麻呂爲少納  
言、從四位下石川朝臣眞守爲右大弁、從五位上調使、王爲左大舍人、頭  
從五位上藤原朝臣刷雄爲右大舍人、頭、近衛少將從五位下藤原朝臣  
繩主爲兼式部、少輔、備前介如故、從五位上阿保朝臣人上爲大學頭、從  
五位上藤原朝臣是人爲治部、大輔、從五位下文室眞人大原爲少輔、從  
五位上藤原朝臣眞作爲大藏、大輔、從四位下紀、朝臣犬養爲大膳、大夫、



據て改む  
 ○委實、左傳僖廿三年に策名委實あり實は實に同じ古人相見る必ず實を執て禮を爲す委實は禮を以て見ゆるを云金本會本徒本には實を資に作る○族掌西岸之職、原本族を撰に作る諸本に據て改む西岸は毛詩靈臺序疏に周立三代之學、庶序在國之西郊さあるに據れり一族は文學を掌れるを云○菅野朝臣、右京諸蕃に菅野朝臣出自百濟國都慕王十世孫貴首王也とあり菅野は大和國宇陀郡の地名に因れるなるべし○坂上大宿禰又子卒、二年二月紀に始見○故左京大夫、原本左を右に作る金本徒本に據て改む  
 ○九月、皇太子、皇字は金本會本徒本に據て補ふ○善謝、後紀延曆廿三年五月紀及元亨釋書卷二に傳あり案後紀、古本僧綱補任には延曆五年律師に任すあり  
 ○等定、古本僧綱補任に等定三年九月九日任律師花嚴宗東大寺別當又引或本云九年九月九日

從五位上葛井連根主爲亮從五位下大春日朝臣清足爲官奴正五位下葛井連道依爲春宮亮從五位下大伴宿禰蓑麻呂爲中衛少將從五位下藤原朝臣今川爲伊勢守從五位上宗形王爲讚岐守從五位下百濟王元信爲肥後介○八月乙未朔大宰府言所部飢民八万八千餘人請加賑恤許之○九月丙寅於京下七寺誦經爲皇太子寢膳乖適也○己巳授從五位下川村王從五位上○辛未詔以善謝法師等定法師並爲律師○甲戌奉伊勢大神宮相嘗幣帛常年天皇御大極殿遙拜而緣在諒闇不行常儀故以幣帛直付使者矣○丙子詔曰朕以寡昧忝馭寰區吁食宵衣情存撫育而至和靡屆炎旱爲災田疇不修農畝多廢雖豐儉有時而責深在予今聞京畿失稔甚於外國兼苦疾疫飢饉者衆宜免左右京及五畿內今年田租以息窮弊神寺之租亦宜准此焉○己卯攝津職貢白鼠赤眼○冬十月甲午復置鑄錢司○乙未散位正三位佐伯宿禰今毛人薨右衛士督從五位下人足之子也天平十五年聖武皇帝發願始建東大寺徵發百姓方事營作今毛人爲領催檢

任河内人さあり  
 ○甲戌、原本戌を辰に作る諸本及類史紀略に據て改む  
 ○相嘗、四時祭式に見ゆる九月神嘗の幣帛なり十一月上卯日の相嘗幣帛さ異れり  
 ○而緣在諒闇、原本緣字なくして奉而の二字あり金本會本及類史紀略に據て改訂す  
 ○兼苦疾疫、苦字は金本會本徒本に據て補ふ  
 ○以息窮弊、窮字は金本會本徒本に據て補ふ  
 ○十月、復置鑄錢司、五年四月に罷め是に至て復之を置く狩谷校本に眞末按鑄錢隆平永寶錢乎云々さあり  
 ○佐伯宿禰今毛人薨、勝寶元年十二月紀に始見傳は此に見えたるが如し聽字の下に今毛人の三字あるべきなり  
 ○爲領催檢云々、延曆僧錄に今毛人有巧思每朝廷有所營造未嘗不與其事而奉公謹慎深信釋教初董東大寺役常日持齋帝呼爲東大居士さあり  
 ○居三年、原本居下に之

頗以方便勸使役民聖武皇帝錄其幹勇殊任使之勝實初除大和介授從五位下累遷寶字中至從四位下攝津大夫歷播磨守大宰大貳左大弁皇后宮大夫延曆初授從三位尋拜參議加正三位遷民部卿皇后宮大夫如故五年出爲大宰帥居三年年及七十表乞骸骨詔許之薨時年七十二○丙午高年人道守臣東人於內裏引見時年一百廿二歲其髮尙多聰如少年矜其衰邁賜之衣服○己酉從五位下多治比真人乙安爲鑄錢長官○辛亥征蝦夷有功者四千八百四十餘人隨勞輕重授勳進階並依天應元年例行之○癸丑太政官奏言蝦夷千紀久通王誅大軍奮擊餘孽未絕當今坂東之國久疲戎場強壯者以筋力供軍貧弱者以轉餉赴役而富饒之輩頗免此苦前後之戰未見其勞又諸國百姓元離軍役徵發之時一無所預計其勞逸不可同日普天之下同日皇民至於舉事何無俱勞請仰左右京五畿內七道諸國司等不論土人浪人及王臣佃使檢錄財堪造甲者副其所蓄物數及鄉里姓名限今年內令以申訖又應造之數各令親申臣等職參樞要



字あり三を五に作る諸本に據て改削る按に今毛人は五年四月大宰帥を爲り八年正月骸骨を乞ふ居るこころ三年なり

○道守臣東人、道守臣は録有京皇別道守臣道守朝臣同祖葉類別命之後也また左京皇別道守朝臣波多矢代宿禰之後也と見え兩氏あり此は臣とあれば前に擧げたる方ならむ

○一十二歳、金本及紀略に一十二歳に作る

○其髮、原本髮を駿に作る金本及紀略に據て改む

○乙安、原本安を女に作る諸本に據て改む

○于紀、徐陵の册陳公九錫文(全六朝文所載)に象恭無赦于紀必誅とあり綱紀を干犯するを云

○餘孽未絶、華は葉の意葉は研木餘、又肆生曰葉とあり兇賊の殘黨を云絶は金本亦に作る

○諸國司等、司字は金本曾本に據て補ふ

○佃使、考證に佃疑田字飲明紀云十七年七月以葛城山田直瑞子爲田令此云施豆歌毗大寶元年四月紀云罷田領委國司巡檢田領即田令而田

不能默爾、敢陳愚管以煩天聽、奏可之。○丁巳、授女孺從七位上物部海連飯主外從五位下。○十一月乙丑、勅曰、公廩之設、本爲填補欠負未納、隨國大小、既立舉式、而今聞諸國司等、雖有欠物、猶得公廩、理須依法科罪、沒爲官物、但以國司等久有仕官之勞、曾無還家之資、今故立法制、宜自今以後、有舊年未納欠負者、大國三万束、上國二万束、中國一万束、下國五千束已上、每年徵填附帳申上、若不據此制、有未納者、返却稅帳、隨事科罪、其當年未納者、一依去天平十七年式填之。○壬申、外從五位下韓國連源等言、源等是物部大連等之苗裔也、夫物部連等各因居地行事、別爲百八十氏、是以源等先祖鹽兒、以父祖奉使國名、故改物部連、爲韓國連、然則大連苗裔、是日本之舊民、今號韓國、還似三韓之新來、至於唱導、每驚人聽、因地賜姓、古今通典、伏望改韓國二字、蒙賜高原、依請許之。○丁丑、辰時地震、已時又震。○戊寅、勅曰、中宮周忌、當來月廿八日、禮制乍畢、新歲須及、而忌景俄臨、彌切罔極之痛、元正肇啓、何受惟新之歡、興言永悲、不能自忍、賀正之禮、宜從停止焉。○己卯、是日當

使亦田令之義案三代實錄仁和元年九月條有備前國津高郡人田使首良男蓋因職爲氏者也とあり字典に佃亦作田とあれば田と同じ意に用ひしなるべし

○副其所蓄物數、原本副を并に作る諸本に據て改む

○物部海連、姓氏錄に載せず

(十一月)勅曰云々、交替式十六年八月三日官符に見ゆ

○公廩之設云々、元年十二月寶字元年十月等紀を參看すべし

○擧式、出擧の法則を云國の大小上中下に依て出擧すべき稻の束を定むるなり

○五千束、原本千を十に作る類史及交替式に據て改む

○韓國連源、金本源を涼に作る

○源等、原本源を已に作る諸本に據て改む、金本會本源上には字あり

○物部大連、舊事紀に大新河命此命纏向珠城宮御宇天皇(垂仁)元爲大臣次賜連公姓則改爲大

新嘗、而爲諒闇未終、於神祇官行其事矣。○辛巳、授無位今野女王、正五位下八上女王、並從四位下。○丁亥、陸奧國黑川郡石神山精社、並爲官社。○己丑、授無位藤原朝臣家刀、自從五位下。坂東諸國、頻屬軍役、因以疫旱、詔免今年田租。○十二月壬辰朔、詔曰、春秋之義、祖以子貴、此則禮經之垂典、帝王之恒範、朕君臨寓內、十年於茲、追尊之道、猶有闕如、興言念之、深以懼焉、宜朕外祖父高野朝臣、外祖母土師宿禰、並追贈正一位、其改土師氏爲大枝朝臣、夫先秩九族、事彰常典、自近及遠、義存曩籍、亦宜菅原眞仲、土師菅麻呂等、同爲大枝朝臣矣。○癸巳、從五位上紀朝臣田長爲長門守。○甲辰、地震。○庚戌、授常陸國信太郡、大領外從五位下物部志太、連大成、外從五位上、新治郡、大領外正六位上、新治直大直、外從五位下、播磨國明石郡、大領外正八位上、葛江我孫馬養、下總國狹嶋郡、主帳正八位上、孔王部山麻呂、並外正六位上、是四人、或居官不怠、頗著効績、或以私物賑恤所部貧乏之徒、因而得濟、故有此授焉。○己未、是日當中宮周忌、於大安寺設齋焉。○辛酉、勅外從五位下菅原



連奉齋神宮其大連之號  
 始起此時之見ゆ考證に  
 多連麻連以後世爲大連  
 と云るは非なり  
 ○磯見、舊事紀に物部鹽  
 古連(葛野韓國連等祖)と  
 ある是なり録和泉神別に  
 韓國連云々武烈天皇御世  
 被遣韓國復命之日賜  
 韓國連とあり  
 ○日本之舊民、之字は金  
 本會本に據て補ふ  
 ○唱響、唱へ言ふなり上  
 に見ゆ閣本導を道に作り曾本  
 本會本に據て補ふ

○高原、原本原を厚に作る金本會本  
 本會本に據て補ふ  
 ○岡極、原本岡を岡に作る諸本及類史に據て改む  
 ○今野女王、諸本及十年九月紀今を令に作る  
 ○石神山精社、精字は金本閣本會本に據て補ふ神名式に陸奥國黒川郡石神山精神社とあり  
 ○並爲官社、並字恐くは行  
 ○因以疫旱、原本因を因に疫を疾に作る金本に據て改む  
 (十二月)祖以子貴、公羊傳隱元年に母以子貴とありに據れり  
 ○高野朝臣、乙繼  
 ○土師宿禰、大枝朝臣眞妹  
 ○大枝朝臣、録右京神別に大枝朝臣秋篠朝臣同祖とあり  
 ○九族、父族四、母族三、妻族二を合せて云ふ又高祖父より玄孫に至までを云  
 ○菅原眞仲、菅原系圖に見ゆ秋篠安人の弟  
 ○土師菅麻呂、詳ならず  
 ○大直、此二字は金本閣本會本に據て補ふ  
 ○葛江我孫、三代實錄元慶八年二月紀に葛江我孫良津見ゆ世系詳ならず播磨國明石郡葛江(布知衣)郷あり此地に因れるなるべし  
 ○孔王部、原本王一字行れり金本會本本會本に據て削る孔王部は勝寶四年七月紀に見ゆ  
 ○土師宿禰諸士、狩谷校本に土一作上或云當作土とあれざる本は見えす四年八月紀に右京人士師宿禰淡海其姉諸主等改本姓賜秋篠宿禰とある諸主は別人なり  
 ○毛受腹、考證に孝德紀有百舌鳥土師連土德百舌鳥毛受邦訓通和名抄和泉郷名大鳥郡土師和泉志云土師今日毛順莊一作毛受とあり  
 ○屬菅原朝臣、金本本會本に據て補ふ  
 ○豌豆瘡、天平七年十一月紀に見ゆ原本に豌豆瘡に作る金本本會本及類史紀略に據て改む

〔延曆十年〕廢朝、九年十一月戊寅の勅を參考すべし  
 ○乙枚王、乙枚は下文に乙平、補任に弟枚に作る

宿禰道長、秋篠宿禰安人等並賜姓朝臣、又正六位上土師宿禰諸士等賜姓、大枝朝臣、其土師氏摠有、四腹中宮、母家者是毛受腹也、故毛受腹者賜大枝朝臣、自餘三腹者或從秋篠朝臣、或屬菅原朝臣矣、○是年秋冬、京畿男女年卅已下者、悉發豌豆瘡、俗云瘡疥臥疾者多、其甚者死、天下諸國徃徃而在、

十年春正月壬戌朔、廢朝也、○戊辰、宴五位已上、授正五位下笠王正五位上、無位乙枚王、正六位上守山王、並從五位下、從四位下石上朝臣家成、石川朝臣眞守、並從四位上、正五位上百濟王、仁貞、正五位下大伴宿

○欽火宿禰、録右京諸蕃  
 敵火宿禰坂上大宿禰同祖とあり  
 ○清水、原本永を水に作る金本會本本會本に據て改む  
 ○佐婆部首、世系十二月丙申紀に詳に見ゆ  
 ○葛木襲津彦、古事記孝元段に建内宿禰之子葛城長江曾都昆古者玉手臣の臣生江臣阿藝那臣等之祖也とあり  
 ○貶賜連姓、天武紀に見えず同紀十年四月忍海造鏡賜姓、曰連とあるは別姓なり  
 ○覆釜之下難照、枹朴子に三光不照覆釜之内とあるに據れり家系の事に就て再三訴ふれども恩光の至らざるを云  
 ○向隅、漢書刑法志に滿堂而飲酒有一人向隅悲泣則一堂皆爲之不樂とあるに出づ郷は向に通ず獨り衆に背きて憂へ悲むといふなり  
 ○朝野宿禰、此姓氏を賜ふ事後紀弘仁三年六月續後紀承和二年二月及九年十二月紀等に見ゆ  
 ○朝野、所在詳ならず  
 ○正六位上百濟王、原本

禰弟麻呂、藤原朝臣眞友、並從四位下、從五位上葛井連根主、正五位下、從五位下賀茂朝臣大川、多治比真人乙安、大原真人美氣、巨勢朝臣總成、百濟王英孫、藤原朝臣繩主和朝臣三具足、和朝臣國守紀朝臣楫長、物部多藝、宿禰國足、並從五位上、外從五位下菅原朝臣道長、秋篠朝臣安人、正六位上佐伯宿禰岡上紀朝臣乙佐美、路真人豐長、藤原朝臣最乙麻呂、藤原朝臣道繼、大神朝臣仲江麻呂、布勢朝臣田上平群、朝臣嗣人、大伴宿禰是成、並從五位下、正六位上欽火宿禰清永安都、宿禰長人、佐婆部首牛養、伊與部連家守清道、造岡麻呂、並外從五位下、宴訖賜祿各有差、○己巳、典藥頭外從五位下忍海原連魚養等言、謹檢古牒云、葛木襲津彦之第六子、曰熊道足、禰是魚養等之祖也、熊道足禰六世孫首麻呂、飛鳥淨御原朝庭辛巳年、貶賜連姓、爾來再三披訴、一二陳聞、然覆釜之下難照、而向隅之志久矣、今屬聖朝啓運、品物交泰、愚民宿憤、不得陳望、請除彼舊號、賜朝野宿禰、光前榮後、存亡俱欣、今所請朝野者、所處之本名也、依請賜之、○庚午、授無位川原女王、吳岡女王、正六位上



六を五に作る關本に據て改む

○道依等八人賜姓宿禰、葛井宿禰菅野朝臣同祖なり姓氏錄右京諸蕃に見ゆ  
○宮原宿禰、同上に宮原宿禰菅野朝臣同祖鹽君男智仁君之後也とあり宮原は所在詳ならず  
○中宿禰、同上に中宿禰鹽君孫志之後也とあり續後紀承和元年十二月紀に中宿禰直門同姓繼門等賜姓菅野朝臣津連之別姓也とあり更に菅野朝臣を賜へり  
○賀美能宿禰、文德紀嘉祥三年五月太皇太后橘氏傳に嵯峨天皇誕生有乳母姓神野先朝之制皇子生以乳母姓爲之故名以神野爲天皇諱云々とあり  
○正三位紀朝臣、原本三を二に作る諸本に據て改む

百濟王難波姬無位縣犬養宿禰額子並從五位下○癸酉春宮亮正五位下葛井連道依主稅大屬從六位下船連今道等言葛井船津連等本出一祖別爲三氏而今津連等幸遇昌運先賜朝臣而道依今道等猶滯連姓方今聖主照臨在幽盡燭至化潛運稟氣歸仁伏望同沐天恩共蒙改姓詔許之道依等八人賜姓宿禰今道等八人因居賜宮原宿禰又對馬守正六位上津連吉道等十人賜宿禰少外記津連巨都雄等兄弟姊妹七人因居賜中宿禰○甲戌大秦公忌寸濱刀自女賜姓賀美能宿禰賀美能親王之乳母也○丁丑以中納言正三位紀朝臣船守爲大納言○己卯遣正五位上百濟王俊哲從五位下坂上大宿禰田村麻呂於東海道從五位下藤原朝臣眞鷲於東山道簡閱軍士兼檢戎具爲征蝦夷也○癸未以從五位上賀茂朝臣大川爲伊賀守齋宮頭從五位上賀茂朝臣人麻呂爲兼伊勢守從五位下藤原朝臣縵麻呂爲相摸守從五位下吉備朝臣與智麻呂爲介近衛將監從五位下池原公綱主爲兼常陸大掾從五位下藤原朝臣今川爲美濃守正五位上百

○布勢朝臣、金本淀本勢を施に作る  
○岡田王、王字は金本閣本曾本に據て補ふ

二月甲辰、是月辛卯朔、甲辰は十四日なれば癸卯の下にあるべきなり

濟王俊哲爲下野守從五位下文室眞人大原爲陸奥介從五位下安倍朝臣人成爲能登守從五位下藤原朝臣清主爲丹波介從五位下布勢朝臣田上爲因幡介從五位下藤原朝臣岡繼爲伯耆介從五位下岡田王爲備中守從五位下大中臣朝臣弟成爲豐前守從五位上藤原朝臣園人爲豐後守○丙戌授外正六位上麻績連廣河外從五位下以獻物也○己丑以從五位下大庭王爲侍從從五位下大神朝臣仲江麻呂爲畫工正東宮學士從五位上菅野朝臣眞道爲兼治部少輔左兵衛佐伊豫守如故從五位下紀朝臣登麻理爲雅樂頭外從五位下安都宿禰長人爲主稅助外從五位下佐伯宿禰諸成爲兵馬正從五位下鹽屋王爲造兵正從五位下藤原朝臣弟友爲大判事侍從如故從五位上橘朝臣綿裳爲宮内大輔從五位下藤原朝臣大繼爲少輔正五位下文室眞人波多麻呂爲彈正弼從五位下御方宿禰廣名爲右京亮外從五位下阿閉間人臣人足爲春宮大進從五位上紀朝臣難波麻呂爲筑後守從五位下和朝臣家麻呂爲内廐助○二月甲辰授正六位上藤原朝臣緒



○左京亮、原本左を右に作る金本曾本准本に據て改む

○丈部善理、原本丈を大に作る金本曾本准本及八年六月紀に據て改む

○諸國倉庫云々、三代格卷十二に見ゆ

○合院燒盡、院は字書に周垣也宮室有垣牆者曰院とあり一つ構内を云

○五位已上位田云々、神龜三年二月紀及寶龜九年四月紀を參考すべし

○三月眞備、金本曾本准本眞吉備に作る

○刪定律令、眞備長岡等の在世中に刪定せしめられしを此に至りて始めて行はしめられしなり眞備は寶龜六年に薨じ長岡は景雲三年に既に卒せり故に此に故右大臣云々云り延曆十六年六月にも神王等を令格四十五條を刪定せしめられたり

○乙平王、上文乙枚王に作る  
○於宿禰、原本於上に保字あり衍なり金本曾本に據て削る於宿禰は坂上同祖にて六年六月紀に於忌寸弟麻呂改忌寸賜宿禰姓とある是なり  
○天子七廟云々、王制に出づ此は周の制度にて大祖及文王武王の廟に祧親廟四を合せたる數なり  
○舍故而諱新、檀弓上に

○四月豐城入彦命、崇神紀四十八年に以豐城命命治東是上毛野君下毛野君之始祖也とあり豐城命即ち豐城入彦命なり  
○住吉朝臣、錄左京皇別に住吉朝臣上毛野同祖豐城入彦命五世孫多奇波世君之後也とあり住吉は常陸國茨城郡の地名なるべし  
○綱主、金本曾本綱を繩に作る  
○文忌寸、錄左京諸蕃に文宿禰出漢高皇帝之後鸞王也とあり  
○武生連、錄左京諸蕃に武生宿禰王仁孫阿浪古首之後也とあり

繼從五位下、以從五位上中臣、朝臣鷹主、爲神祇大副、從五位下秋篠朝臣安人、爲大判事、大外記右兵衛佐如故、從五位上巨勢朝臣總成、爲主殿頭、從五位下路真人豐長、爲左京亮、從五位下巨勢朝臣人公、爲肥前守、○乙未、授外正六位上大伴直奈良麻呂、外正八位下遠田臣押人、並外從五位下、外從七位下丈部善理、贈外從五位下善理、陸奥國磐城郡人也、八年從官軍至膽澤、率師渡河、官軍失利、奮而戰死、故有此贈焉、  
○癸卯、諸國倉庫不可相接、一倉失火、合院燒盡、於是勅、自今以後、新造倉庫各相去十丈已上、隨處寬狹量宜置之、○辛亥、陸奥介從五位下文室真人大原爲兼鎮守副將軍、先是五位已上位田身歿之後、例給一年、如無子者、當年收之、至是無問有子無子、聽同給一年矣、○三月丙寅、故右大臣從二位吉備朝臣眞備、大和國造正四位下大和宿禰長岡等、刪定律令廿四條、辨輕重之舛錯、矯首尾之差違、至是下詔、始行用之、○己巳、授從五位下高嶋女王、從五位上、○丁丑、勅令右大臣已下五位已上造甲、其數各有差、其五位殷富者、特增其數、以廿領爲限、其次十

領、○辛巳、以從五位下秋篠朝臣安人爲少納言、右兵衛佐如故、從五位下藤原朝臣道繼爲大監、物從五位上篠嶋王爲左大舍人、頭從五位下長津王爲圖書頭、從五位下八上王爲內禮正、從五位下紀朝臣乙佐美爲散位、助從五位上調使、王爲諸陵頭、從五位下巨勢朝臣廣山爲大藏少輔、從五位下乙平王爲造酒正、從五位上廣上王爲鍛冶正、○壬午、授無位於宿禰乙女、紀朝臣家主、並從五位下、又授外從五位下上道、臣千若女、從五位下、○癸未、太政官奏言、謹案禮記曰、天子七廟、三昭三穆、與太祖之廟而七、又曰、舍故而諱新、注曰、舍親盡之祖、而諱新死者、今國忌稍多、親世亦盡、一日万機、行事多滯、請親盡之忌、一從省除、奏可之、○丙戌、仰京畿七道國郡司造甲、其數各有差、○夏四月乙未、近衛將監從五位下兼常陸大掾池原公綱主等言、池原上毛野二氏之先、出自豐城入彦命、其入彦命子孫、東國六腹朝臣、各因居地、賜姓名、氏斯乃古今所同、百王不易也、伏望因居地名、蒙賜住吉朝臣、勅綱主兄弟二人、依請賜之、○戊戌、左大史正六位上文忌寸最弟播磨少目正八位上武



○幸逢明時、幸字は諸本に據て補ふ。  
 ○百濟久素王時、百濟の二字は金本閣本に據て補ふ久素王即ち貴須王なり九年七月紀に注す。  
 ○王仁、應神紀十五年に天皇問阿直岐曰如勝汝博士亦有耶對曰有王仁者是秀也時遣上毛野君祖荒田別巫別於百濟仍徵王仁也また十六年に春二月王仁來之則太子菟道稚郎子師之習諸典籍於王仁莫不通達故所謂王仁者是書首等之始祖也さあり亦古事記にも見ゆ。  
 ○文武生、原本文を又にして作る諸本に據て改む。  
 ○雨夜神、此神を從五位下に叙する事寶龜五年三月戊申紀に見ゆ。  
 ○大虫神、此神を從五位下に叙する事も寶龜十一年十二月甲辰紀に見ゆ此條恐くは誤ならむ。  
 ○足羽神、神名式越前國足羽郡足羽神社あり。  
 ○部内、原本部を郡に作る金本曾本に據て改む。  
 ○神王第、原本第を弟に作る誤なること明なれば

生、連眞象等言、文忌寸等、元有二家、東、文稱直、西、文號首、相比行事、其來遠焉、今東、文學、家既登宿禰、西、文漏恩猶沈、忌寸、最弟等幸逢明時、不蒙曲察、歷代之後、申理無由、伏望同賜榮號、永貽孫謀、有勅責其、本系、最弟等言、漢、高帝之後、曰鸞鸞之後、王狗、轉至百濟、百濟久素王時、聖朝遣使徵召、文人、久素王即以狗孫王仁貢焉、是文、武生等之祖也、於是、最弟及眞象等八人賜姓宿禰、○庚子、叙越前、國雨夜神、大虫神、並從五位下、○乙巳、叙從五位下、大虫神、從四位下、同國足羽神、從五位下、○戊申、駿河、國駿河郡、大領正六位上、金刺舍人廣名爲國造、山背國、部内、諸寺浮圖、經年稍久、破壞處多、詔遣使咸加修理焉、○己酉、授從五位下、石川、朝臣美奈岐麻呂、從五位上、以從五位下藤原朝臣緒繼爲侍從、○丁巳、車駕幸彈正、尹神、王第宴飲、授其女淨庭王、從五位下、○五月癸亥、大藏卿從四位上石川朝臣豐人卒、○乙丑、天皇以天下諸國頻苦旱疫、詔停節宴、授無位紀朝臣河内子從五位下、○辛未、大宰府言、豐後、日向、大隅等國飢、又紀伊國飢、並賑給之、○乙亥、唐人正六位

改む  
 ○五月、石川朝臣豐人卒、此事九年五月紀に既に見ゆ、何れか誤あらむ。  
 ○節宴、類史節會に作る。  
 ○江田忌寸、姓氏錄に載せず。  
 ○藤原朝臣菅繼卒、寶龜四年正月紀始見、出雲守常陸守大宰少貳陰陽頭等を歷任す。  
 ○其正六位上者、其字は金本淀本に據て補ふ。  
 ○授收常荒不用之田、常荒とは常に水害旱損等ありて不用の田を云、授收は之を檢査して用なきものは官に收むるを云、原本授を授に作る類史に據て改む。  
 ○天平十四年云々、天平十四年九月紀に左右京畿内班田使を任ずる事見え、たれと勝寶七歲紀には所見なし。  
 ○八月、得共其利、原本得共を無失に作る金本閣本淀本に據て改む。

上王希逸、賜姓江田忌寸、情願也、○己卯、右京大夫從四位下藤原朝臣菅繼卒、○丁亥、供奉中宮周忌齋會雜色人九十六人、隨勞輕重、賜爵有差、其正六位上者、廻授其子、二百九十三人、賜祿亦有差、○戊子、先是諸國司等、授收常荒不用之田、以班百姓、口分、徒受其名、不堪輸租、又王臣家、國郡司、及殷富百姓等、或以下田、相易上田、或以便、相換不便、如此之類、觸處而在、於是、仰下所司、却據天平十四年勝寶七歲等圖籍、咸皆改正、爲來年班田也、○六月庚寅朔、日有蝕之、○壬辰、供奉皇后宮周忌齋會雜色人等二百六十七人、准前例、賜爵及物各有差、○甲午、從五位下石浦王爲越中守、從五位下文室眞人眞屋麻呂爲但馬介、○己亥、鐵甲三千領、仰下諸國、依新樣修理、國別有數、○甲寅、先是去延曆三年、下勅、禁斷王臣家、及諸司、寺家等、專占山野之事、至是遣使山背國勘定、公私之地、各令有界、恣聽百姓得共、其利、若有違犯者、科違勅罪、其所司阿縱者、亦與同罪、授正六位上因幡國造國富、外從五位下、○乙卯、奉黑馬於丹生川上神、旱也、○秋七月庚申朔、以炎旱經



○副使、金本曾本使字なし  
 ○從五位下正月王、從五位下の四字は金本曾本淀本に據て補ふ正月王は用明天皇々子來目王の後なり  
 ○亡父、原本亡を己に作る金本に據て改む  
 ○屬籍將盡、正月王は用明天皇の後なれど源流已に遠く王籍にあるべき世數の盡きむとすさなり來目王より正月王に至る世系詳ならず來目王の支孫にて五世孫なるべし  
 ○不殊疋庶、四夫庶人に異ならずなり原本疋を足に作る關本曾本金イ本に據て改む疋は匹の俗字なり  
 ○登美真人、錄左京皇別に登美真人出自諡用明皇子來目王也とあり

旬奉幣畿内、諸名神に授無位尾張、架古刀自從五位下、○癸亥、以從五位下藤原朝臣葛野麻呂爲少納言、從五位下紀朝臣真人爲中務少輔、從五位下石淵王爲大監物、從四位下當麻王爲左大舍人頭、備前守如故、從五位上篠嶋王爲右大舍人頭、從五位下藤原朝臣道繼爲助、從五位上藤原朝臣刷雄爲陰陽頭、從四位上佐伯宿禰眞守爲大藏卿、右大弁從四位上石川朝臣眞守爲兼右京大夫、從五位下淺井王爲主馬頭、丹波守如故、從五位下安倍朝臣名繼爲右兵庫頭、從五位下大神朝臣仲江麻呂爲內兵庫正、從五位下橘朝臣安麻呂爲甲斐守、○壬申、從四位下大伴宿禰弟麻呂爲征夷大使、正五位上百濟王俊哲從五位上多治比真人濱成從五位下坂上大宿禰田村麻呂從五位下巨勢朝臣野足並爲副使、○己卯、故少納言從五位下正月王男藤津王等言、亡父存日、作請姓之表、未及上聞、奄赴泉途、其表傳、臣正月、源流已遠、屬籍將盡、臣男四人女四人、雖蒙王姓、以世言之、不殊疋庶、伏望蒙賜登美真人姓、以從諸臣之例者、請從父志、欲蒙願姓、有勅許焉、○辛巳、伊豫國

○白雀、曾本淀本雀を鶴に作る下同じ  
 ○進位一級、原本位を階に作る類史に據て改む  
 ○鷹戸、鷹飼なり  
 ○賀智、原本智を知に作る諸本及上下文に據て改む  
 ○安都朝臣、原本都を部に作る金本に據て改む  
 ○百濟王仁貞卒、寶龜八年正月紀始見、衛門員外佐近衛員外少將播磨介備前介同守中宮亮木工頭等を歷任す  
 ○八月、伊勢大神宮、原本大を太に作る金本曾本淀本に據て改む下同じ  
 ○財殿、今の寶殿なり  
 ○瑞籬一重、金本淀本及紀略籬を垣に作る一重は宮本三重に作る類史紀略此と同じ  
 ○中衛中將大和守、原本中を大に作る金本及類史

獻白雀、詔國司及出瑞郡司進位一級、但正六位上者迴授一子、其獲雀人凡直大成、賜爵二級并稻一千束、授國守從五位上菅野朝臣眞道正五位下、介從五位下高橋朝臣祖麻呂從五位上、○丙戌、停止鷹戸、○丁亥、以從五位上藤原朝臣是人爲右少弁、從五位下多治比真人賀智爲宮內少輔、右中弁正五位下多治比真人宇美爲兼武藏守、從五位下三方宿禰廣名爲上野守、從五位下佐伯宿禰岡上爲介、從五位下百濟王忠信爲越後介、從五位下藤原朝臣大繼爲備前介、從五位下藤原朝臣眞鷲爲大宰少貳、○戊子、外從五位下安都宿禰長人爲右京亮、左中弁從四位下百濟王仁貞卒、○八月辛卯、夜有盜燒伊勢大神宮、正殿一字財殿二字御門三間瑞籬一重、從五位下紀朝臣兄原爲中衛少將、出雲守如故、○癸巳、任畿内班田使、○壬寅、詔遣參議左大弁正四位上兼春宮大夫中衛中將大和守紀朝臣古佐美、參議神祇伯從四位下兼式部大輔左兵衛督近江守大中臣朝臣諸魚神祇少副外從五位下忌部宿禰人上於伊勢大神宮奉幣帛、以謝神宮被焚焉、又遣使修造之、○



補任及四年正月五年二月紀等に據て改む  
○廣井連出、自百濟國遊流王也  
○九月、全野女王、原本全を令に作る金本に據て改む  
○物部天神、神名式佐渡國難太郡物部神社とある是なり  
○仰越前云々、原本仰を作に作る金本曾本淀本及紀略に據て改む  
○壞運、原本運を軍に作る今金本曾本淀本に據る○斷伊勢云々、三代格に見ゆ  
○殺牛用祭漢神、皇極紀元年に大早隨村々祝部所、或殺牛馬祭諸社神、類史神祇部に十九年四月越前國祭斷屠牛祭神あり又靈異記に攝津國東生郡撫田村の人聖武天皇の世牛を殺して漢神を祭りしこと見ゆ  
○朝廷、原本廷を庭に作る曾本淀本金一本に據て改む下同じ  
○凡直、勝寶元年五月紀に見ゆ  
○星直、金本星を皇に作る下同じ皇はオホシと訓

壬子、攝津國百濟郡人正六位上廣井造眞成賜姓連、○九月庚申、從四位下全野女王預孫王例、○癸亥、授陸奧國安積郡大領外正八位上阿倍安積、臣繼守外從五位下、以進軍糧也、○甲子、叙佐渡國物部天神從五位下、○甲戌、仰越前丹波、但馬、播磨、美作、備前、阿波、伊豫等國、壞運平城宮、諸門、以移作長岡宮矣、斷伊勢尾張、近江、美濃、若狹、越前、紀伊等國、百姓、殺牛用祭漢神、○丙子、讚岐國寒川郡人正六位上凡直、千繼等言、千繼等先、星直、譯語田朝廷御世、繼國造之業、管所部之塚、於是因官命、氏賜紗拔大押直之姓、而庚午年之籍、改大押字、仍注凡直、是以星直之裔、或爲讚岐直、或爲凡直、方今聖朝、仁均、雲雨、惠及、昆岐、當此明時、冀照覆盆、請因先祖之業、賜讚岐公之姓、勅千繼等戶廿一烟、依請賜之、○丁丑、近衛將監正六位下出雲、臣祖人言、臣等本系、出自天穗日命、其天穗日命十四世孫曰野見宿禰、野見宿禰之後、土師氏、人等、或爲宿禰、或賜朝臣、臣等同爲一祖、之後、獨漏均養之仁、伏望與彼宿禰之族、同預改姓之例、於是賜姓宿禰、○戊寅、讚岐國阿野郡人正六位上

むべきか  
○國造、景行紀に神櫛皇子是讚岐國造之始祖也、あり亦國造本紀に見ゆ  
○紗拔大押直、紗拔は即ち讚岐大押は凡訓通す  
○昆岐、文選七命に出づ昆蟲に同じ昆は蟲の總名岐は蟲行貌也  
○覆盆、上に出づ  
○請因云々、原本請を諸に作る金本曾本淀本に據て改む  
○讚岐公之姓、公字は金本閣本に據て補ふ續後紀承和三年三月讚岐公永直同姓永成等合廿八烟改公賜朝臣と見ゆ  
○同爲一祖之後、同字は金本曾本淀本に據て補ふ  
○賜姓宿禰、出雲宿禰は姓氏錄左京神別に見ゆ  
○阿野郡、今阿野郡に鶴足郡を合せて綾歌郡とす  
○綾公、古事記景行天皇段に建貝見王者讚岐綾君等之祖とあり書紀亦同じ  
○蒙賜朝臣姓、天武紀に十三年十一月綾公賜姓曰朝臣とあり  
○俊哲、原本俊を後に作る金本曾本淀本に據て改む  
○十月、征箭、抄征戰具

綾公菅麻呂等言、己等祖庚午年之後、至于己亥年、始蒙賜朝臣姓、是以和銅七年以往、三比之籍、並記朝臣、而養老五年造籍之日、遠按庚午年籍、削除朝臣、百姓之憂、無過此甚、請據三比籍、及舊位記、蒙賜朝臣之姓、許之、○庚辰、下野守正五位上百濟王俊哲、爲兼陸奧鎮守將軍、○冬十月丁酉、行幸交野、放鷹遊獵、以右大臣別業爲行宮、○己亥、右大臣率百濟王等、奏百濟樂、授正五位下藤原朝臣乙叡、從四位下、從五位下百濟王玄風、百濟王善貞、並從五位上、從五位下藤原朝臣淨子、正五位下、正六位上百濟王貞孫、從五位下、○庚子、車駕還宮、○壬子、仰東海東山二道、諸國、令作征箭三萬四千五百餘具、○甲寅、先是皇太子枕席不安、久不平復、是日向於伊勢大神宮、緣宿禰也、○十一月己未、更仰坂東諸國、辦備軍糧、糒十二萬餘斛、大藏卿從四位上佐伯宿禰眞守卒、○壬戌、授播磨國人大初位下出雲、臣人麻呂、外從五位下、以獻稻於水兒、船瀬也、○甲子、從五位下藤原朝臣葛野麻呂爲右少弁、○丁卯、皇太子自伊勢大神宮至、○十二月庚寅、授正六位上紀朝臣楫繼、從



に唐式云諸府衛士人別弓  
 一張征箭卅隻(征箭和名  
 會夜)とあり  
 (十一月)佐伯宿禰眞守  
 卒、寶字八年十月紀始見、  
 常陸介右京亮兵部少輔同  
 大輔河内守等を歴任す  
 ○播磨國人、國字は金本  
 曾本淀本に據て補ふ  
 ○水兒船瀬、八年十二月  
 紀に見ゆ  
 (十二月)便娶、原本娶  
 を聚に作る金本曾本淀本  
 に據て改む  
 ○開泰、原本泰を泰に作  
 る金本曾本に據て改む  
 ○佐婆部首、考證に推古  
 十一年紀周芳姿婆和名抄  
 郡名周防國佐波波音馬  
 因此地命姓也とあり  
 ○牛養等先祖、等字は金  
 本曾本淀本に據て補ふ  
 ○紀田鳥宿禰、考證に舊  
 事紀云都怒國造難波高津  
 朝紀臣同祖都怒足尼兒田  
 鳥宿禰定賜國造案都怒  
 今周防國都濃郡也と云  
 ○幸藉時來、原本時を所  
 に作る金本に據て改む  
 ○岡田臣牛養、臣字は金  
 本及上文に據て補ふ  
 ○清道造、録右京諸蕃清  
 道連百濟國人恩率納比巨  
 止之後也とあり

五位下、○甲午、伊豫國越智郡人正六位上越智直廣川等五人言、廣川  
 等七世祖紀博世、小治田朝廷御世、被遣於伊豫國、博世之孫忍人、便  
 娶越智直之女、生在手、在手、庚午年之籍、不尋本源、誤從母、姓自爾以來、  
 負越智直、姓今廣川等、幸屬皇朝開泰之運、適值群品樂生之秋、請依本  
 姓、欲賜紀臣許之、○丙申、讚岐國寒川郡人外從五位下佐婆部首牛養  
 等言、牛養等先祖、出自紀田鳥宿禰、田鳥宿禰之孫米多、臣難波高津宮  
 御宇天皇御世、從周芳國遷讚岐國、然後遂爲佐婆部首、今牛養幸藉時  
 來、獲免、負擔雲雨之施、更無所望、但在官命氏、因土賜姓、行諸往古傳  
 之來、今其牛養等居處在寒川郡岡田村、臣望賜岡田臣之姓、於是牛  
 養等戶廿烟、依請賜之、外從五位下岡田臣牛養爲大學博士、外從五位  
 下麻田連眞淨爲助教、伊勢介如故、從五位下紀朝臣楫繼爲刑部少輔、  
 外從五位下清道造岡麻呂等、改造賜連姓、○癸卯、授從四位下八上女  
 王從三位、從五位上多治比真人邑刀自紀朝臣若子、並從四位下、  
 續日本紀卷第四十

(内閣本慶長寫本奥書)  
 本云

延文元年 丙申六月修補之

應永第三之曆沾洗初一日取目錄訖

正四位上行神祇大副卜部兼豐

正三位行侍從卜部朝臣兼熙

治部卿卜部兼敦



### 題續日本紀後

本朝有六國史曰日本紀曰續日本紀曰日本後紀曰續日本後紀曰文德實錄曰三代實錄是也蓋此書也上始自桓武天皇延曆十年而通計亘帝王九主及年九十餘歲矣其間外顯朝廷之行事內詳人臣之進退國家之消息百官之褒貶豈不審于茲哉今書肆兩三輩欲鏤諸梓需僕校讐僕一介之書生未能達其旨至若

本朝如斯之書往往傳寫三已豕亥之差殆非無矣自非博識強記爭應其求雖然一覽之次粗點其傍便於幼學衍文殘字甚多庶幾有道之士證焉是予所望也

明曆丁酉秋日

立野春節書于蓬生菴

昭和十五年十月三十日印刷  
昭和十五年十一月六日發行

不許  
複製

增補  
六國史  
四卷  
(續日本紀卷下)

預約金二圓

編纂者 佐伯有義  
東京市淀橋區西大久保一丁目三七三番地

發行者 櫻木俊晃  
東京市麴町區有樂町二丁目三番地朝日新聞社

印刷者 小坂孟  
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 大日本印刷株式會社  
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

發行所

東京大阪  
朝日新聞社



卅 7E-45

金行記

六日  
時日  
海關  
據

不  
有

六  
國  
皮

六  
日  
海  
關  
據

六  
日  
海  
關  
據

民國十五年十一月廿六日  
禮拜一

金二圓











